

市民意見リーダー 調査結果報告書

(2022 年度)



郡山市

< 目 次 >

I 調 査 概 要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 回答方法別	3
(4) 職業別	3
(5) 居住年数別	3
(6) 居住形態別	3
(7) 地域別	4
(8) 現住所の直前の居住地別	5
(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)	5
8. 回答者の属性《地域別集計》	6
9. 回答者の属性《年代別集計》	12

II 調 査 結 果

1. 幸福度の現状について	13
(1) 幸福度	13
(2) 幸福度の判断の際に重視した事項(複数回答)	15
2. 郡山市の住みやすさなどについて	22
(1) 住みやすさへの評価	22
(2) 今後の居留意向	25
3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度	28
(1) まちづくりへの満足度結果一覧	28
(2) これからの取り組み重要度結果一覧	32
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》	35
(4) 分野別属性別満足度結果	37
(5) 分野別属性別重要度結果(複数回答)	51

4. 気候変動対策（地球温暖化対策）について	53
(1) 自然環境の変化への不安感	53
(2) 気候変動対策への関心	55
(3) 日常生活の中で環境に配慮している取組み（複数回答）	57
(4) より良い環境づくりのために取組むべきこと（複数回答）	65
5. 市への意見や要望など	73
【分野Ⅰ】産業・仕事の未来	73
【分野Ⅱ】交流・観光の未来	73
【分野Ⅲ】学び育む子どもたちの未来	74
【分野Ⅳ】誰もが地域で輝く未来	74
【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来	75
【分野Ⅵ】基盤的取組	76
 (付) 調査票様式	
調査票	77

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 幸福度の現状について…質問 2 問
- (2) 住みやすさについて…質問 2 問
- (3) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 43 項目についての満足度）…質問 43 問
- (4) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 43 項目についての重要度）…質問 1 問
- (5) 気候変動対策（地球温暖化対策）について…質問 4 問
- (6) 対象者の基本属性について…質問 8 問
- (7) 市への意見や要望など（自由記載）…質問 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の者
- (3) 標本数：1,500 人（男性 750 人、女性 750 人）

<内訳>

		標 本 数	性 別		年 代 別						
			男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全 体		1,500	750	750	36	194	231	277	260	261	241
地 区 別	旧市内	569	277	292	15	77	84	103	107	98	85
	富田	123	62	61	4	16	23	24	20	19	17
	大槻	153	76	77	4	18	23	28	25	27	28
	安積	158	79	79	4	21	25	30	26	26	26
	三穂田	19	10	9	0	2	2	4	3	4	4
	逢瀬	18	10	8	0	2	2	3	3	4	4
	片平	30	15	15	0	4	4	6	4	6	6
	喜久田	55	28	27	2	8	10	11	8	8	8
	日和田	48	24	24	2	6	8	9	8	8	7
	富久山	172	87	85	3	26	32	33	29	27	22
	湖南	13	7	6	0	0	1	2	2	4	4
	熱海	23	12	11	0	1	2	4	4	6	6
	田村	80	42	38	2	9	11	14	13	15	16
	西田	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	中田	20	11	9	0	2	2	3	4	5	4

- (4) 抽出方法：住民基本台帳(令和4年4月27日現在)からの年代、地域を考慮した無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：令和4年5月13日～令和4年5月28日(16日間)
- (7) その他：これまで「市民意識調査」として2009年度から実施。アンケートの回答は市民の皆さまの意見としていただくものであることから、2018年度から「市民意見レーダー」と名称を変更。

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値(%)は単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
例：回答者総数3人で、「はい」：1人(33.3%)、「いいえ」：1人(33.3%)、「無回答」：1人(33.3%)の場合等、合計しても必ずしも100%とはならない。
- (3) 図表中の数値(%)の合計と分析文中の数値(%)の合計は、数値(%)を単位未満四捨五入している影響により一致しないことがあります。
- (4) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- (5) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

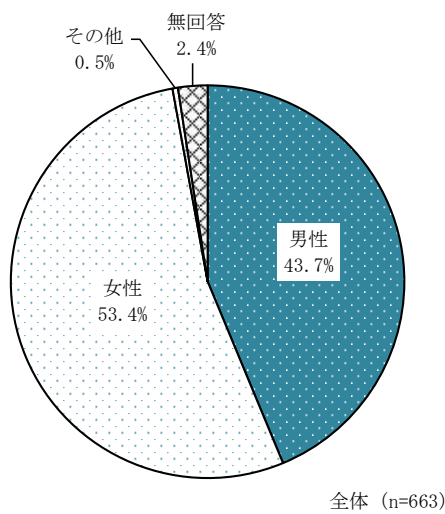
- (1) 棒グラフ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過を沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散布図：2つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

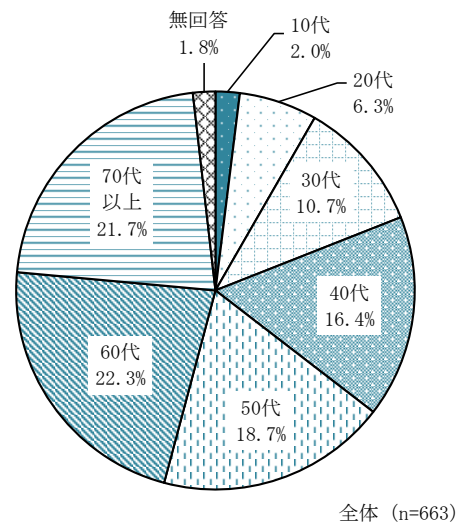
- (1) 有効回収数：663件
- (2) 有効回収率：44.2%(対前年比 -4.0ポイント)

7. 回答者の属性

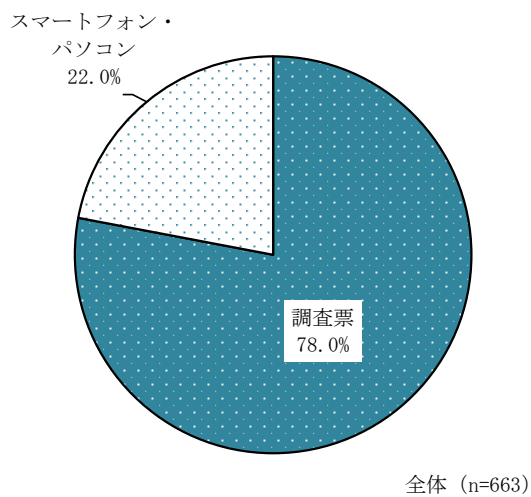
(1) 性別



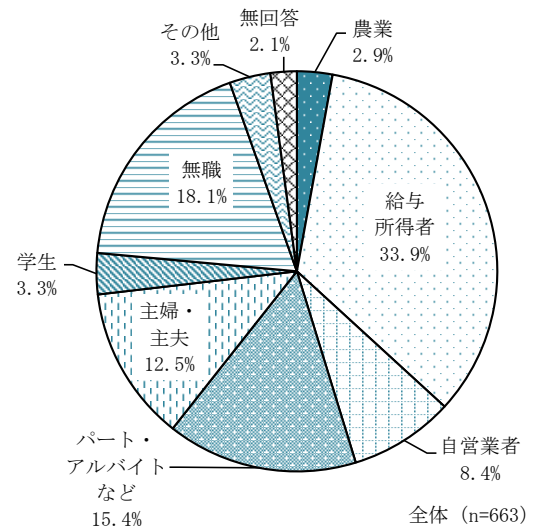
(2) 年代別



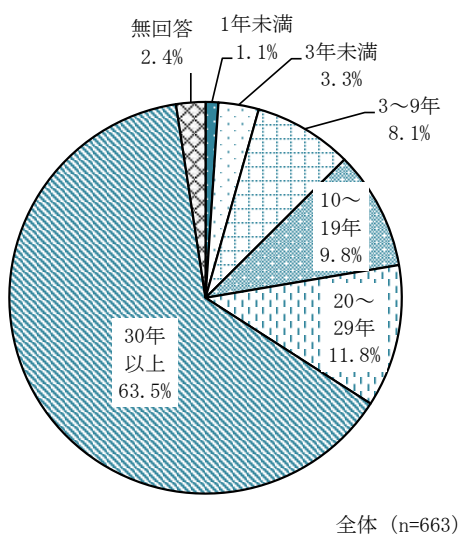
(3) 回答方法別



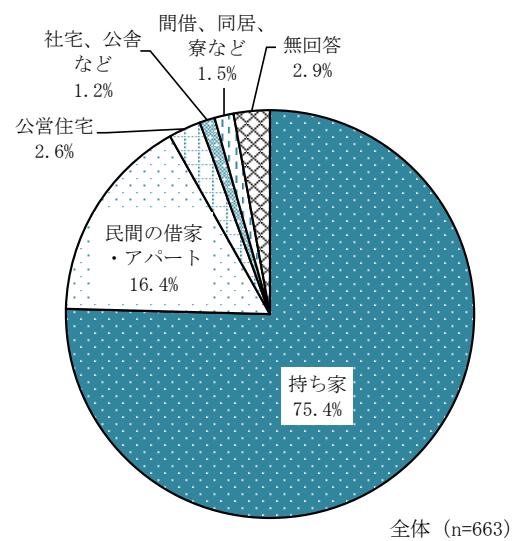
(4) 職業別



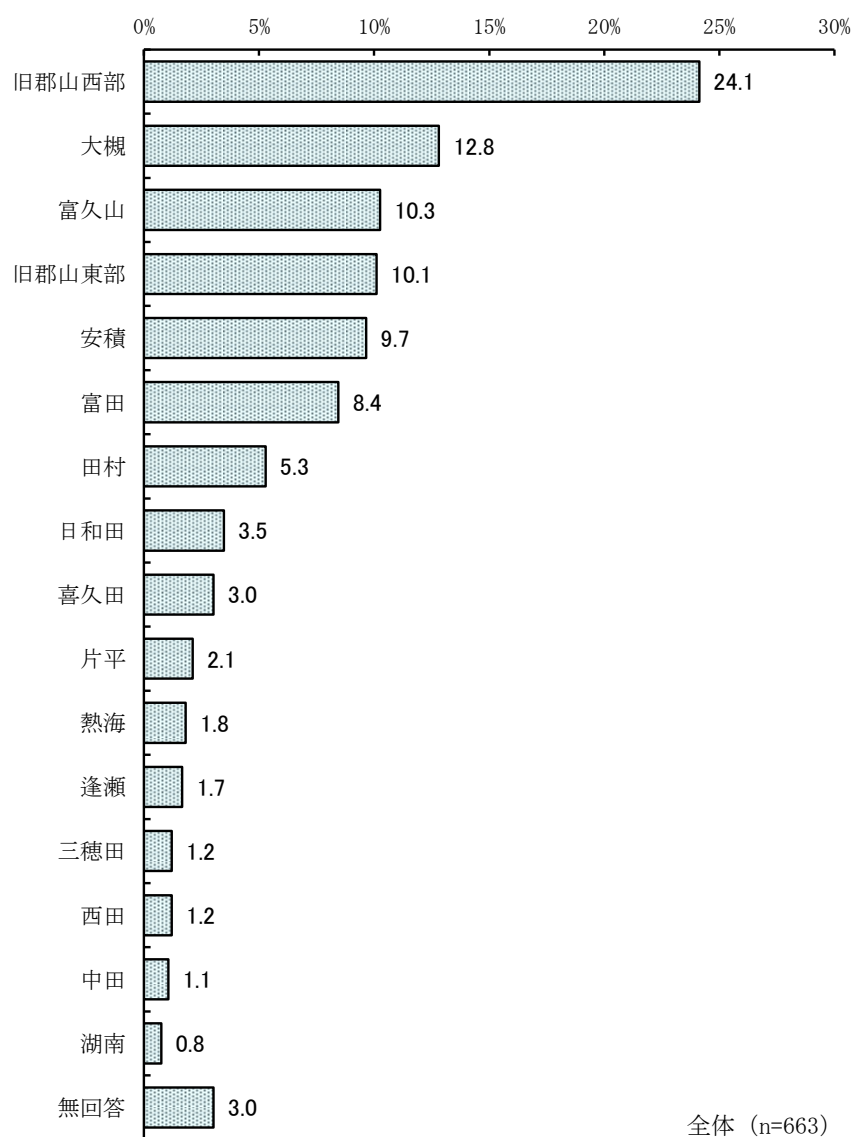
(5) 居住年数別



(6) 居住形態別



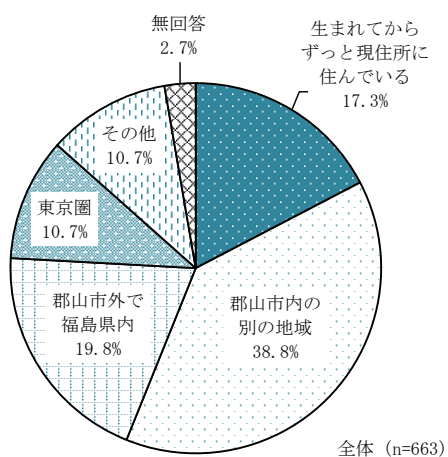
(7) 地域別



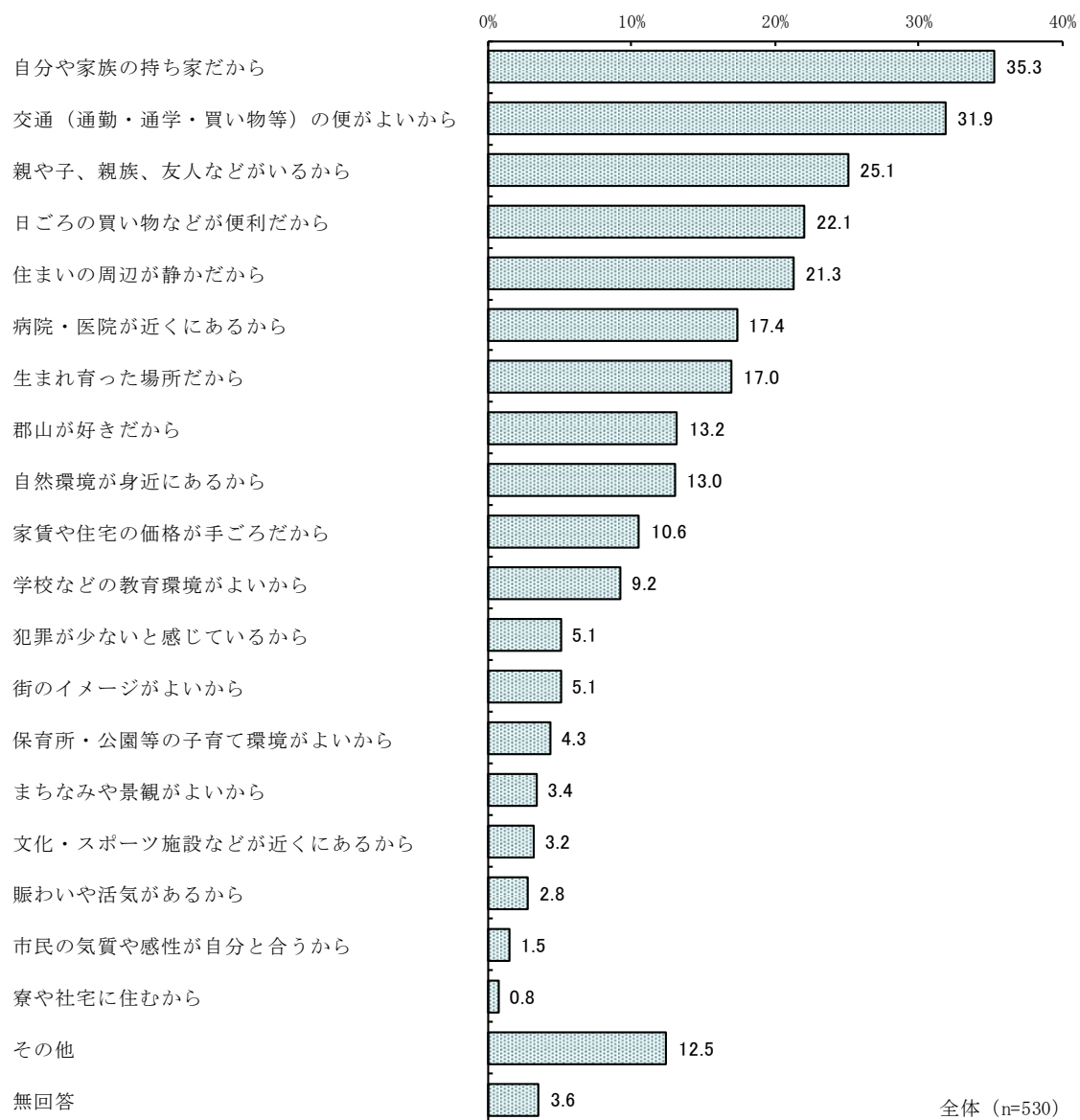
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(8) 現住所の直前の居住地別

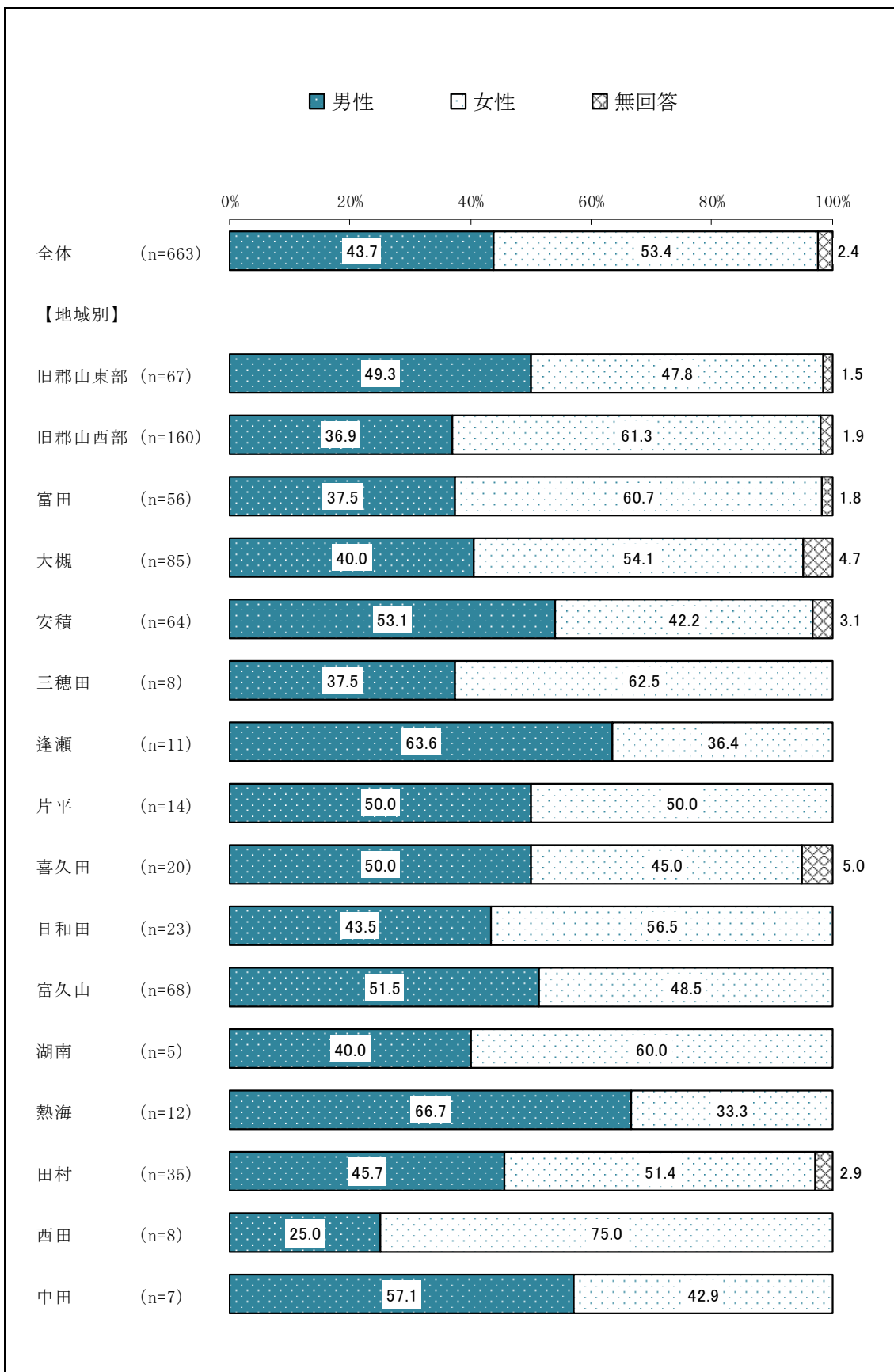


(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)

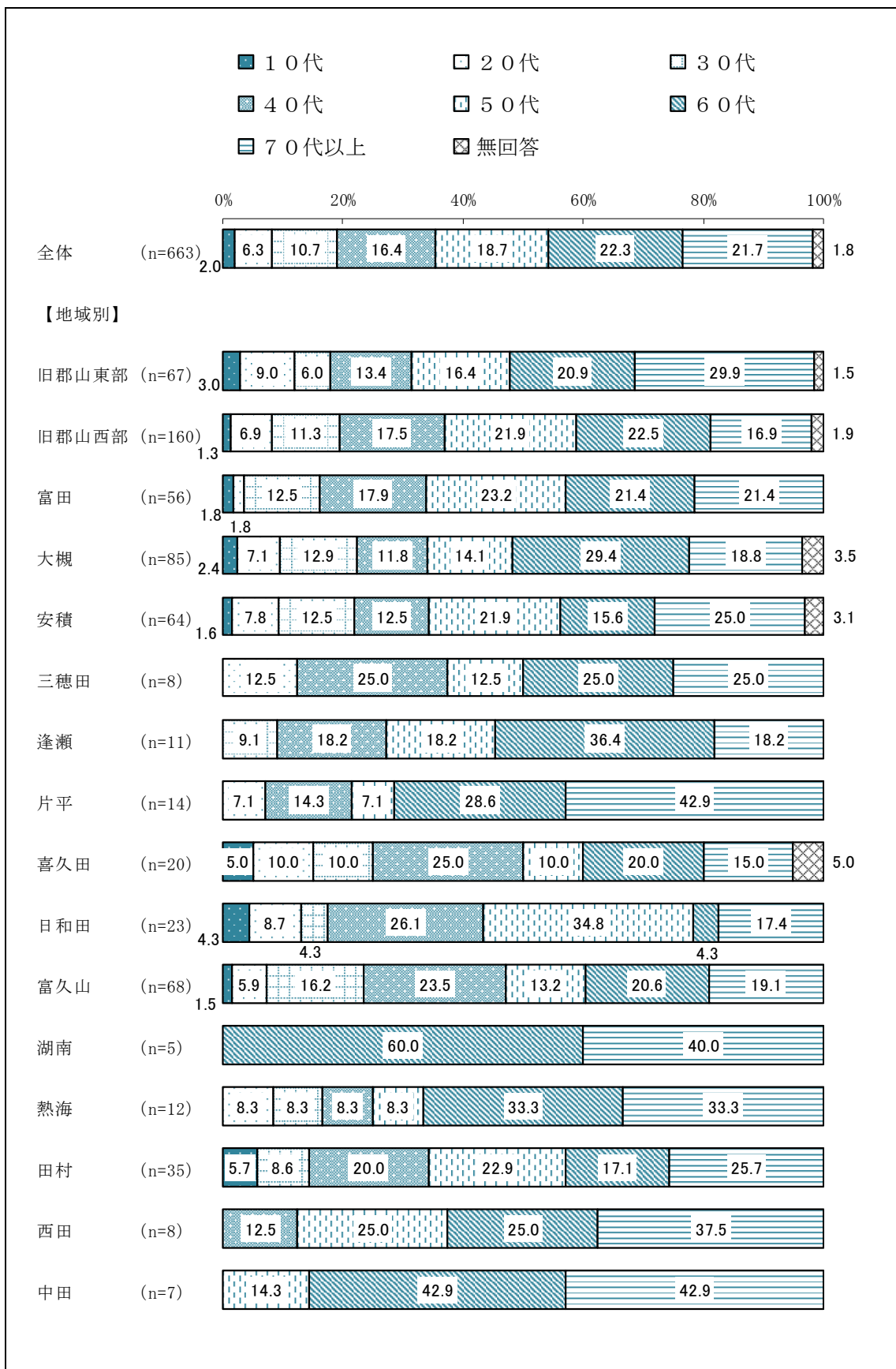


8. 回答者の属性《地域別集計》

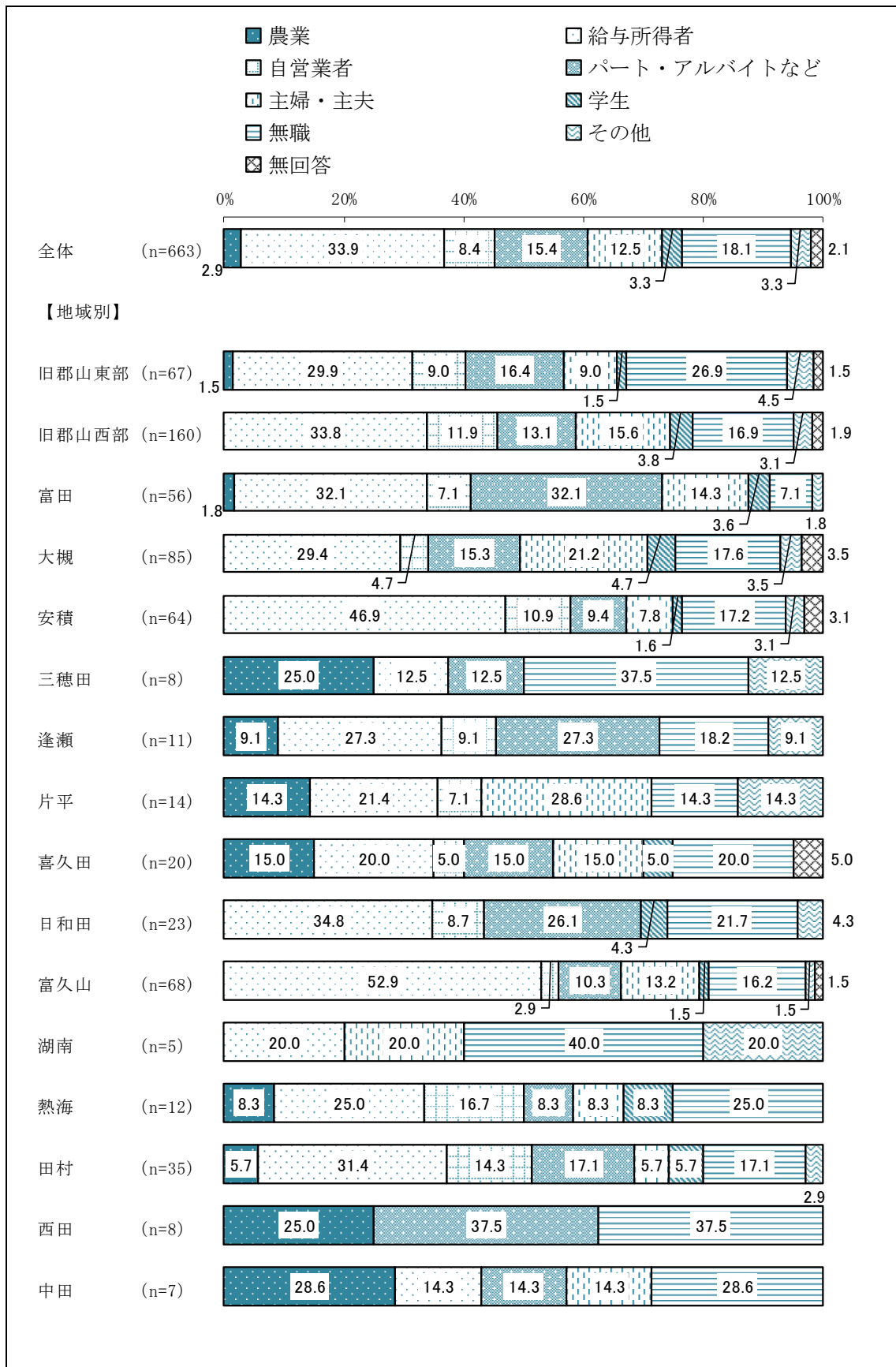
【性別】



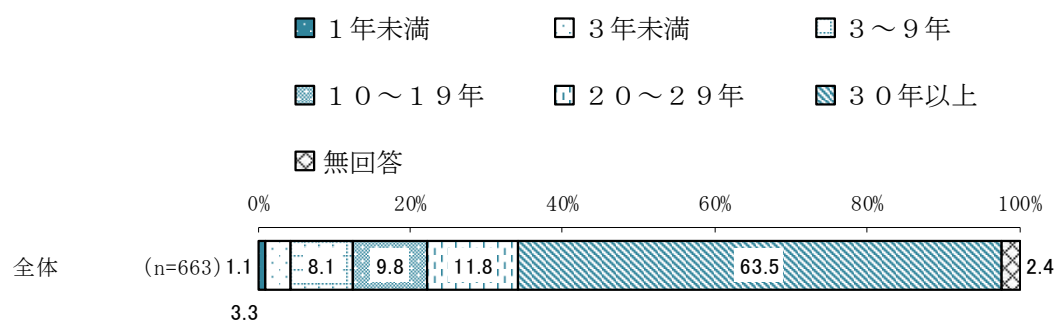
【年代別】



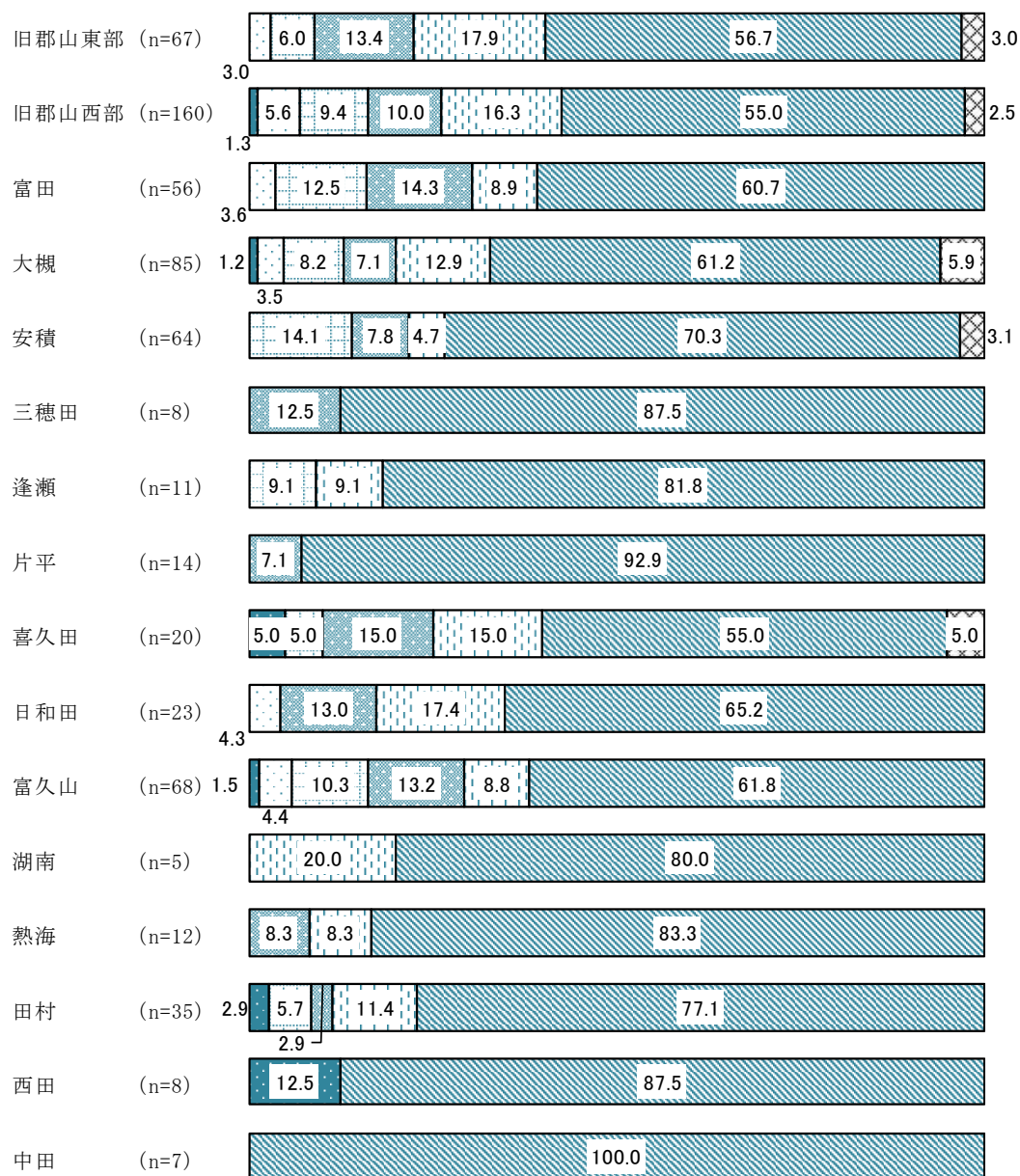
【職業別】



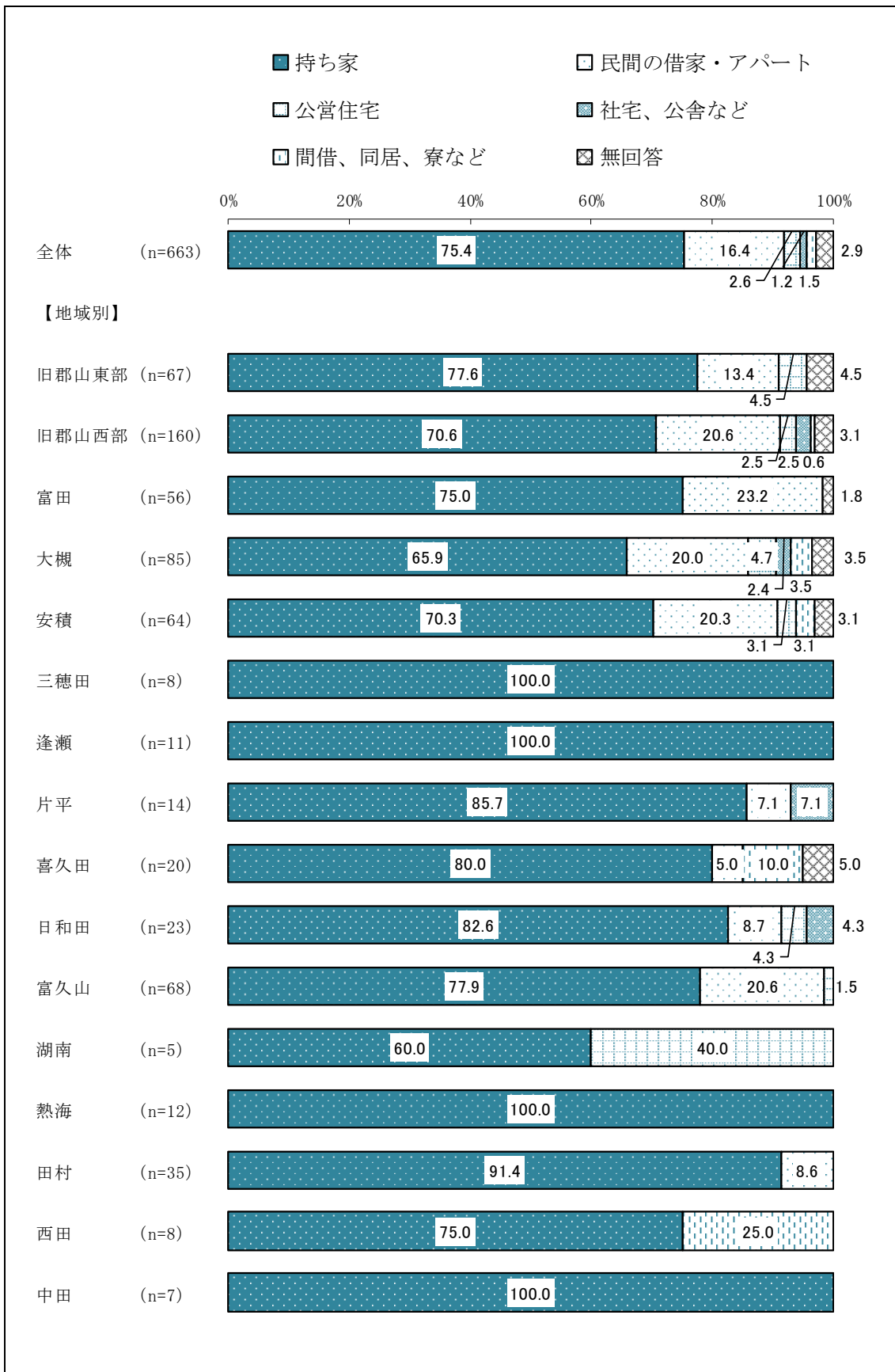
【居住年数別】



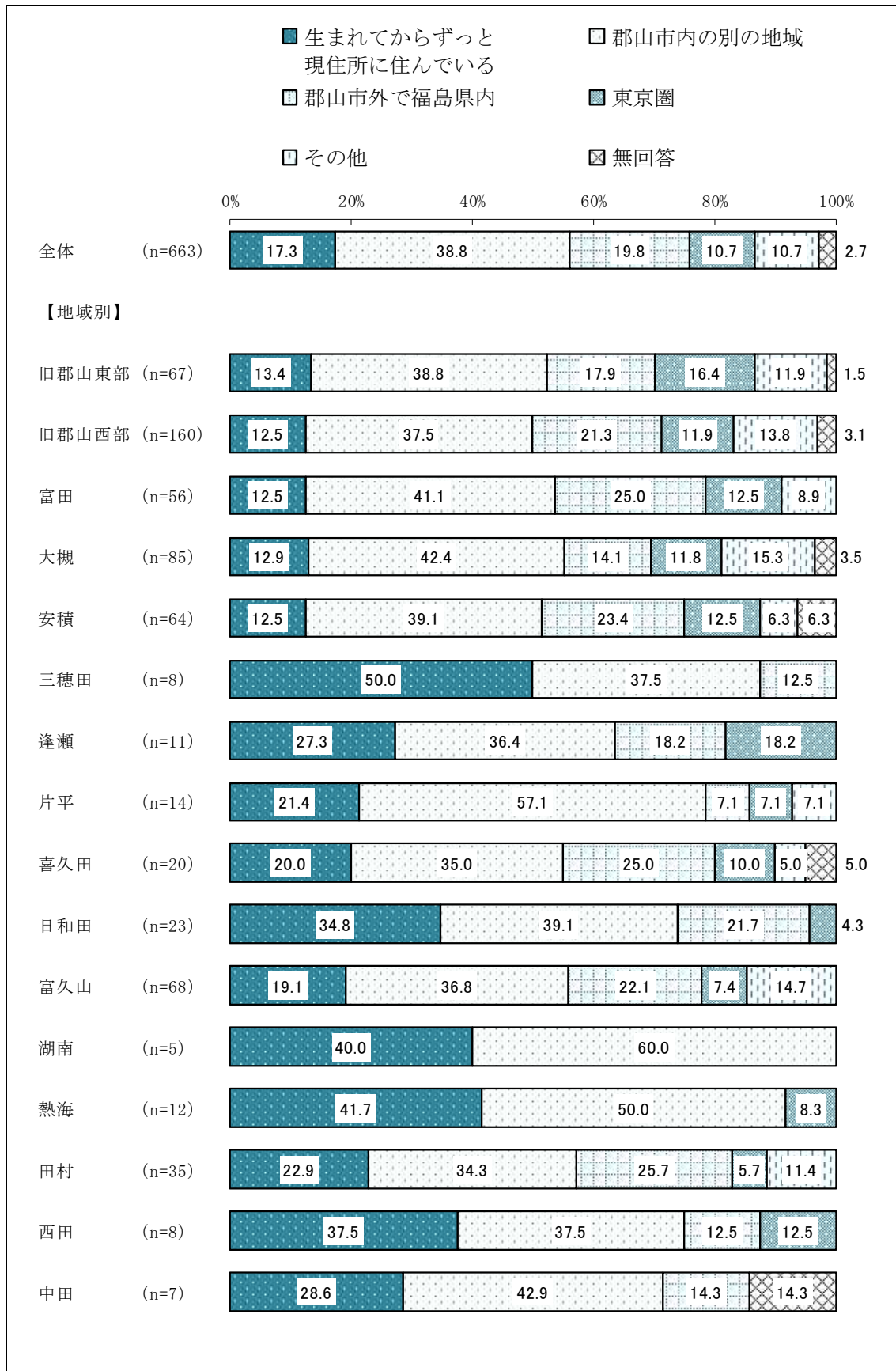
【地域別】



【居住形態別】

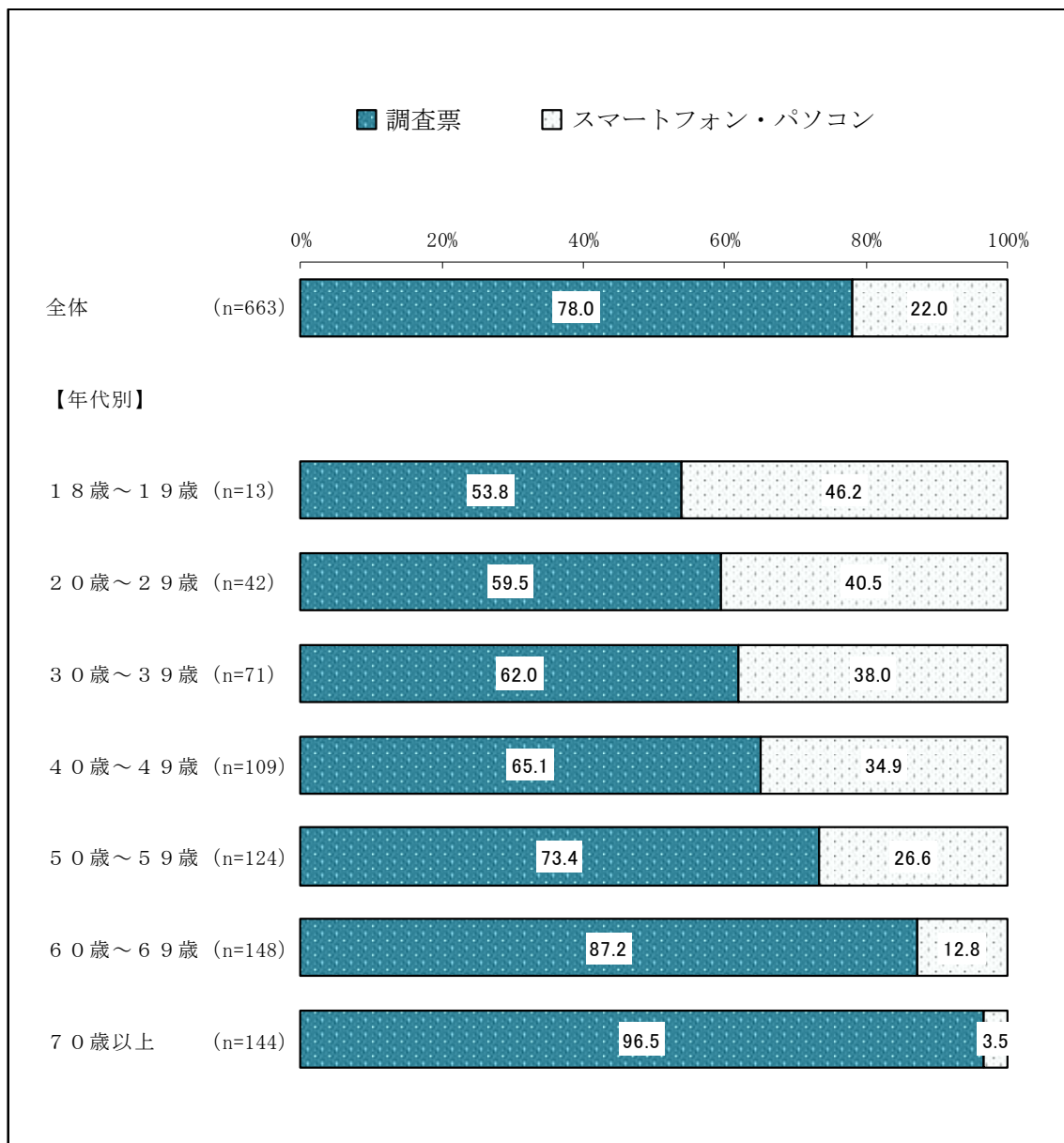


【直前の居住地別】



9. 回答者の属性《年代別集計》

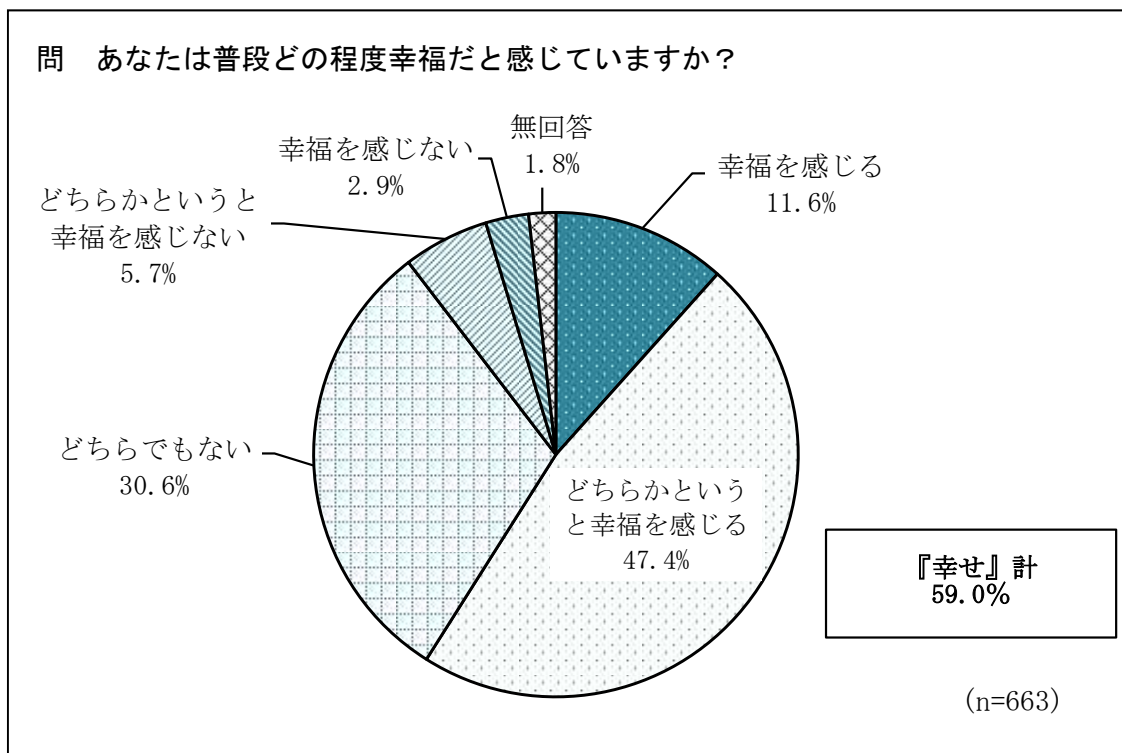
【回答方法別】



Ⅱ 調 査 結 果

1. 幸福度の現状について

(1) 幸福度



6割の市民は幸せと感じています

【全体結果】

「幸福を感じる（とても幸せ）」(11.6%)と「どちらかという和幸福を感じる（どちらかという和幸福を感じる）」(47.4%)の両者を合計すると『幸せ』(59.0%)となっています。

一方、「どちらかという和幸福を感じない（どちらかという和幸福を感じない）」(5.7%)と「幸福を感じない（不幸せ）」(2.9%)を合計すると『不幸せ』(8.6%)となっています。

【属性別結果】(図 1-1 参照)

① 性別

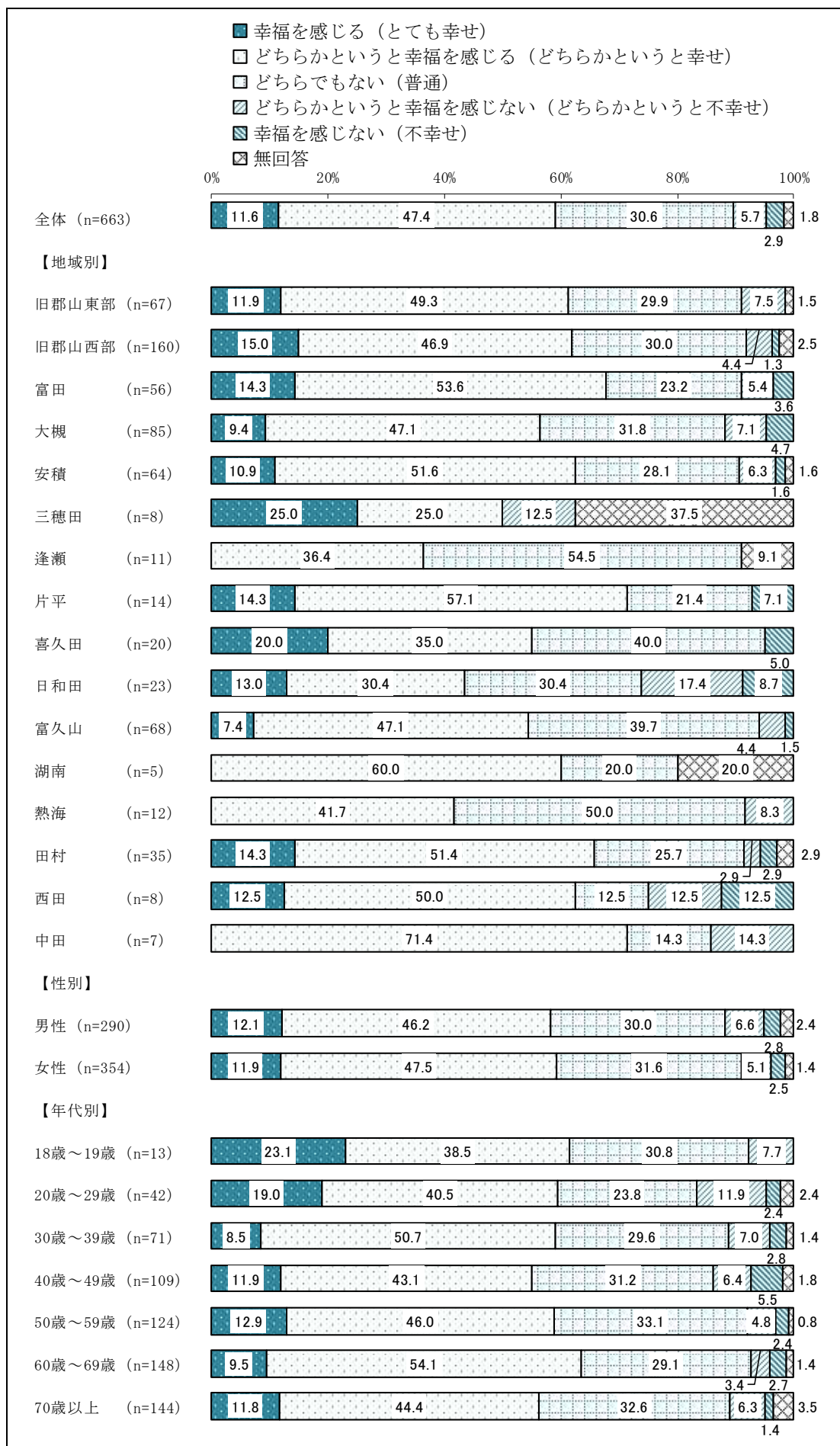
『幸せ』の割合は、女性(59.3%)の方が男性(58.3%)よりもやや高くなっています。

② 年代別

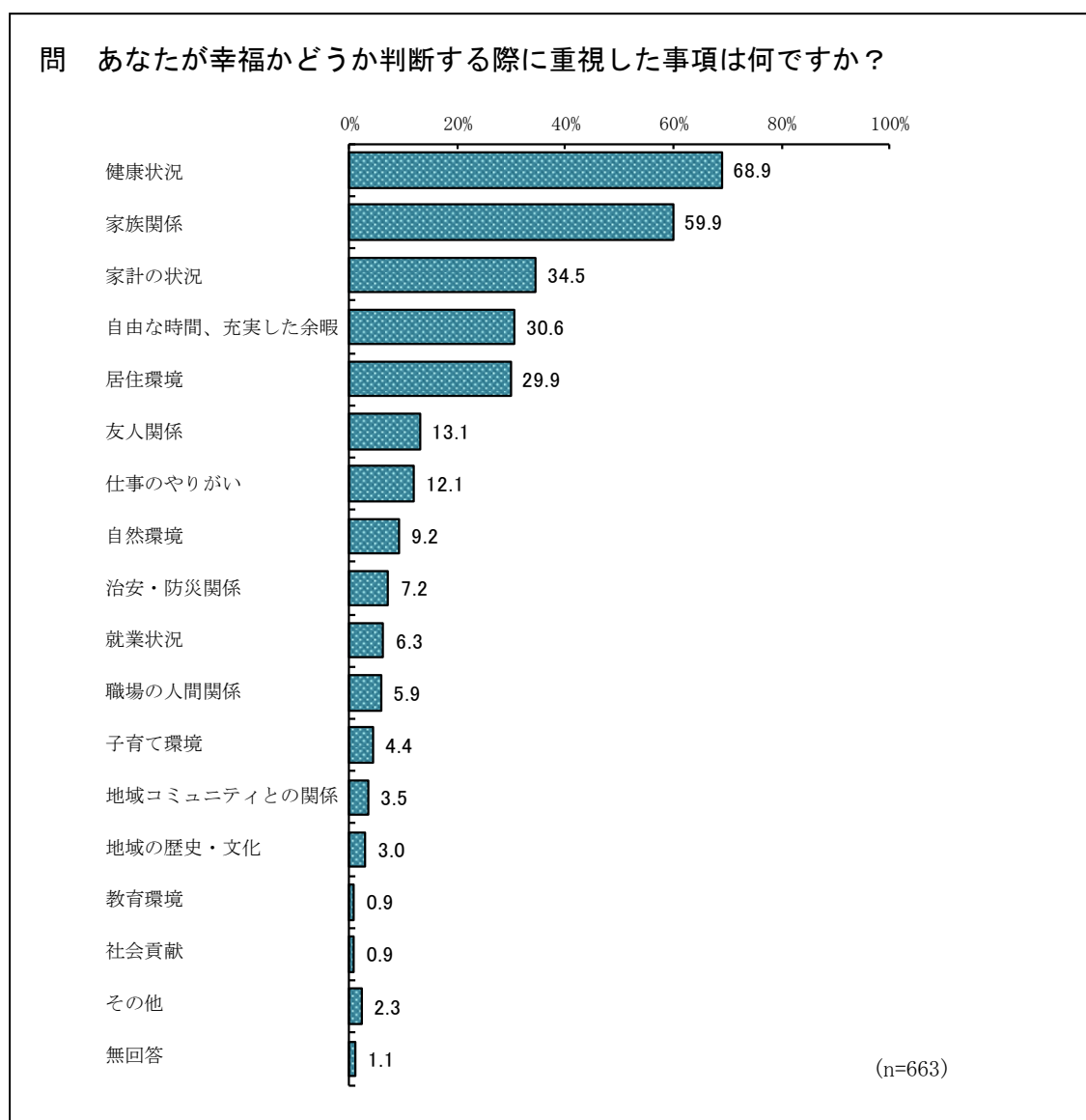
『幸せ』の割合は、60代(63.5%)で最も高くなっています。

なお、10代については回答数が少ないため、参考として数値のみ掲載します(以降同様)。

図 1-1 幸福度（地域別／性別／年代別）



(2) 幸福度の判断の際に重視した事項（複数回答）



——— 幸福度の判断には「健康状態」、「家族関係」を重視 ———

【全体結果】

幸福かどうか判断する際には「健康状態」（68.9%）、「家族関係」（59.9%）が特に重視されており、「家計の状況」（34.5%）、「自由な時間、充実した余暇」（30.6%）、「居住環境」（29.9%）の順に続いています。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

男性、女性ともに「健康状態」、「家族関係」の割合が高く、性別による大きな差はみられません。

② 年代別

各年代ともに「健康状態」、「家族関係」の割合が高くなっています。

40代では、「家族関係」（62.4%）が「健康状態」（60.6%）をやや上回っています。

図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～1/6～（地域別／性別／年代別）

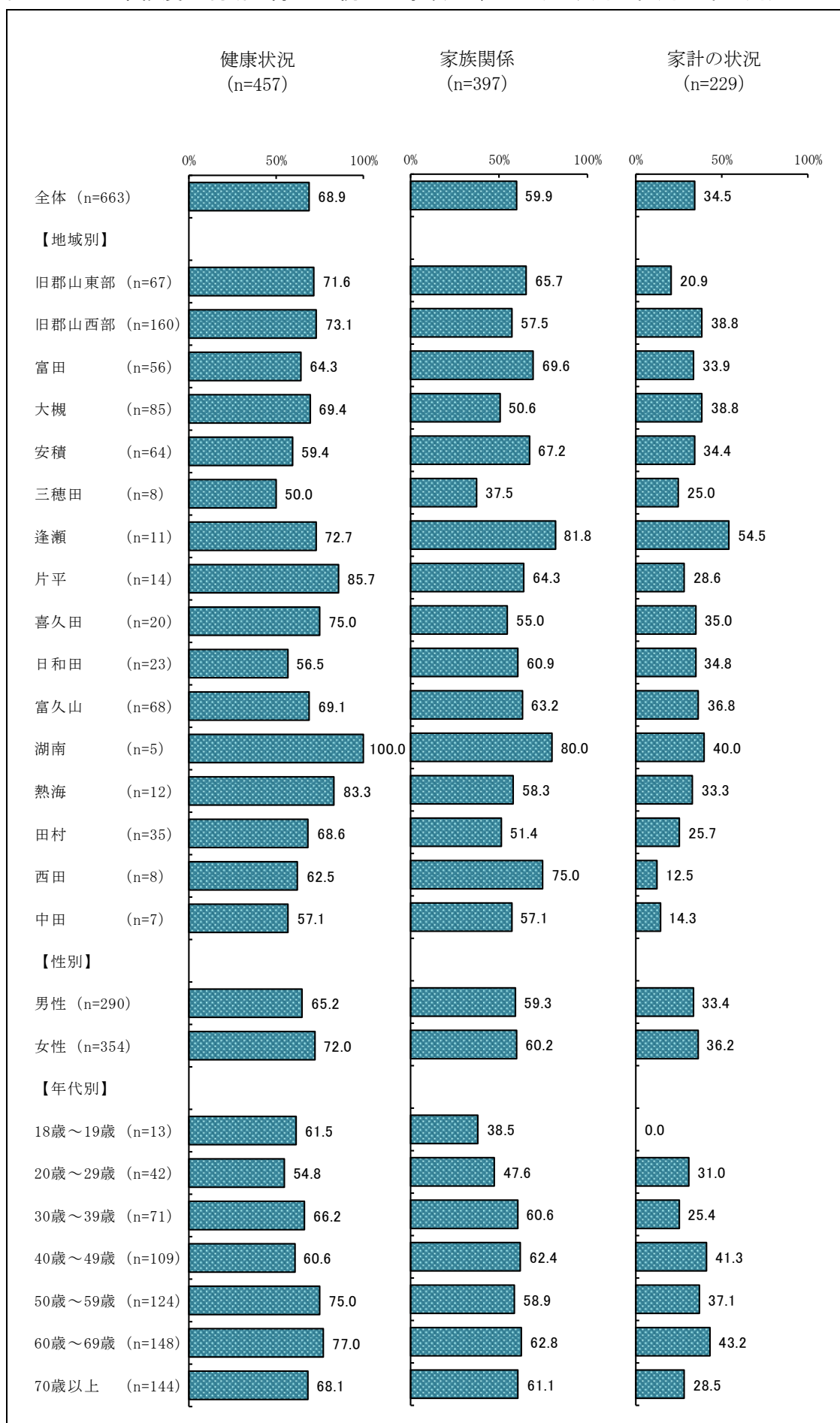


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～2/6～（地域別／性別／年代別）

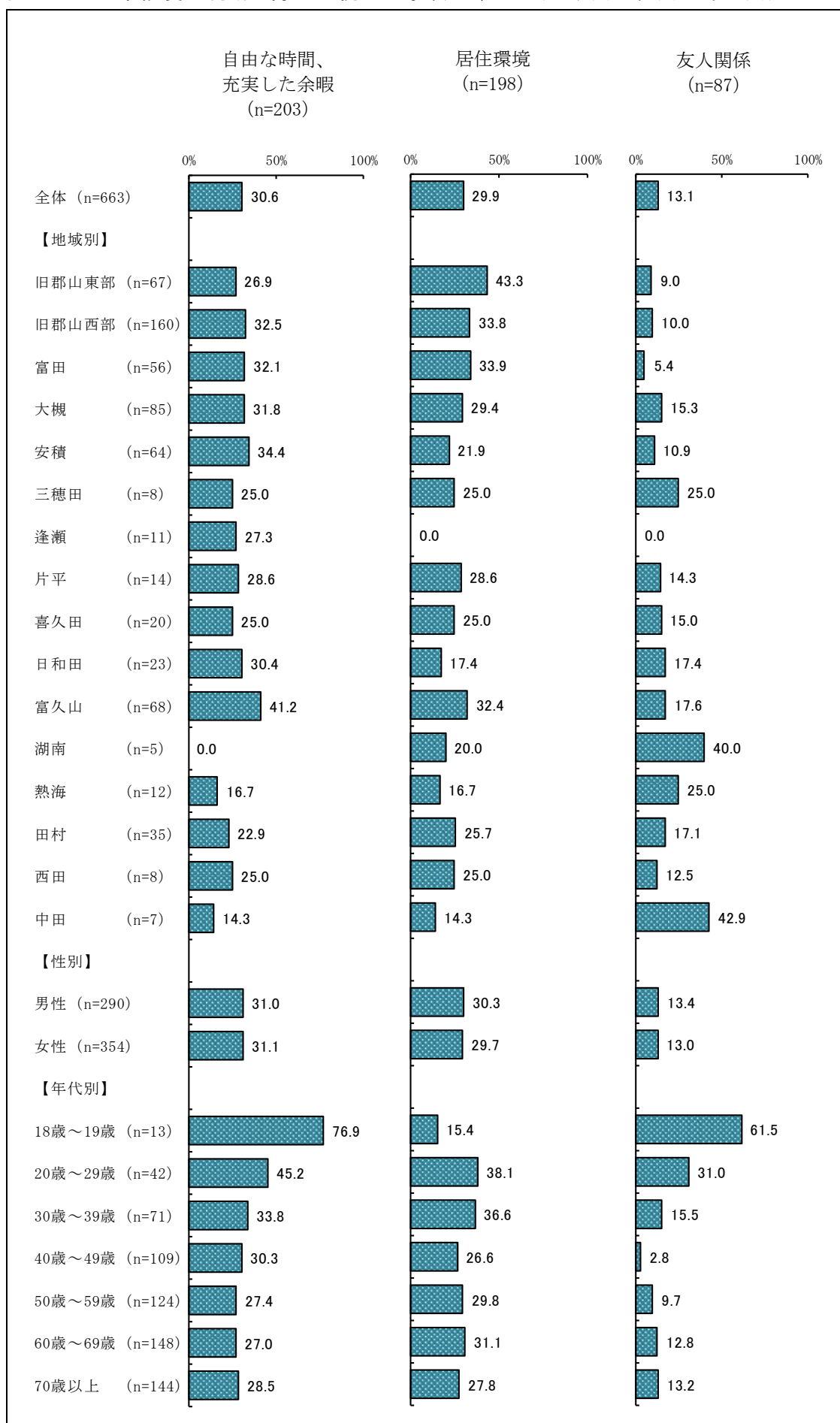


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～3/6～（地域別／性別／年代別）

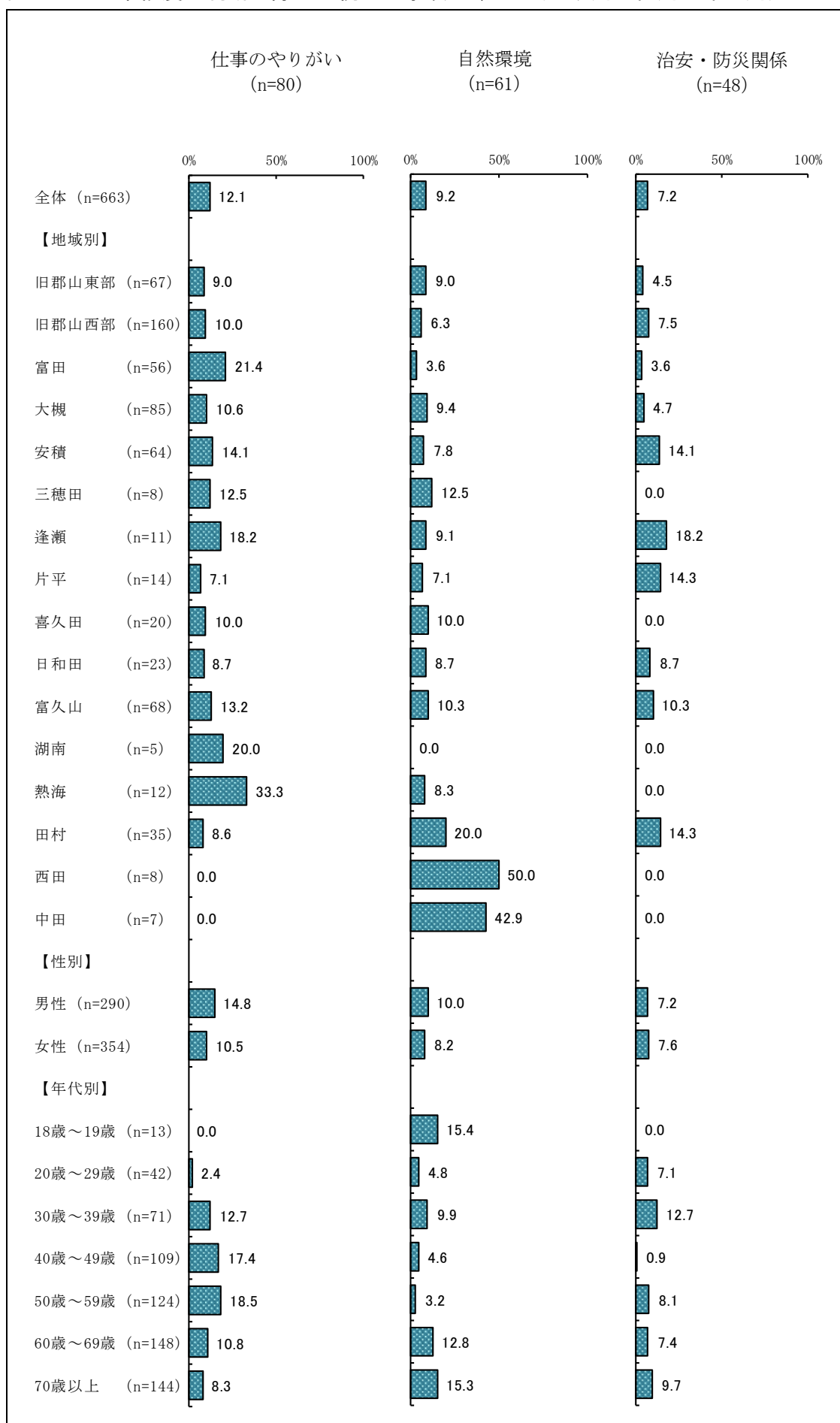


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～4/6～（地域別／性別／年代別）

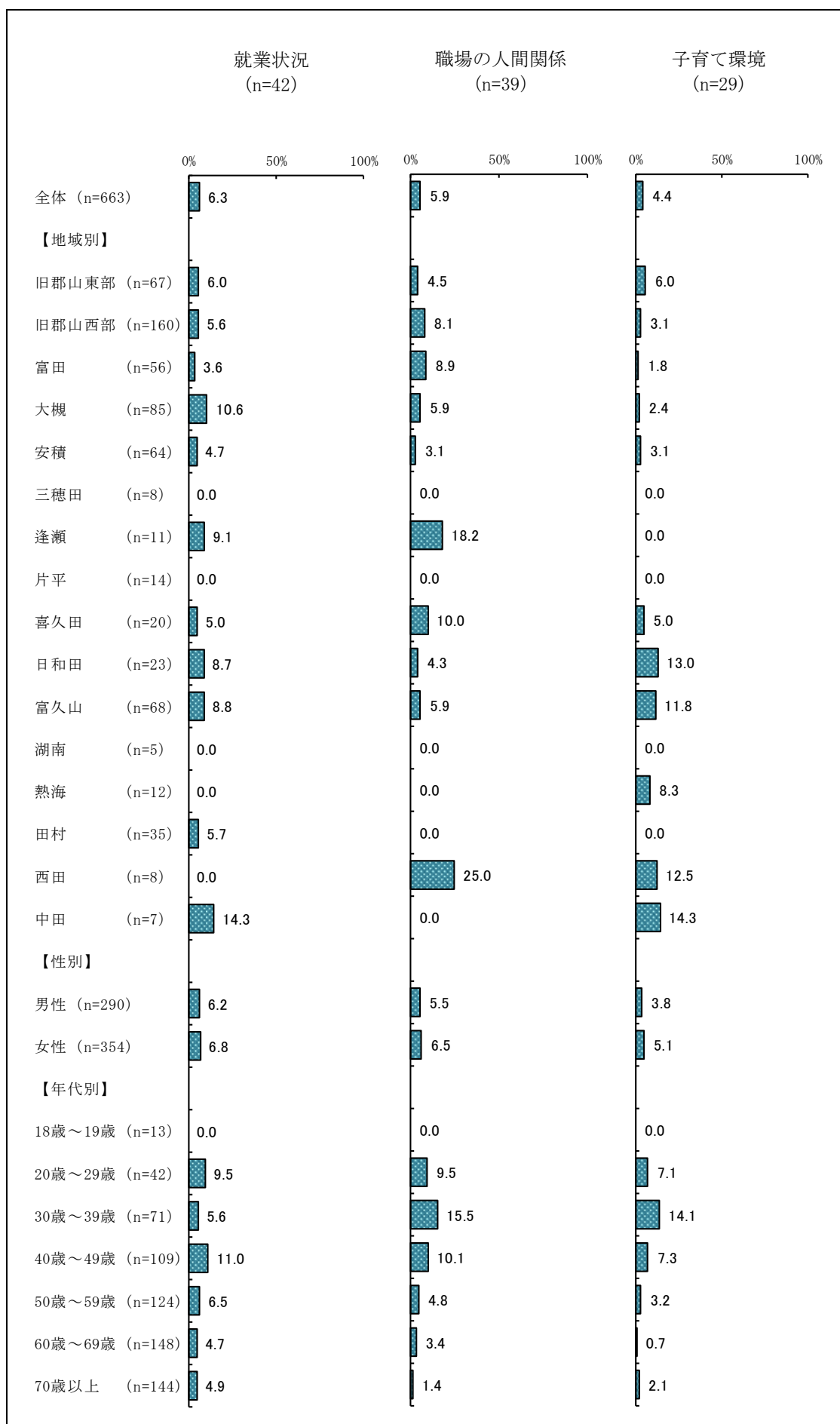


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～5/6～（地域別／性別／年代別）

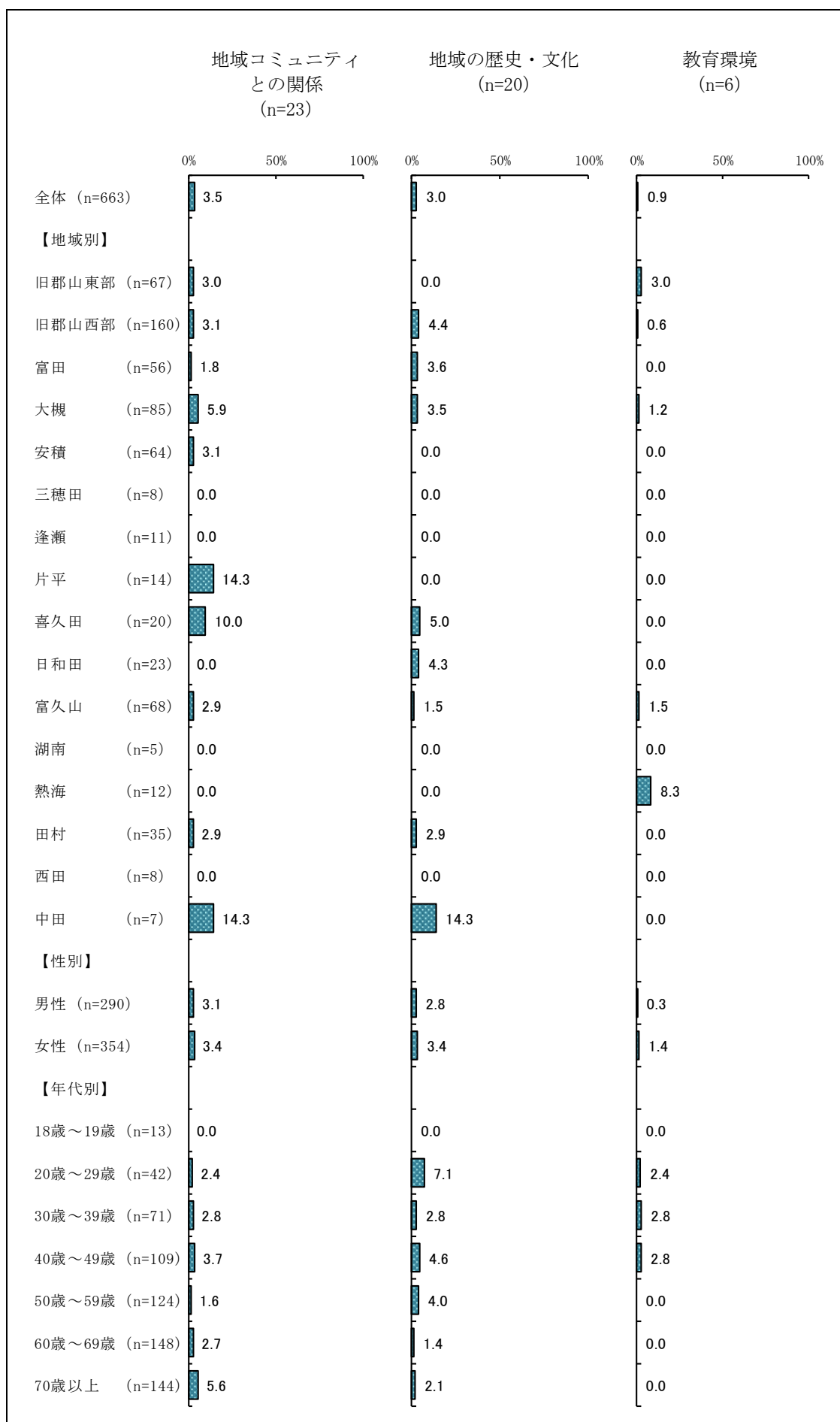
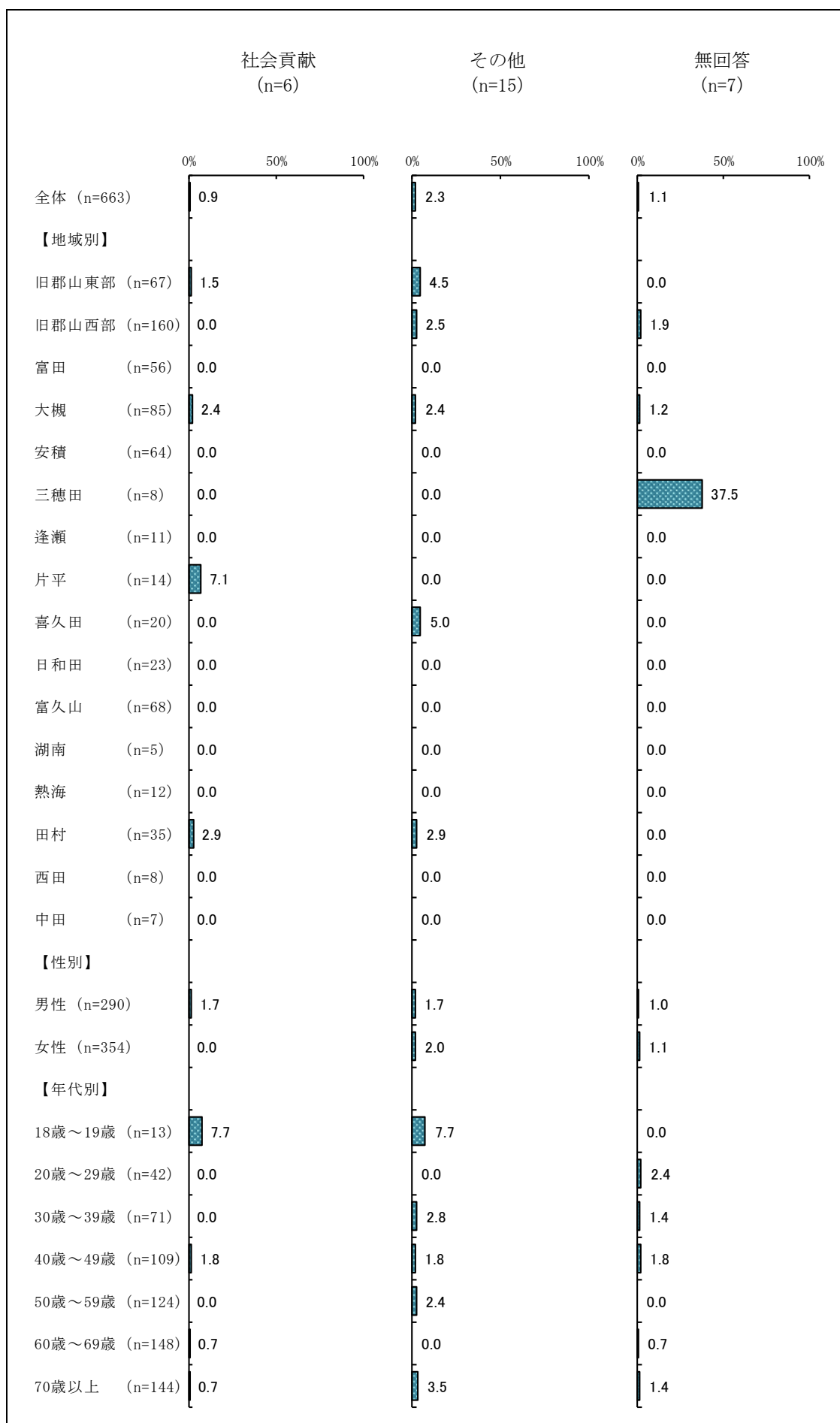
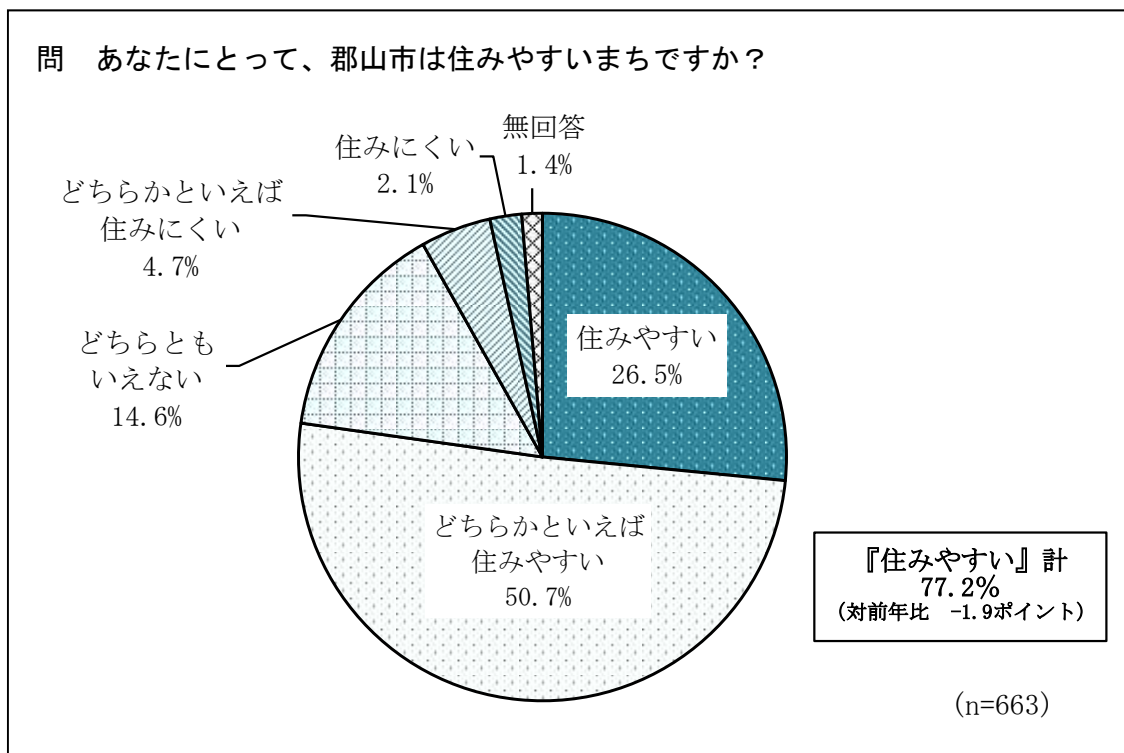


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～6/6～（地域別／性別／年代別）

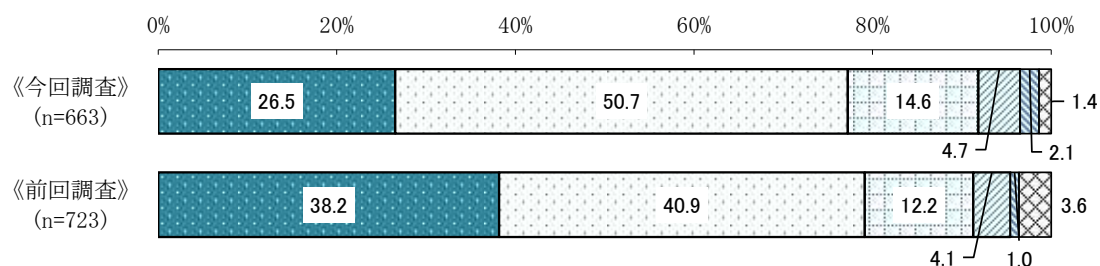


2. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



■ 住みやすい □ どちらかといえば 〇 どちらとも ■ どちらかといえば ■ 住みにくい ■ 無回答
住みやすい いえない 住みにくい



8 割弱の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

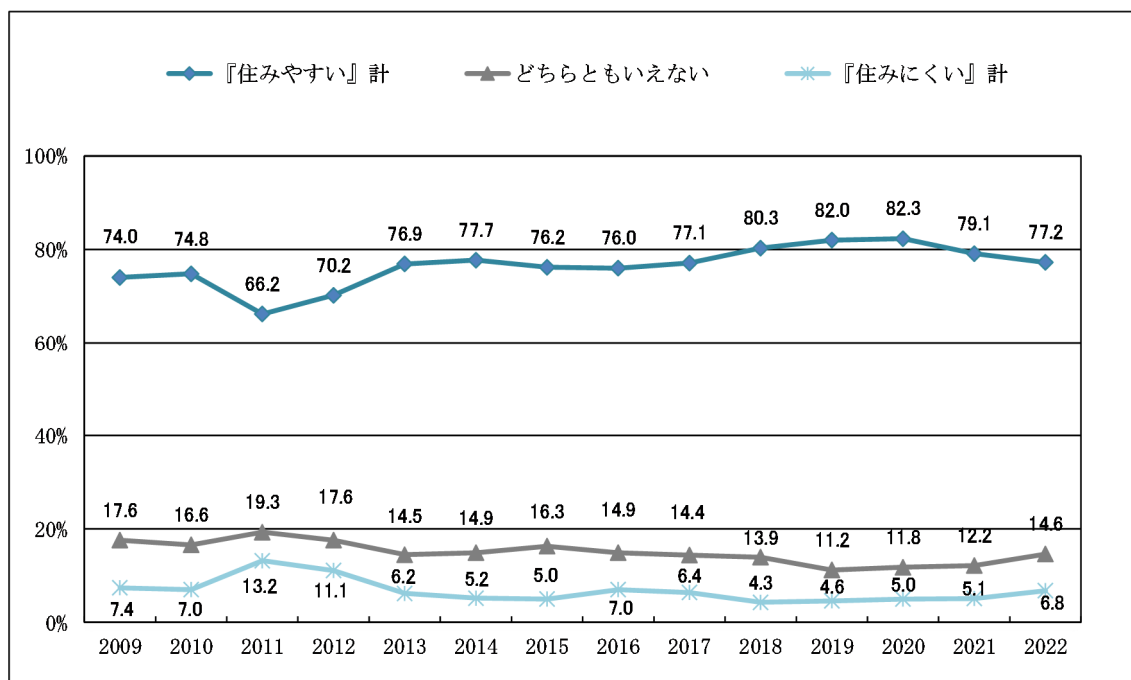
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(26.5%)と「どちらかといえば住みやすい」(50.7%)の両者を合計すると『住みやすい』(77.2%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.7%)と「住みにくい」(2.1%)を合計すると『住みにくい』(6.8%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは1.9ポイント低下しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』の合計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、横ばいで推移しています(図2-1参照)。

図 2－1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-2 参照）

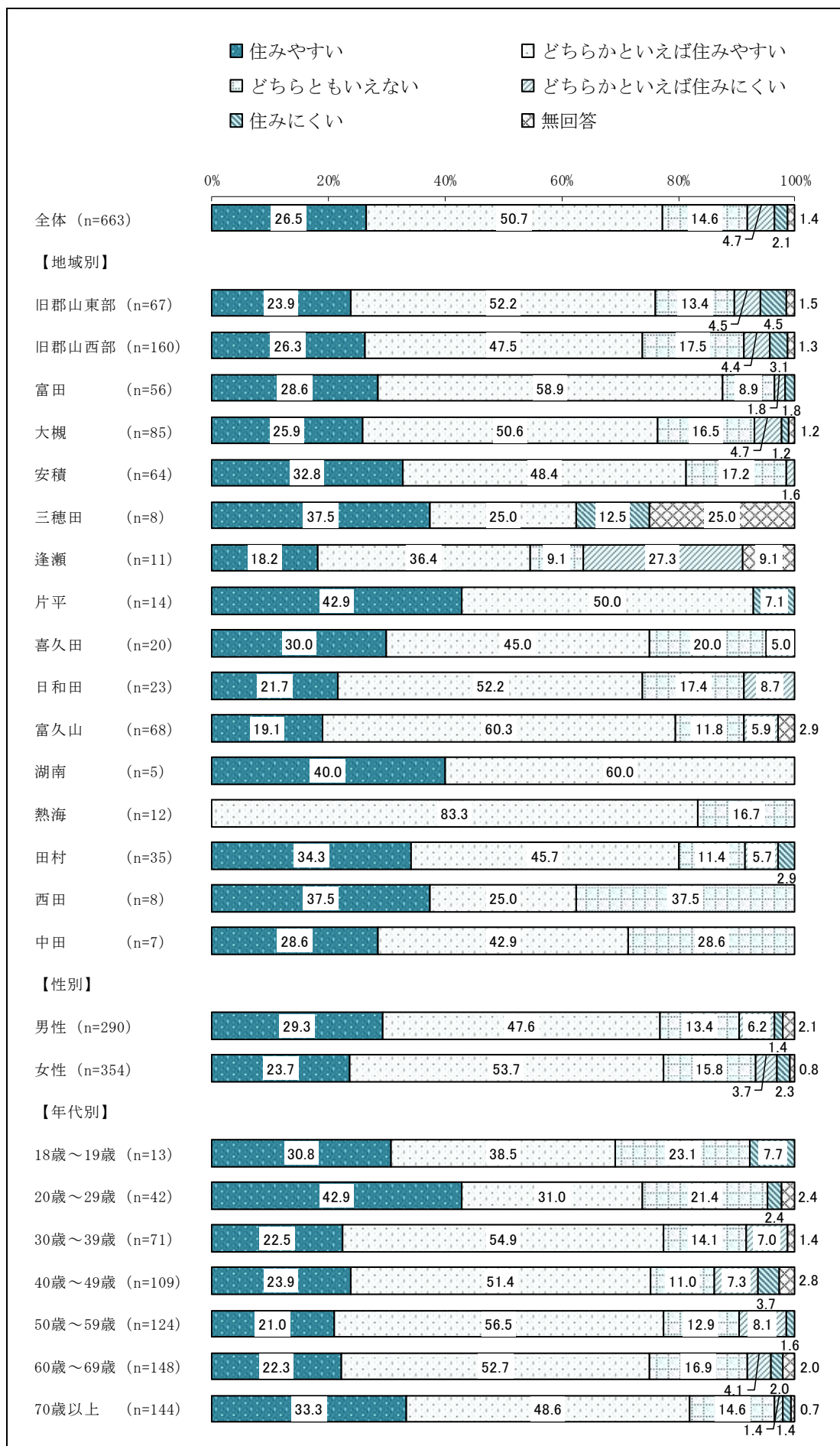
① 性別

『住みやすい』の割合は、女性（77.4%）の方が男性（76.9%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

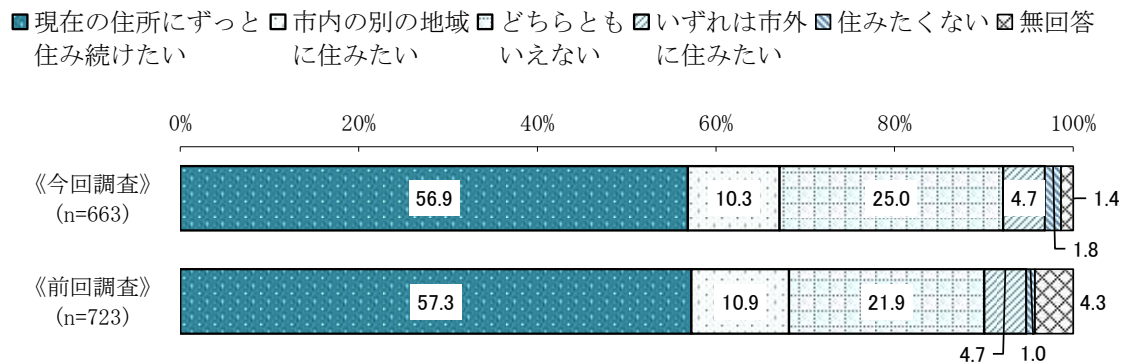
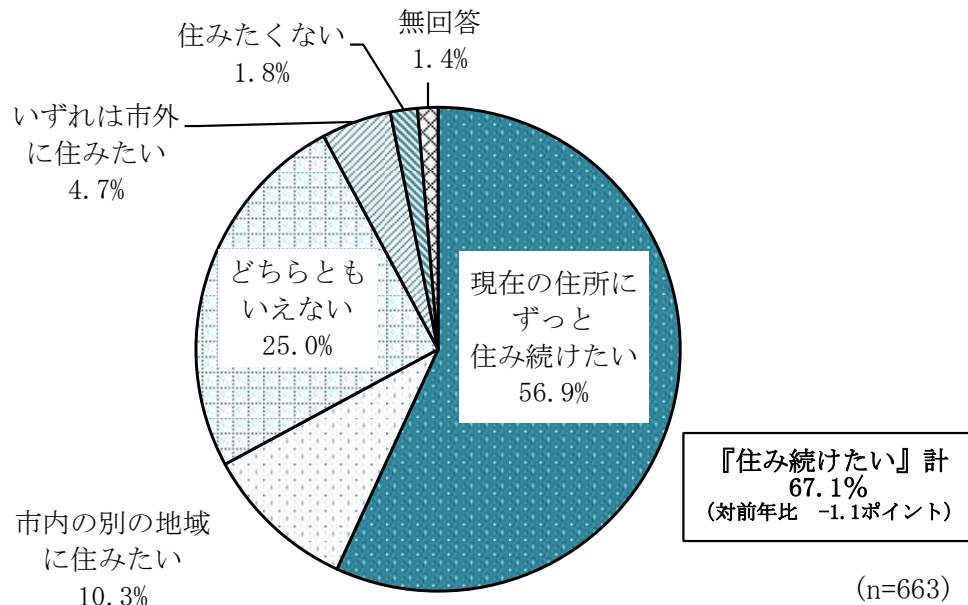
『住みやすい』の割合は、すべての年代で7割以上となっています。

図 2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向

問 あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？



—— 7 割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている ——

【全体結果】

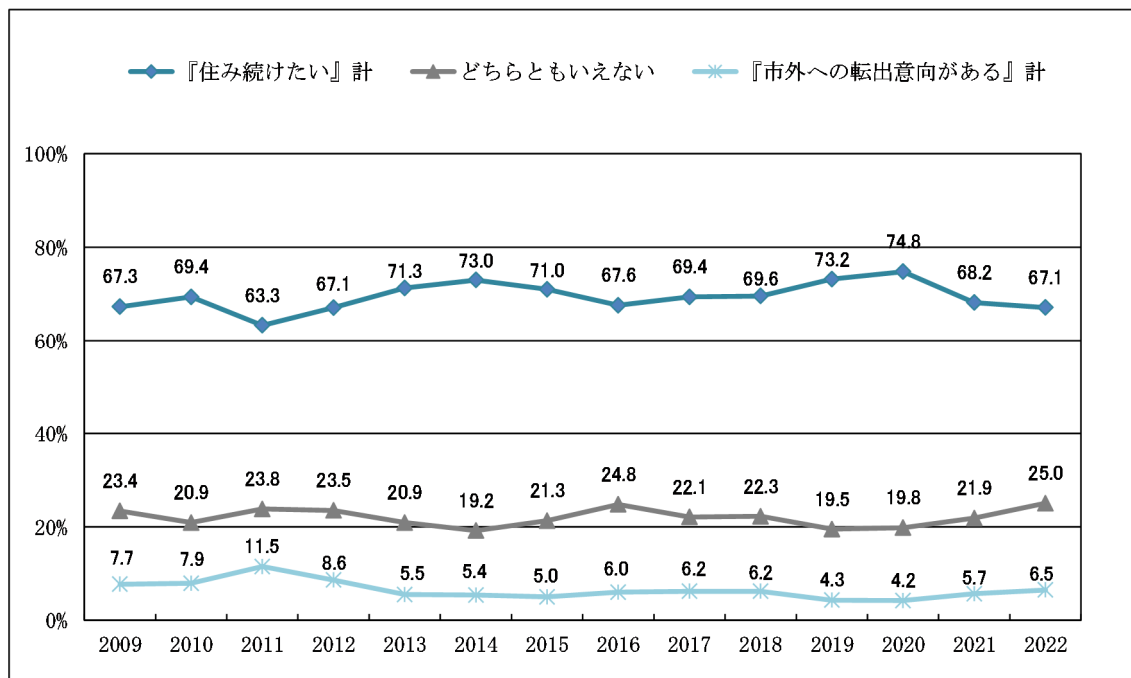
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(56.9%)と「市内の別の地域に住みたい」(10.3%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.1%)となっています。

前項の『住みやすい』の合計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」が1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.7%)と「住みたくない」(1.8%)を合計すると『市外への転出意向がある』(6.5%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2011年をピークに減少し、2013年以降、横ばいで推移しています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

① 性別

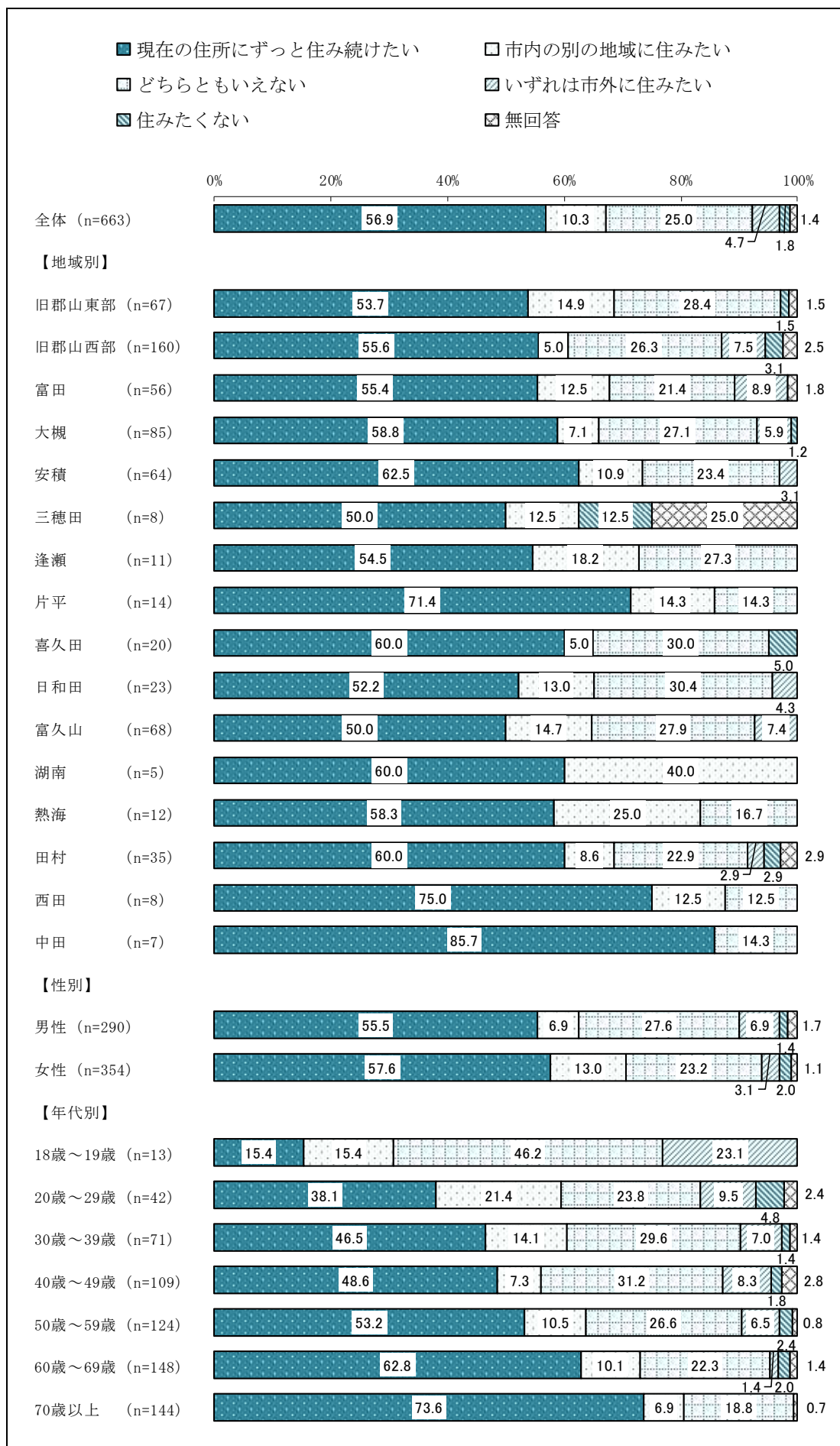
『住み続けたい』の割合は、女性（70.6%）の方が男性（62.4%）よりも高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（80.6%）で最も高く、次いで60代（73.0%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代（14.3%）で最も高くなっています。

図 2-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）



3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表 3-1 43 項目（施策）の満足度ランキング

平均得点70.0点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	77.9	⇒	
2位	(3位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	76.5	➡	
3位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	75.3	➡	
4位	(6位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	75.2	➡	
5位	(5位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	74.4	⇒	
6位	(13位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.9	➡	
7位	(10位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	73.3	➡	
8位	(8位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	72.9	⇒	
9位	(9位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	72.8	⇒	
10位	—	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	72.5		
11位	(15位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	72.0	➡	
12位	(16位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	71.7	➡	
13位	(11位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	71.6	⇒	
14位	(11位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	71.5	⇒	
15位	(14位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.9	⇒	
16位	(17位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	70.8	➡	
17位	(22位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	70.7	➡	
18位	(19位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.6	➡	
18位	(17位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	70.6	⇒	
20位	(28位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	70.5	➡	
21位	(26位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	70.3	➡	
22位	(20位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	⇒	
23位	(22位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	70.1	⇒	
24位	(25位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	70.0	➡	
24位	(24位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	70.0	⇒	
26位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	69.9	➡	
27位	(21位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	69.7	⇒	
28位	(30位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	69.3	➡	
29位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	69.0	⇒	
30位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	68.1	➡	
30位	(39位)	基盤的取組	SDGs	68.1	➡	
32位	(38位)	基盤的取組	行政経営	67.9	➡	
33位	—	基盤的取組	DX推進	67.7		
34位	(28位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	67.6	⇒	
35位	(34位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.5	⇒	
36位	(34位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.3	⇒	
37位	(37位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	67.1	⇒	
37位	(33位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	67.1	⇒	
39位	(40位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	65.8	➡	
40位	(41位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	64.2	➡	
41位	(42位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	62.8	➡	
42位	(44位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	62.0	➡	
43位	(43位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	61.8	⇒	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」26人、「どちらかといえばよい」137人、
「どちらかといえば不満」113人、「不満」43人、「わからない」393人ですと、

$$\frac{26 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 137 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 113 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 43 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 393 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{319 \text{ 人}}$$

$$\div 69.2$$

※平均得点＝69.2点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から14年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「音楽のまちづくり」「自然環境」「健康づくり」「防災」「スポーツ・文化・芸術」です。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「自然環境」では、「郡山市第四次環境基本計画」を策定し、将来の環境都市像である「環境にやさしく自然豊かな住んでいてよかったなと思えるまち」の実現に向けて、原子力災害からの環境回復を土台とし、分野ごとに5つの「取組みの柱」を定め、環境施策を推進しています。

「健康づくり」では、健康づくりに取り組んでポイントを貯めると、福島県内1,700店舗以上の協力店で、グルメやショッピングなどお得な特典が使える「ふくしま健民カード」を発行する「こおりやま生きいき健康ポイント事業」を実施し、気軽に、無理なく、楽しく継続できる健康づくりを推進しています。

「防災」では、近年の気候変動等の影響により水災害が頻発していることを受け、郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランにより市内5か所で雨水貯留施設の整備を進めており、ほかに被害の発生前から行政や住民などの各主体が迅速で的確な対応をとるためのタイムライン式行動計画の策定やウェブサイト・SNSからの防災情報の発信を行っています。

「スポーツ・文化・芸術」では、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた郡山シティーマラソン大会の開催や施設整備のほか地域の歴史・文化遺産について、市民の皆さんと一緒に考え、理解をさらに深めていくために「こおりやま歴史・文化遺産フォーラム」を開催しています。

また、6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」の72.2点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の71.7点、「暮らしやすいまちの未来」の69.5点となっています。

表 3－2 6分野別の満足度ランキング

順 位	分 野	点 数
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	72.2
2位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	71.7
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.5
4位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	69.1
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	68.5
6位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.8

参考までに、過去 10 年間の満足度上位 3 つは下表のとおりです。

表 3－3 10 年間の満足度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表 3-4 43 項目（施策）の重要度ランキング

平均割合 12.8%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(2位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	37.1	➡	
2位	(1位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	33.2	➡	
3位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	32.4	➡	
4位	(6位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	25.0	➡	
5位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	24.4	➡	
6位	(4位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	24.3	➡	
7位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	23.5	➡	
8位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	22.9	➡	
9位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	19.8	➡	
10位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	19.0	➡	
11位	(11位)	II. 交流・観光の未来	観光	18.6	➡	
12位	(13位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	16.7	➡	
13位	(18位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	14.8	➡	
14位	(19位)	基盤的取組	SDGs	14.5	➡	
15位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	13.6	➡	
16位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	12.7	➡	
17位	—	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	12.5		
18位	(20位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	12.4	➡	
19位	(25位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	11.5	➡	
20位	(16位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	10.9	➡	
21位	(21位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	10.7	➡	
21位	(23位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.7	➡	
23位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	10.4	➡	
24位	(15位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.1	➡	
25位	(32位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	8.9	➡	
26位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	8.7	➡	
27位	(33位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	8.6	➡	
28位	(27位)	基盤的取組	行政経営	8.0	➡	
29位	(31位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	7.7	➡	
29位	(26位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	7.7	➡	
31位	(39位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	7.5	➡	
32位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	7.2	➡	
33位	(36位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	6.5	➡	
34位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	6.2	➡	
35位	(30位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	6.0	➡	
36位	(35位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.1	➡	
36位	(36位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.9	➡	
36位	(40位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	3.5	➡	
39位	(41位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	3.0	➡	
40位	(42位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.9	➡	
41位	(43位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	2.7	➡	
42位	—	基盤的取組	DX推進	2.6		
43位	(44位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	2.1	➡	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※ 1 : 平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※ 2 : 平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」220 人ですと、

$$220 \text{ 人} \div 663 \text{ 人} \times 100\% \approx 33.2$$

※平均割合（回答率）=33.2%となります。

— 重要度の上位 3 つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、2019 年から国が継続的に推進している「働き方改革」による社会構造への影響や近年の大雨等の自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域産業への影響から、引き続き関心度及び重要度の高さが持続しているものと考えられます。

また、「10 年間の重要度上位 3 項目」において、「高齢者福祉」は 2013 年度から、「子育て」は 2014 年度から、ほぼ毎年度上位 3 項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「雇用・就労」「学校教育」「地域産業」です。

「学校教育」では、新型コロナウイルス感染症の影響や近年ヤングケアラー等の問題も頻繁に取り上げられるようになっており、関心が高まりつつあるものと考えられます。

「地域産業」については、新型コロナウイルス感染症の影響や後継者問題等から、今まで以上に地域産業の活性化の重要性が高まっていると考えられます。

また、6 分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」の 18.6%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。次いで、「学び育む子どもたちの未来」の 17.2%と続いています。

表 3－5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率(%)
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	18.6
2位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	17.2
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	13.5
4位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	11.0
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	10.4
6位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	7.4

参考までに、過去 10 年間の重要度上位 3 つは下表のとおりです。

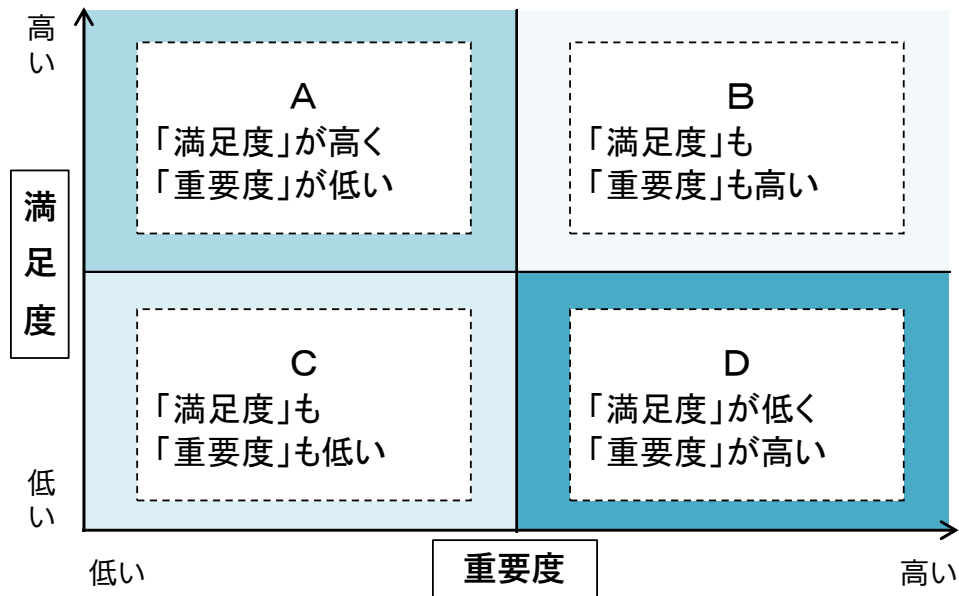
表 3－6 10 年間の重要度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育

（３）施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 29 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 33 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

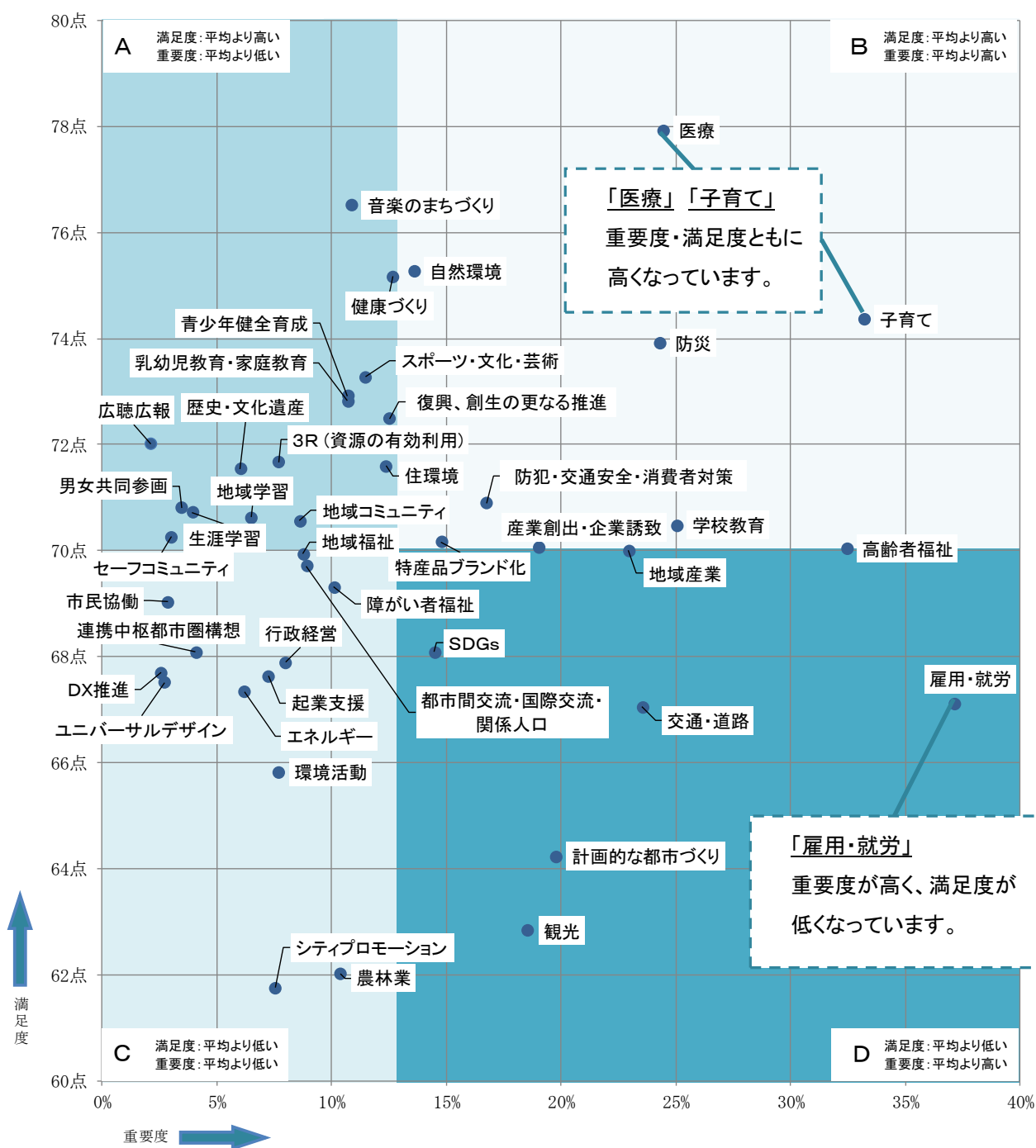
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

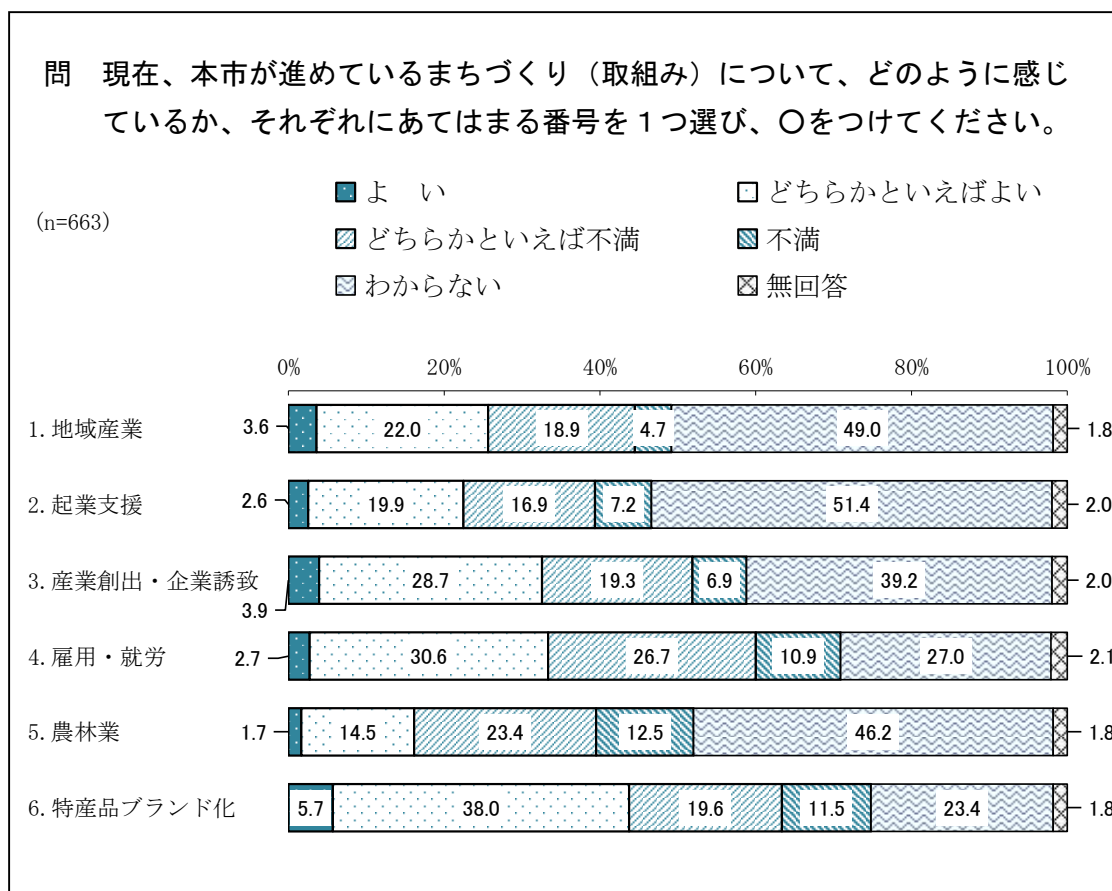


—— 「雇用・就労」に関して優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（43.7%）でした。以下、『4. 雇用・就労』（33.3%）、『3. 産業創出・企業誘致』（32.6%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（37.6%）でした。以下、『5. 農林業』（35.9%）、『6. 特産品ブランド化』（31.1%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』、『4. 雇用・就労』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『2. 起業支援』（51.4%）と『1. 地域産業』（49.0%）で約半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-2 参照）。

平均得点をみると、『6. 特産品ブランド化』が 70.2 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（62.0 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました。（表 3-7 参照）

図 3-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

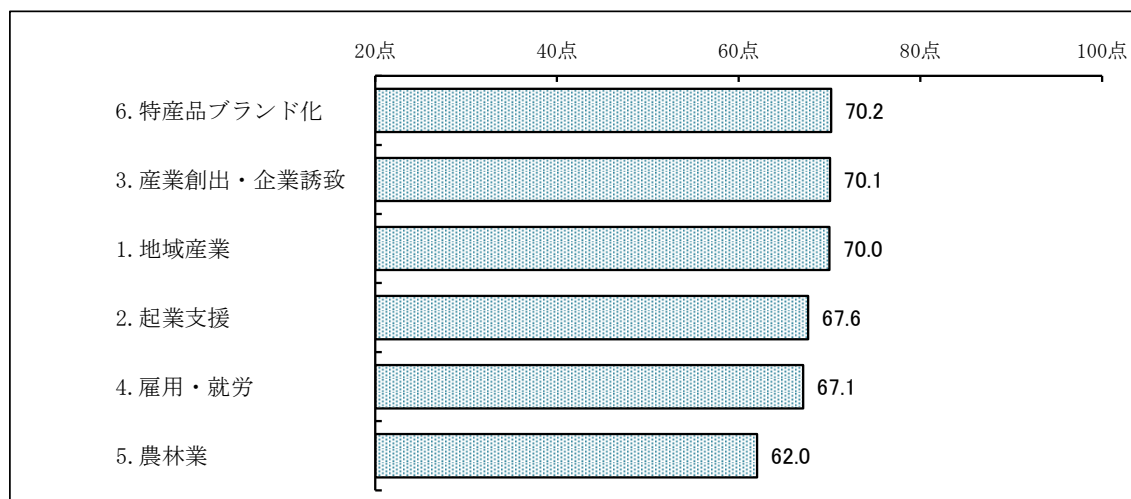
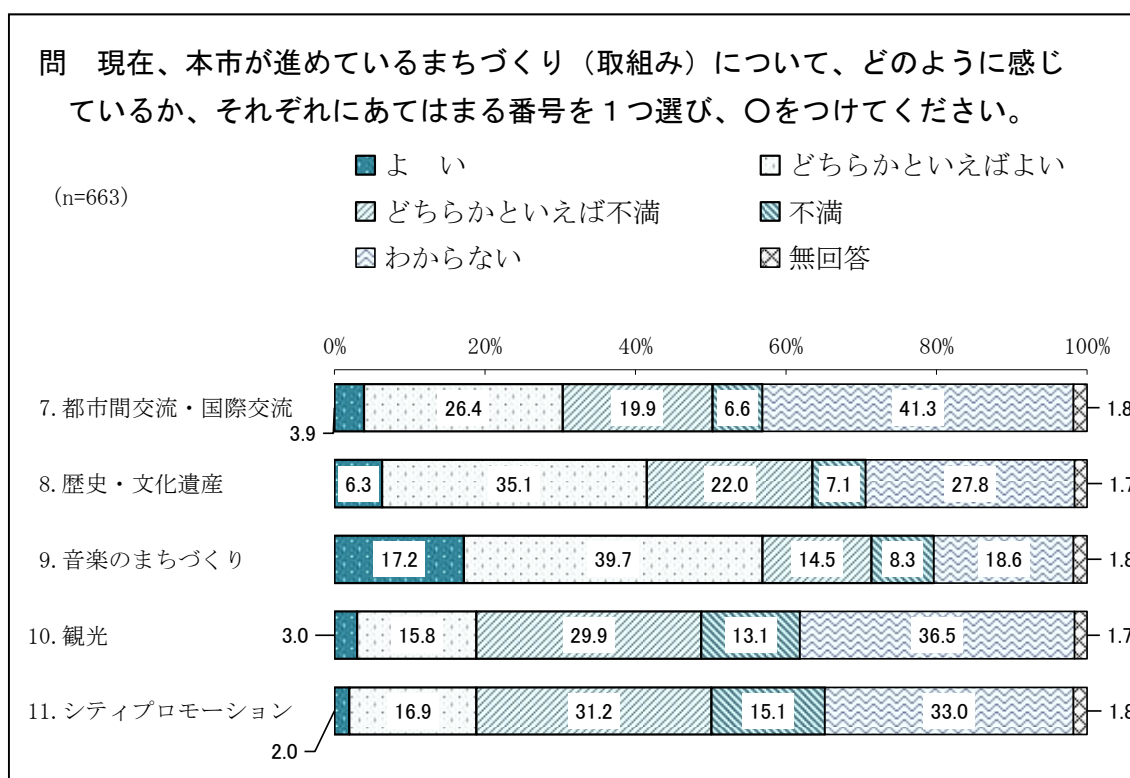


表 3-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	産業創出・企業誘致 (70.7点)	特産品ブランド化 (72.2点)
2位	地域産業 (70.5点)	地域産業 (68.9点)
3位	起業支援 (69.0点)	産業創出・企業誘致 (68.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	地域産業 (85.0点)	特産品ブランド化 (79.4点)	特産品ブランド化 (73.1点)	特産品ブランド化 (70.8点)	特産品ブランド化 (69.7点)	地域産業 (69.9点)	地域産業 (74.0点)
2位	産業創出・企業誘致 (84.0点)	産業創出・企業誘致 (78.3点)	雇用・就労 (67.5点)	産業創出・企業誘致 (70.0点)	産業創出・企業誘致 (69.2点)	起業支援 (67.4点)	産業創出・企業誘致 (71.7点)
3位	農林業 (82.9点)	地域産業 (77.0点)	産業創出・企業誘致 (67.3点)	地域産業 (67.5点)	地域産業 (67.0点)	産業創出・企業誘致 (66.8点)	起業支援 (71.1点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（56.9%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（41.5%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.3%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が76.5点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（61.8点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図 3－3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

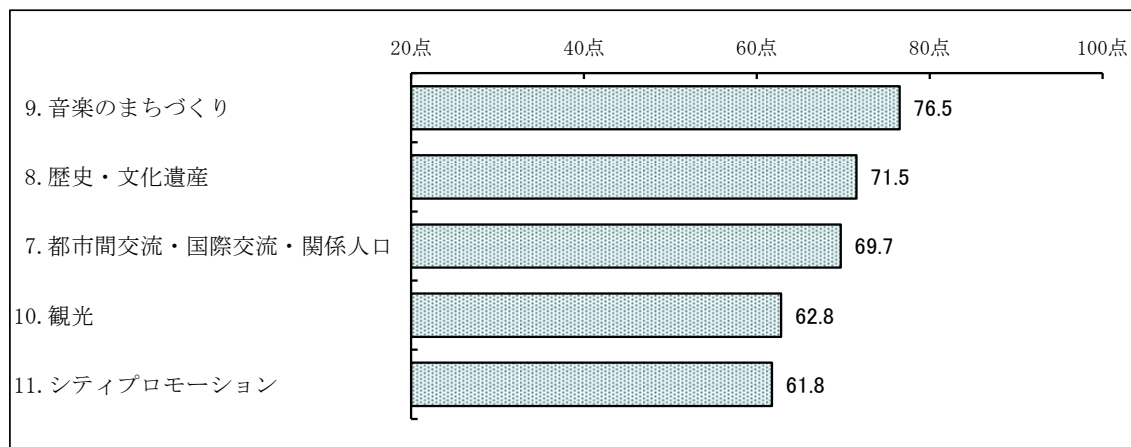


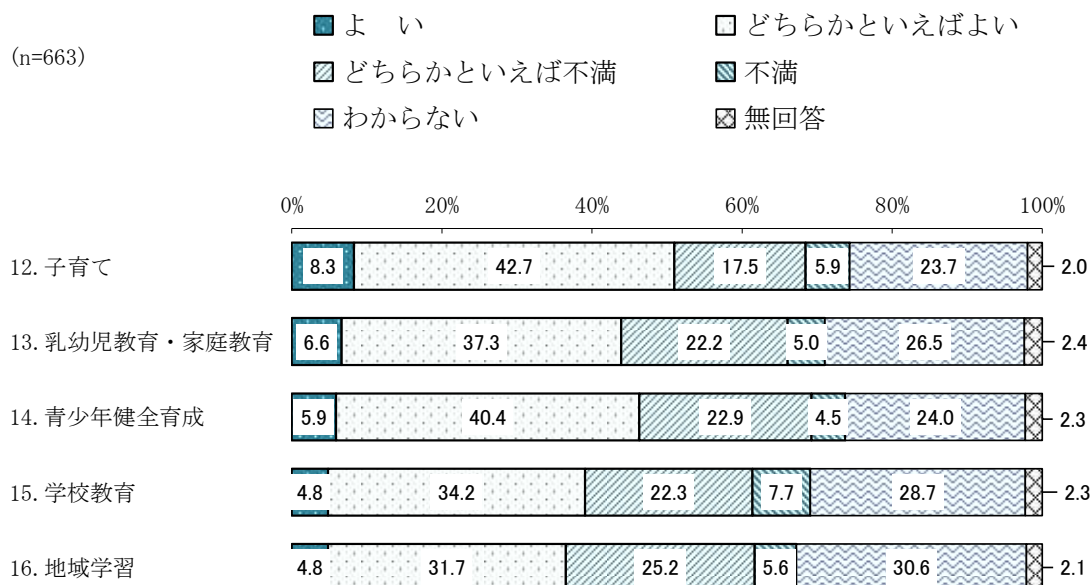
表 3－8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	音楽の まちづくり (77.3点)	音楽の まちづくり (76.1点)
2位	歴史・ 文化遺産 (71.7点)	歴史・ 文化遺産 (71.2点)
3位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.7点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	歴史・ 文化遺産 (80.0点)	歴史・ 文化遺産 (78.5点)	音楽の まちづくり (74.5点)	音楽の まちづくり (76.2点)	音楽の まちづくり (73.8点)	音楽の まちづくり (77.7点)	音楽の まちづくり (78.7点)
2位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (77.5点)	音楽の まちづくり (77.9点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.1点)	歴史・ 文化遺産 (69.4点)	歴史・ 文化遺産 (69.5点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.8点)	歴史・ 文化遺産 (76.0点)
3位	音楽の まちづくり (75.6点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (71.5点)	歴史・ 文化遺産 (67.7点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (67.1点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (68.6点)	歴史・ 文化遺産 (69.4点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (71.6点)

③ 学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（51.0%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（46.3%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『16. 地域学習』（30.8%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-4 参照）。

平均得点をみると、『12. 子育て』が 74.4 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（70.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-9 参照）。

図 3－4 学び育む子どもたちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

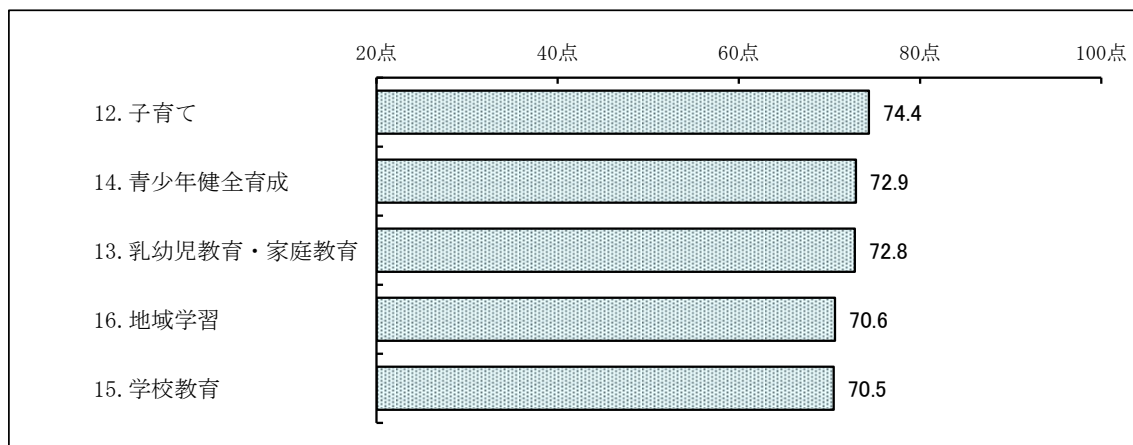


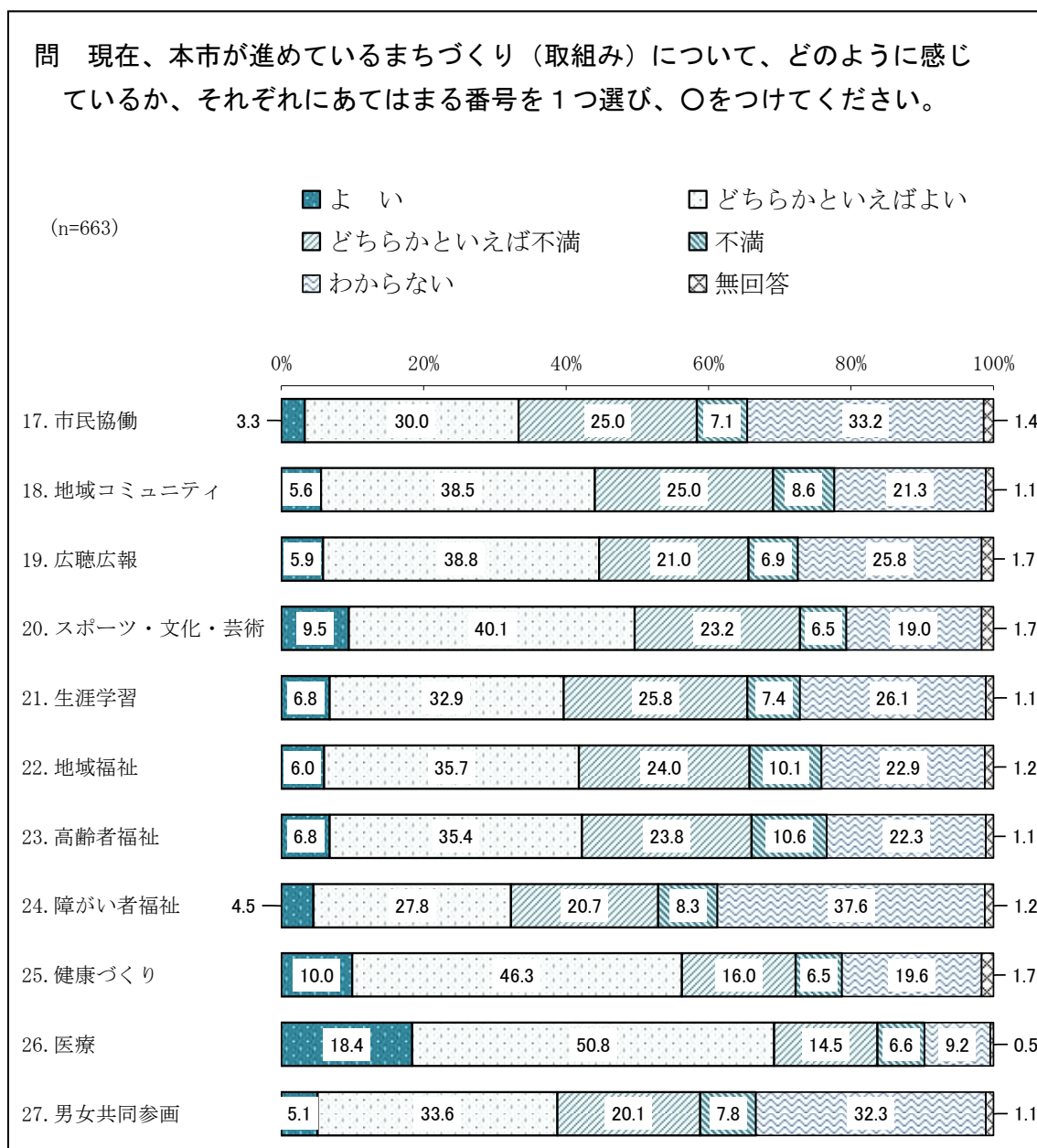
表 3－9 学び育む子どもたちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	青少年健全育成 (74.4点)	子育て (74.1点)
2位	子育て (74.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)	青少年健全育成 (71.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	青少年健全育成 (82.0点)	地域学習 (81.6点)	子育て (71.2点)	子育て (73.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)	子育て (72.0点)	子育て (78.5点)
2位	学校教育 (82.0点)	子育て (81.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (70.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.2点)	子育て (72.2点)	青少年健全育成 (70.8点)	青少年健全育成 (77.6点)
3位	子育て (80.0点)	青少年健全育成 (81.3点)	学校教育 (68.8点)	青少年健全育成 (70.8点)	青少年健全育成 (71.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (69.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (76.5点)

④誰もが地域で輝く未来

（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』

——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（69.2%）でした。以下、『25. 健康づくり』（56.3%）が5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『23. 高齢者福祉』（34.4%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-5 参照）。

平均得点をみると、『26. 医療』が 77.9 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『17. 市民協働』（69.0 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-10 参照）。

図 3-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

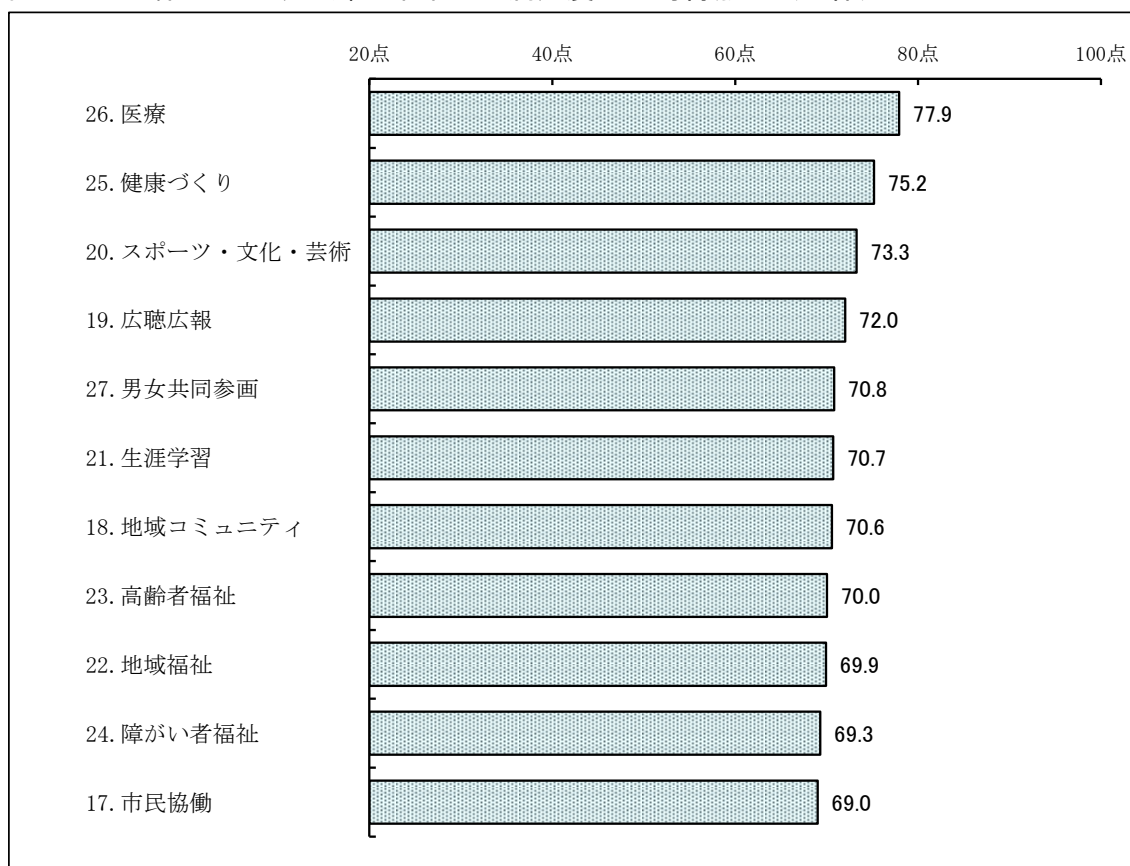


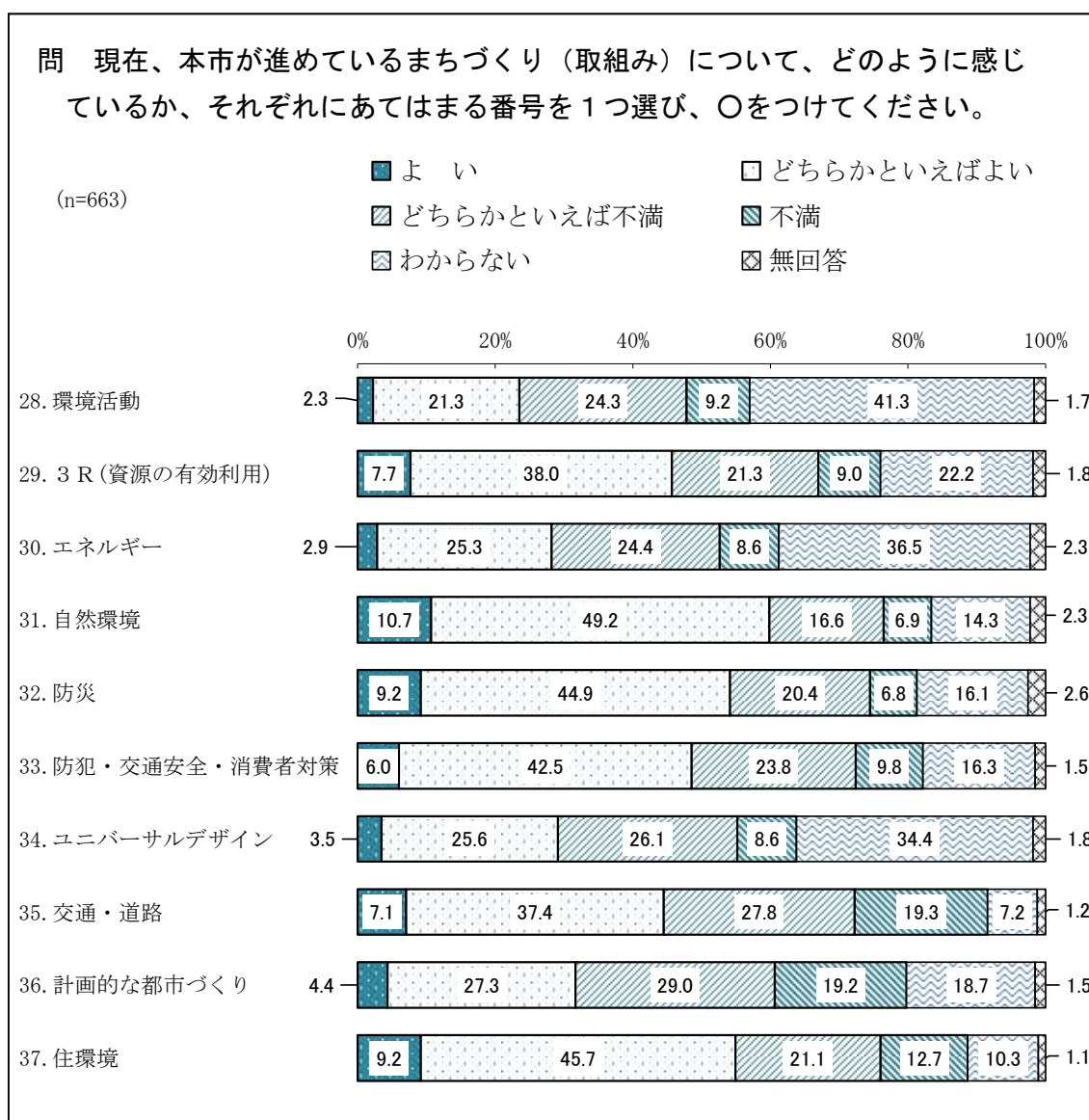
表 3－10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (79.4点)	医療 (76.5点)
2位	健康づくり (75.8点)	健康づくり (74.6点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (73.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	医療 (90.0点)	医療 (82.0点)	医療 (76.9点)	医療 (76.3点)	医療 (74.8点)	医療 (74.9点)	医療 (82.6点)
2位	高齢者福祉 (85.7点)	健康づくり (80.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.2点)	健康づくり (72.7点)	健康づくり (72.6点)	健康づくり (73.4点)	健康づくり (79.2点)
3位	障がい者福祉 (83.3点)	高齢者福祉 (78.8点) 男女共同参画 (78.8点)	健康づくり (73.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (70.3点)	広聴広報 (71.1点)	広聴広報 (71.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (77.6点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（59.9%）、『37. 住環境』（54.9%）、『32. 防災』（54.1%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『36. 計画的な都市づくり』（48.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-6 参照）。

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 75.3 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（64.2 点）でした。

『31. 自然環境』に関しては、満足度は前年度と変わらず上位を維持していますが、重要度の順位が前年度調査に比べて上がっています。更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-11 参照）。

図 3-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

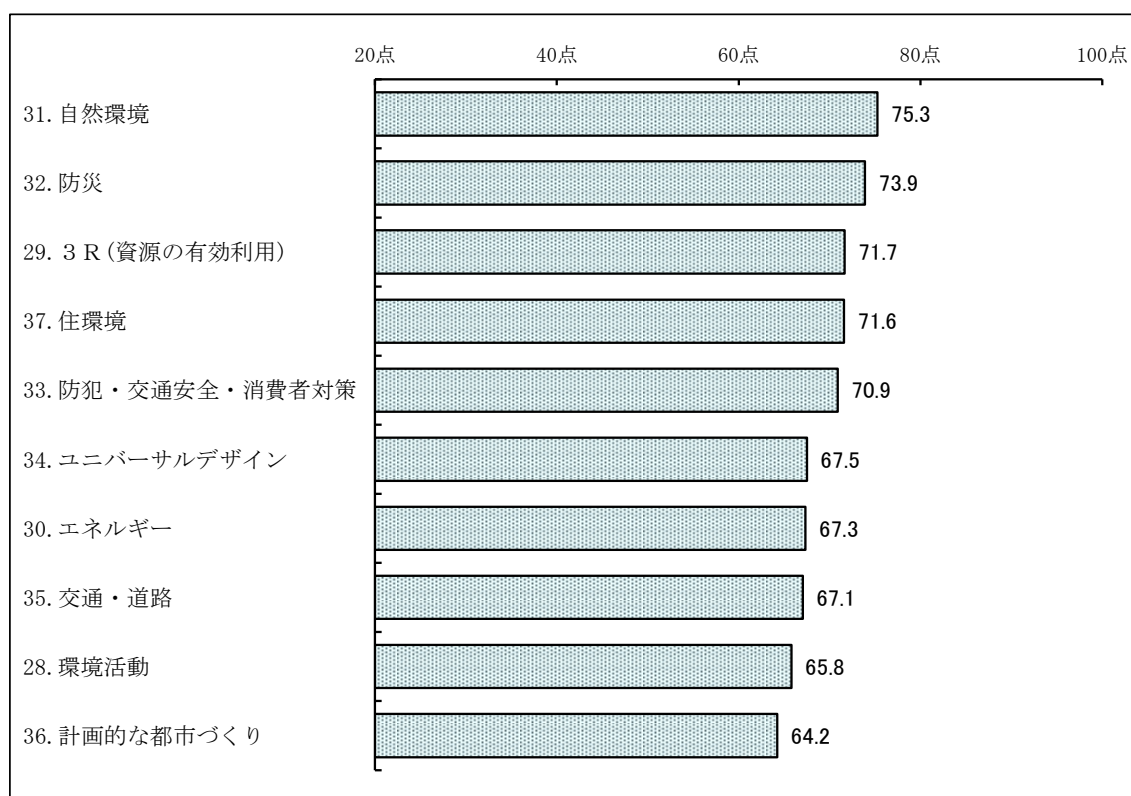


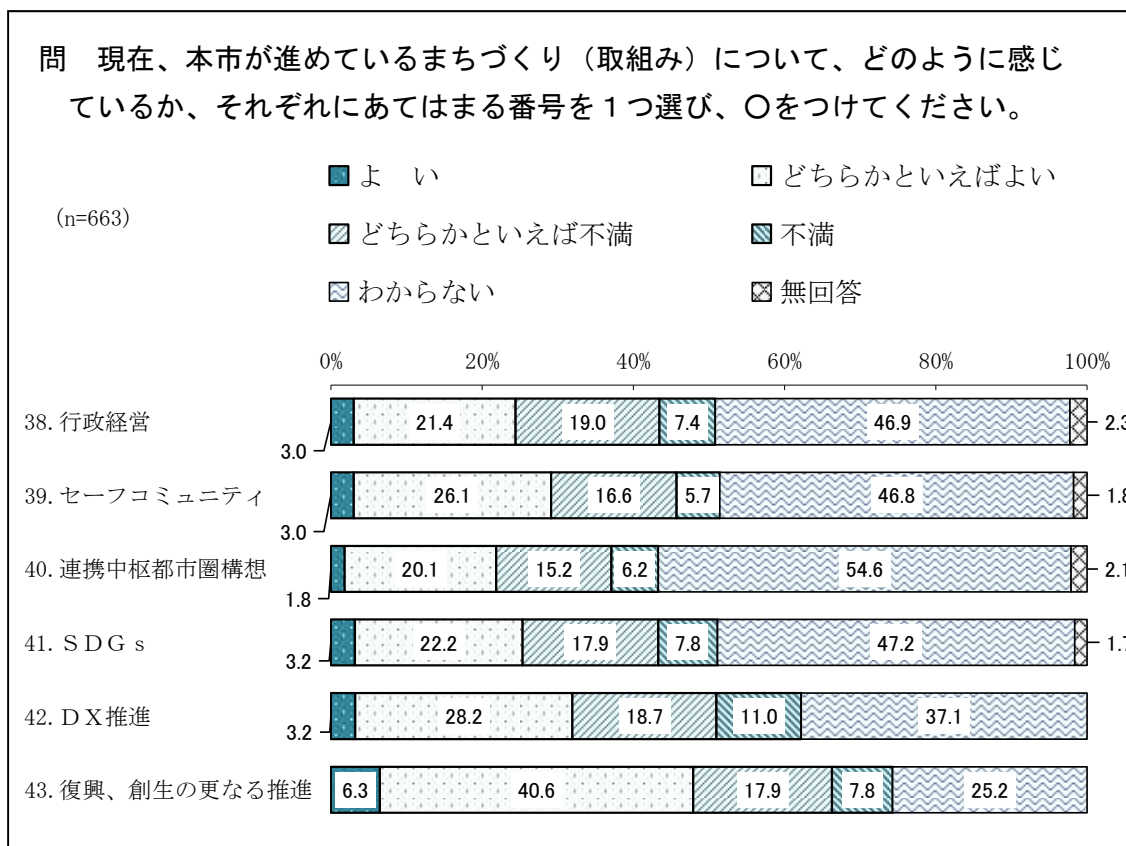
表 3－1 1 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	自然環境 (75.5点)	自然環境 (74.9点)
2位	防災 (73.5点)	防災 (74.1点)
3位	住環境 (72.3点)	3R (資源の有効利用) (71.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	自然環境 (83.6点)	自然環境 (77.8点)	自然環境 (76.1点)	自然環境 (73.1点)	自然環境 (74.9点)	自然環境 (72.6点)	防災 (78.1点)
2位	エネルギー (83.3点)	防災 (77.8点)	防災 (73.1点)	3R (資源の有効利用) (71.9点)	防災 (71.5点)	防災 (72.0点)	自然環境 (77.9点)
3位	防災 (82.5点)	住環境 (77.6点)	防犯・交通安全・消費者対策 (69.4点)	防災 (71.7点)	住環境 (69.1点)	防犯・交通安全・消費者対策 (70.2点)	3R (資源の有効利用) (76.9点)

⑥基盤的取組

（行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『復興、創生の更なる推進』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『43. 復興、創生の更なる推進』（46.9%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『42. DX推進』（29.7%）となっています。

また、『43. 復興、創生の更なる推進』以外すべての項目において「わからない」の割合が最も高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-8 参照）。

平均得点をみると、『43. 復興、創生の更なる推進』が 72.5 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『42. D X推進』(67.7 点) でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました (表 3-13 参照)。

図 3-8 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

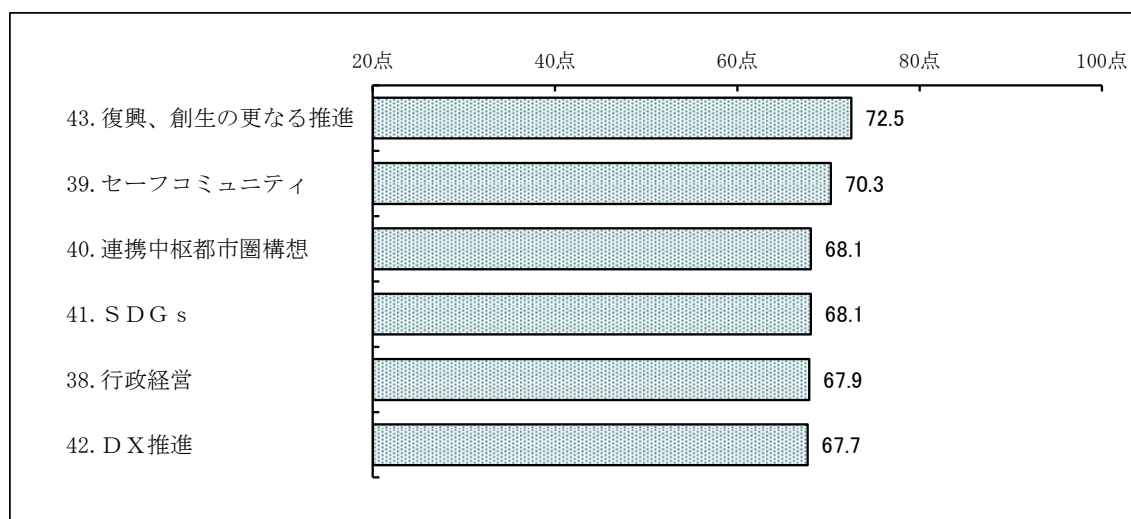


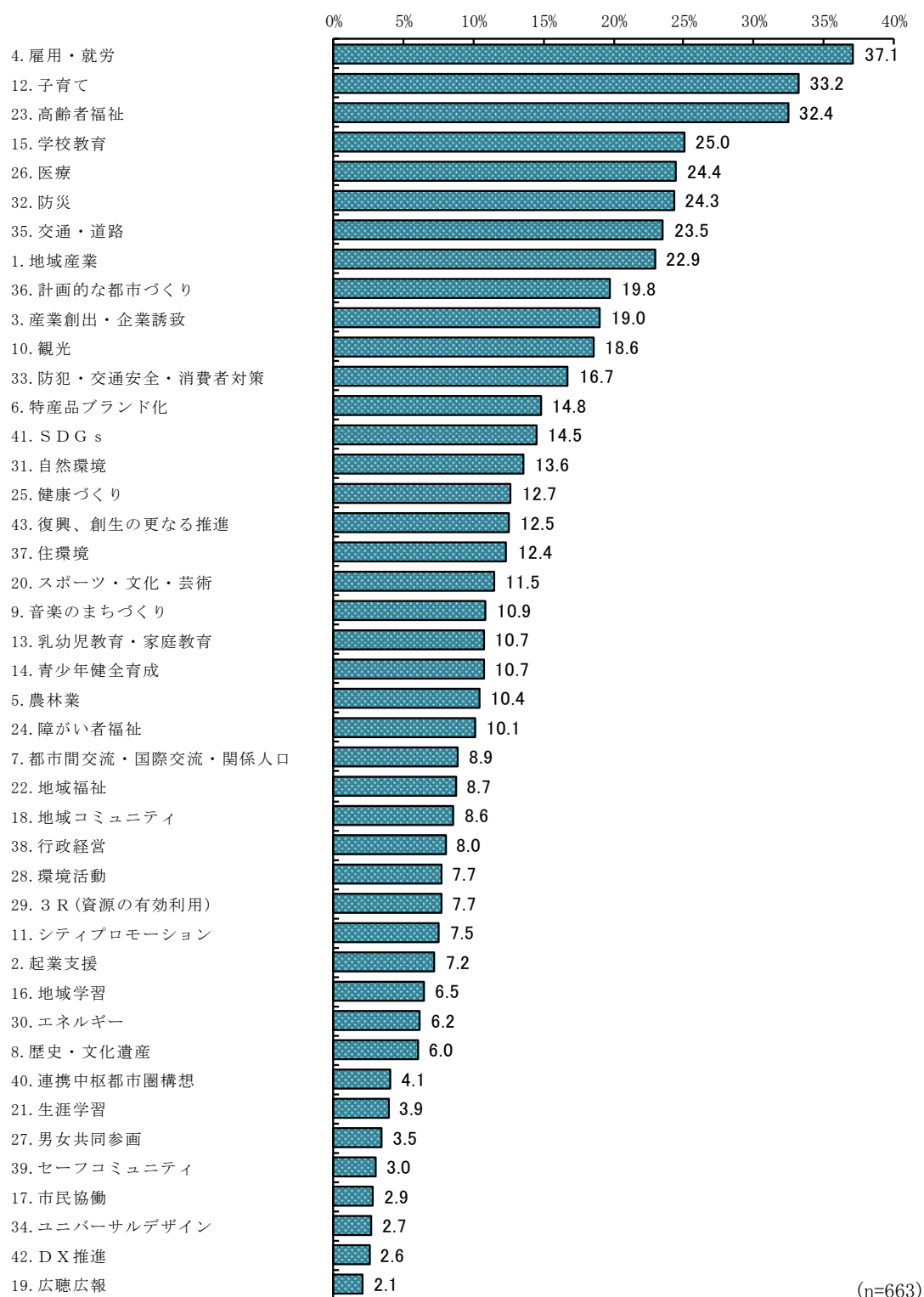
表 3-13 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	復興、創生の 更なる推進 (71.4点)	復興、創生の 更なる推進 (73.3点)
2位	セーフ コミュニティ (70.7点)	セーフ コミュニティ (69.5点)
3位	SDGs (68.9点)	DX推進 (68.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	SDGs (80.0点)	復興、創生の 更なる推進 (80.5点)	復興、創生の 更なる推進 (70.7点)	復興、創生の 更なる推進 (72.6点)	復興、創生の 更なる推進 (70.3点)	復興、創生の 更なる推進 (70.3点)	セーフ コミュニティ (73.9点)
2位	DX推進 (77.1点)	セーフ コミュニティ (75.2点)	セーフ コミュニティ (68.1点)	SDGs (68.4点)	セーフ コミュニティ (68.4点)	連携中枢 都市圏構想 (69.7点)	復興、創生の 更なる推進 (73.4点)
3位	行政経営 (76.7点)	SDGs (73.8点) DX推進 (73.8点)	SDGs (65.7点)	DX推進 (67.5点)	連携中枢 都市圏構想 (67.8点)	セーフ コミュニティ (69.5点)	連携中枢 都市圏構想 (71.6点)

(5) 分野別属性別重要度結果（複数回答）

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、特に重要と思われるものの番号を1～43から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



【全体結果】

『4. 雇用・就労』(37.1%)の割合が最も高くなっています。以下、『12. 子育て』(33.2%)、『23. 高齢者福祉』(32.4%)、『15. 学校教育』(25.0%)、『26. 医療』(24.4%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました（表3-14参照）。

表3-14 これからの取組についての重要度＜性別、年代別の上位5つ＞

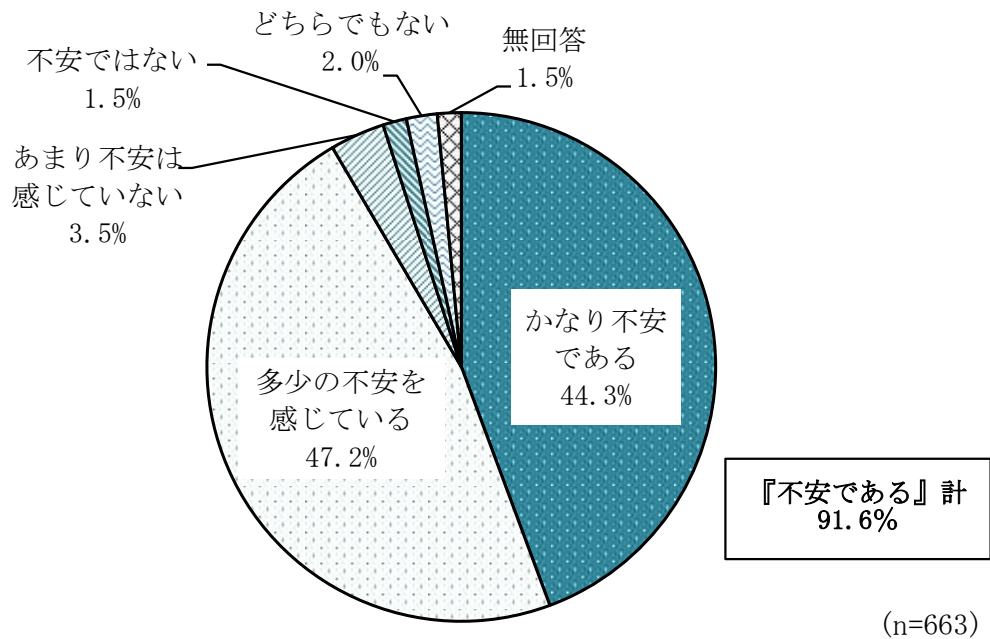
	男 性	女 性
1位	雇用・就労 (36.9%)	雇用・就労 (38.1%)
2位	子育て (33.4%)	高齢者福祉 (35.9%)
3位	高齢者福祉 (28.3%)	子育て (32.8%)
4位	交通・道路 (25.2%)	学校教育 (29.9%)
5位	地域産業 (23.8%)	医療 (28.8%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品ブランド化 (38.5%)	雇用・就労 (42.9%)	子育て (70.4%)	雇用・就労 (42.2%)	雇用・就労 (44.4%)	雇用・就労 (36.5%)	高齢者福祉 (38.9%)
2位	医療 (38.5%)	観光 (42.9%)	雇用・就労 (38.0%)	子育て (36.7%)	高齢者福祉 (41.1%)	高齢者福祉 (34.5%)	雇用・就労 (27.8%)
3位	SDGs (38.5%)	子育て (40.5%)	学校教育 (32.4%)	学校教育 (35.8%)	防災 (32.3%)	子育て (29.1%)	交通・道路 (22.9%)
4位	学校教育 (30.8%)	交通・道路 (38.1%)	医療 (32.4%)	高齢者福祉 (31.2%)		防災 (25.0%)	
5位	都市間交流・国際交流・関係人口 (23.1%) 観光 (23.1%) 地域学習 (23.1%) スポーツ・文化・芸術 (23.1%) 地域福祉 (23.1%) 障がい者福祉 (23.1%) 男女共同参画 (23.1%) 3R（資源の有効利用） (23.1%) 自然環境 (23.1%) 防犯・交通安全・消費者対策 (23.1%) ユニバーサルデザイン (23.1%)	医療 (28.6%)	観光 (26.8%)	医療 (29.4%)	地域産業 (28.2%) 子育て (28.2%) 医療 (28.2%)	医療 (23.6%) 交通・道路 (23.6%)	地域産業 (21.5%) 学校教育 (21.5%) 復興、創生の更なる推進 (21.5%)

4. 気候変動対策（地球温暖化対策）について

（1）自然環境の変化への不安感

問 地球温暖化の影響による平均気温の上昇や豪雨災害の増加など、自然環境の変化についてどのように感じていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



—— 9割の市民が自然環境の変化への不安を感じている ——

【全体結果】

自然環境の変化への不安感については、「かなり不安である」（44.3%）と「多少の不安を感じている」（47.2%）の両者を合計すると『不安である』（91.6%）となっています。

一方、「不安ではない」（1.5%）と「あまり不安は感じていない」（3.5%）を合計すると『不安はない』（5.0%）となっています。

【属性別結果】（図 4-1 参照）

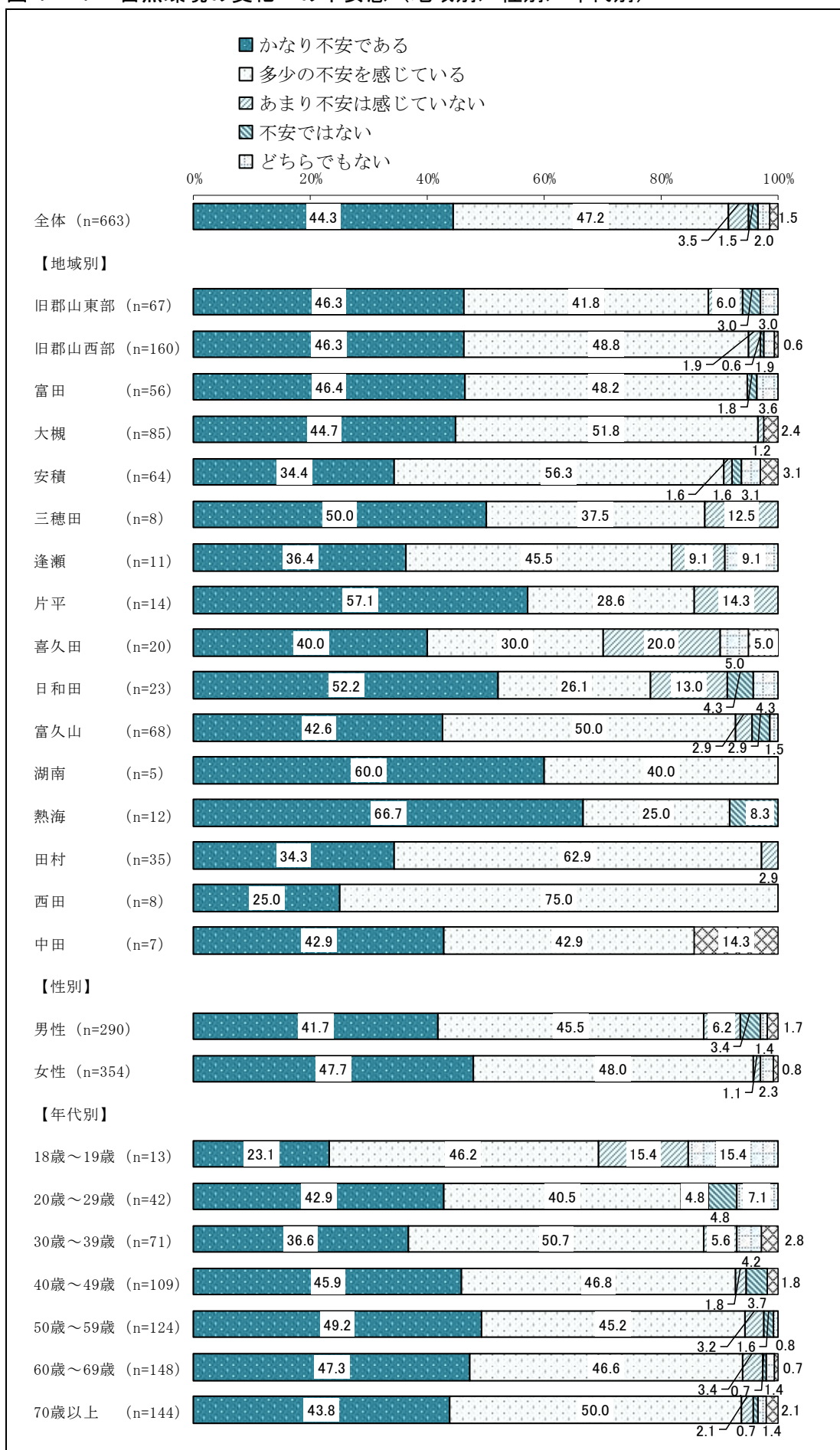
① 性別

『不安である』の割合は、女性（95.8%）の方が男性（87.2%）よりも高くなっています。

② 年代別

『不安である』の割合は、30代以上で9割前後と高く、20代（83.3%）で最も低くなっています。

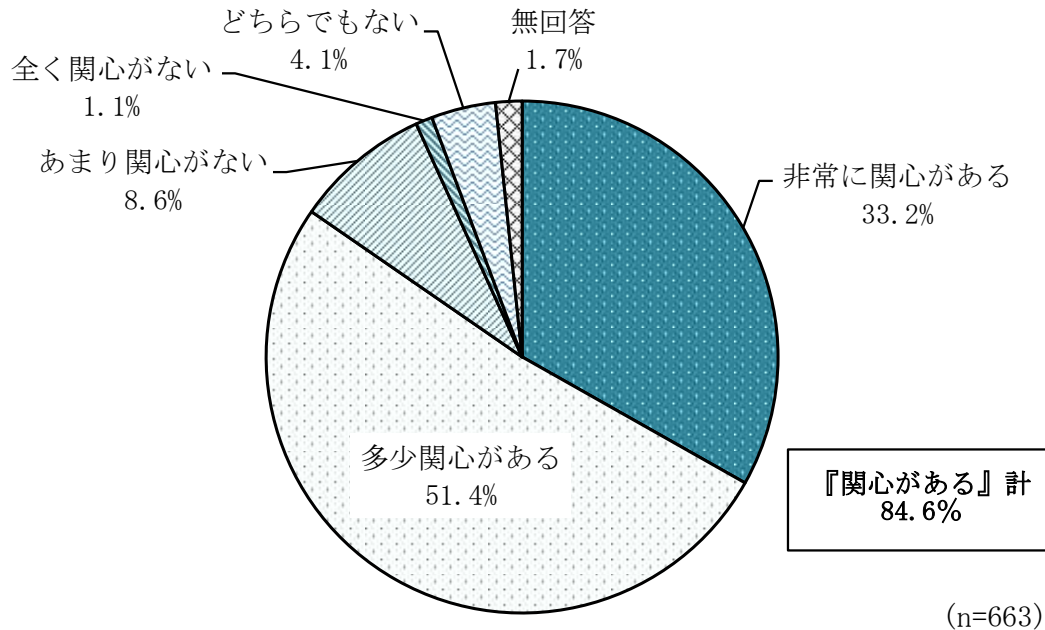
図 4-1 自然環境の変化への不安感（地域別／性別／年代別）



（２）気候変動対策への関心

問 気候変動対策（二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの削減等）について、どのように感じていますか？

あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



—— ８割半の市民が気候変動対策への関心がある ——

【全体結果】

気候変動対策への関心については、「非常に興味がある」（33.2%）と「多少興味がある」（51.4%）の両者を合計すると『興味がある』（84.6%）となっています。

一方、「全く興味がない」（1.1%）と「あまり興味がない」（8.6%）を合計すると『関心がない』（9.7%）となっています。

【属性別結果】（図 4-2 参照）

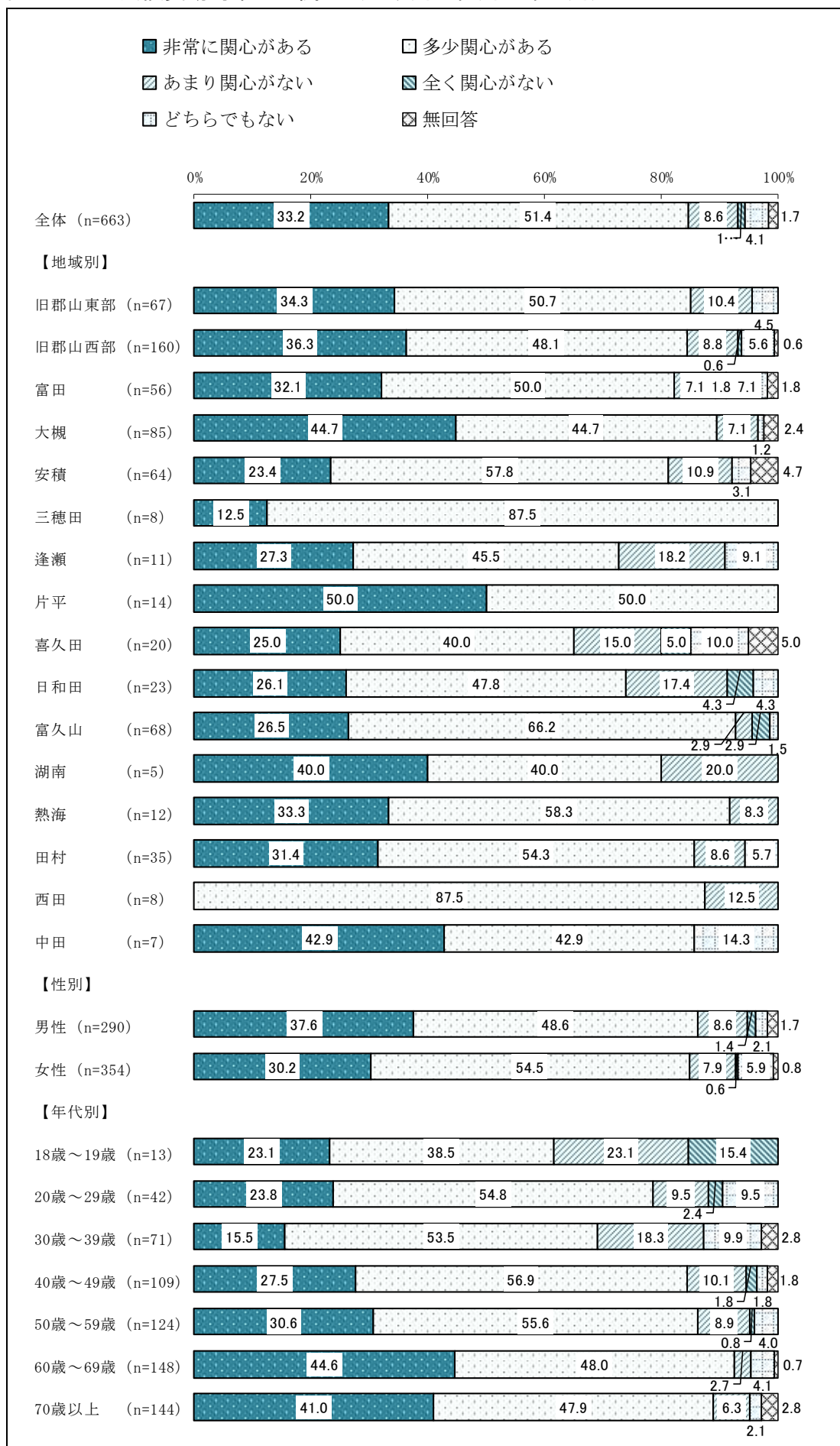
① 性別

『興味がある』の割合は、男性（86.2%）の方が女性（84.7%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『興味がある』の割合は、60代（92.6%）で最も高く、約9割となっています。最も低いのは30代（69.0%）でした。

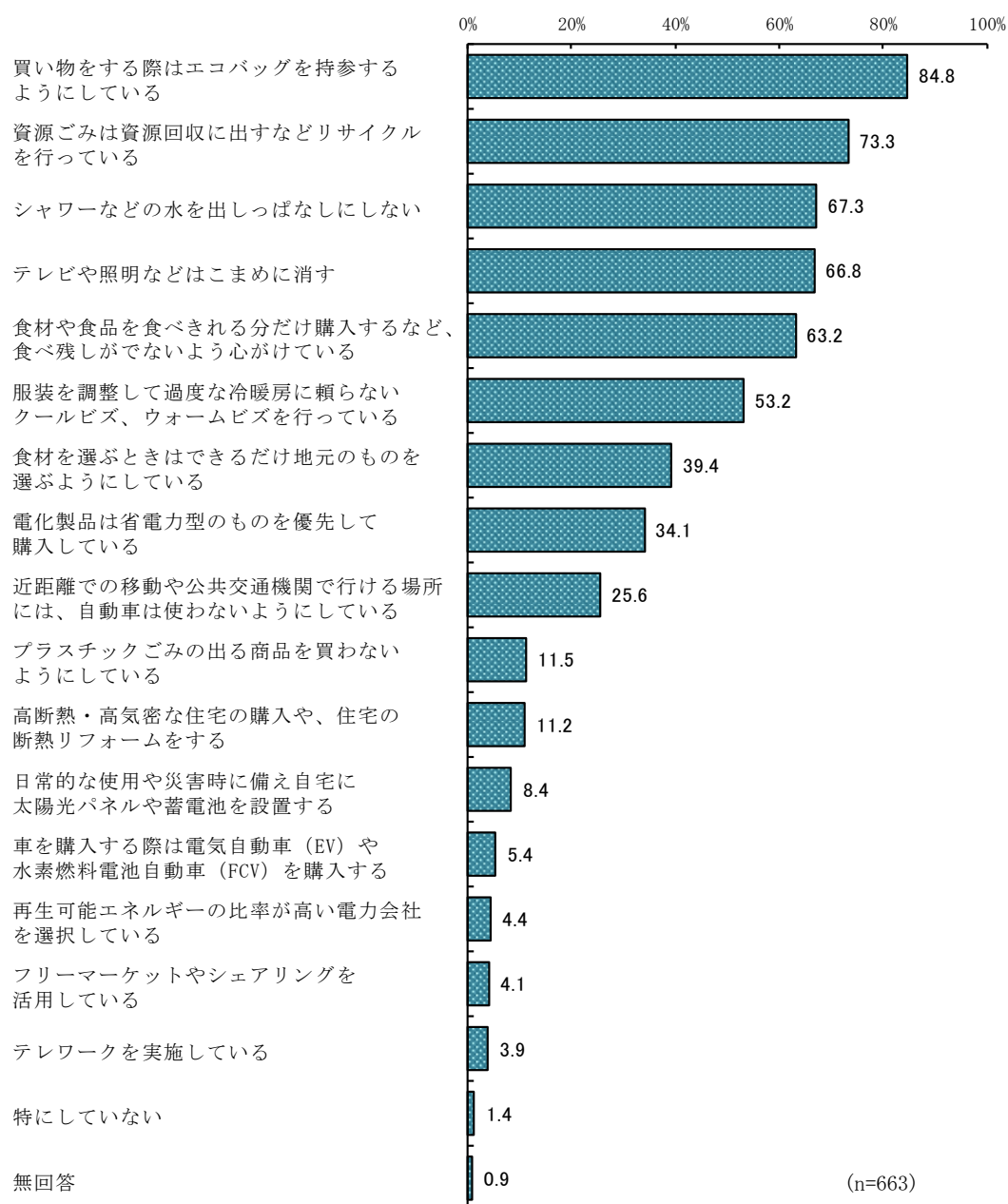
図 4-2 気候変動対策への関心（地域別／性別／年代別）



(3) 日常生活の中で環境に配慮している取組み（複数回答）

問 あなたが日常生活の中で環境に配慮している取組みは何ですか？

あてはまる番号について全て選び、○印をつけてください。



— 8割以上が「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」 —

【全体結果】

環境に配慮している取組みとして最も多かったのは「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」(84.8%)となっています。次いで、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」(73.3%)、「シャワーなどの水を出しっぱなしにしない」(67.3%)、「テレビや照明などはこまめに消す」(66.8%)、「食材や食品を食べきれ分だけ購入するなど、食べ残しがでないよう心がけている」(63.2%)、「服装を調整して過度な冷暖房に頼らないクールビズ、ウォームビズを行っている」(53.2%)と続き、半数以上の市民が取り組んでいます。

【属性別結果】(図 4-3 参照)

① 性別

「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」の割合は女性(92.4%)で特に高く9割以上となっています。

② 年代別

すべての年代において「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」が8割以上となっています。

また、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」、「食材を選ぶときはできるだけ地元のものを選ぶようにしている」は年代が高いほど割合が高い傾向にあります。

図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～1/6～（地域別／性別／年代別）

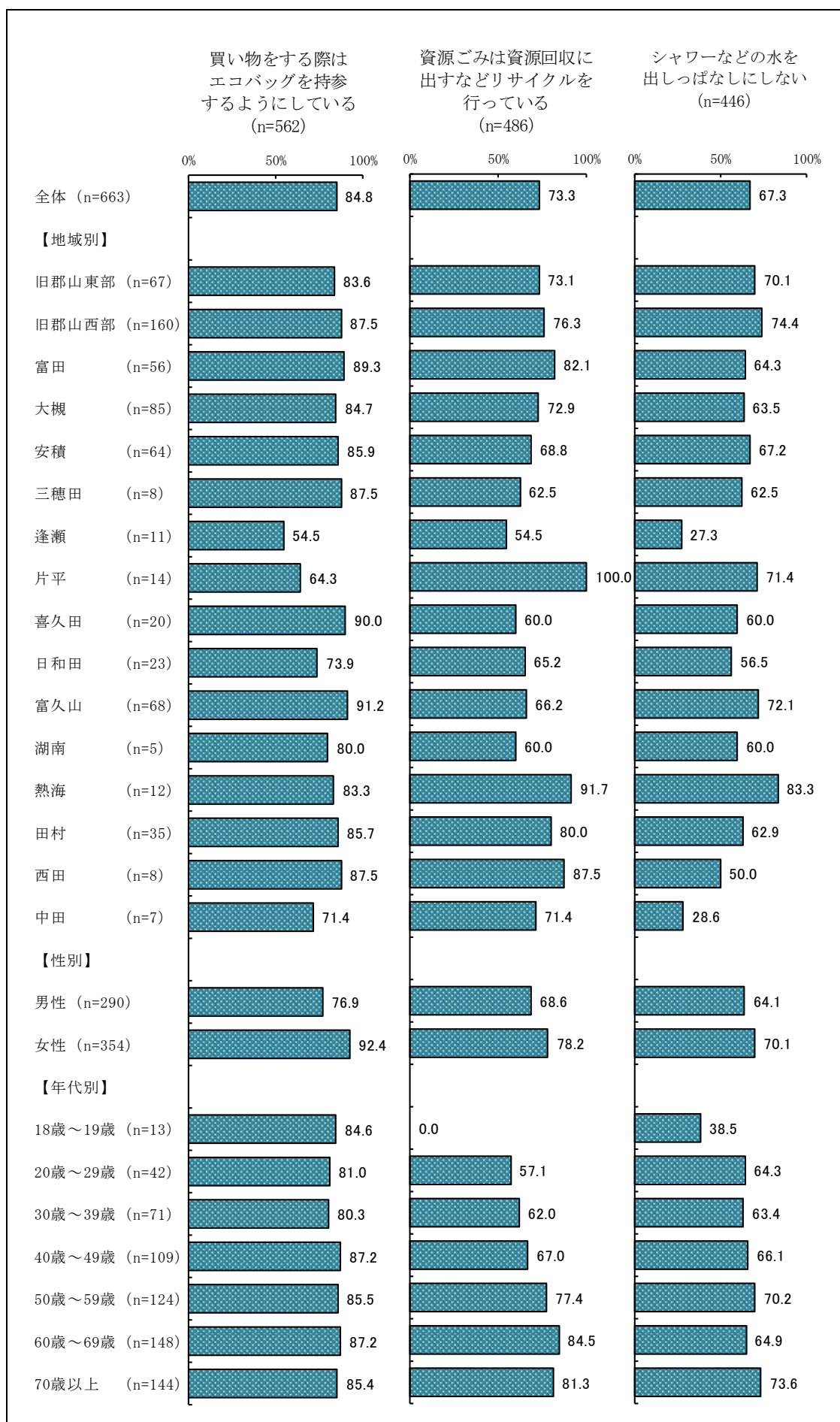


図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～2/6～（地域別／性別／年代別）

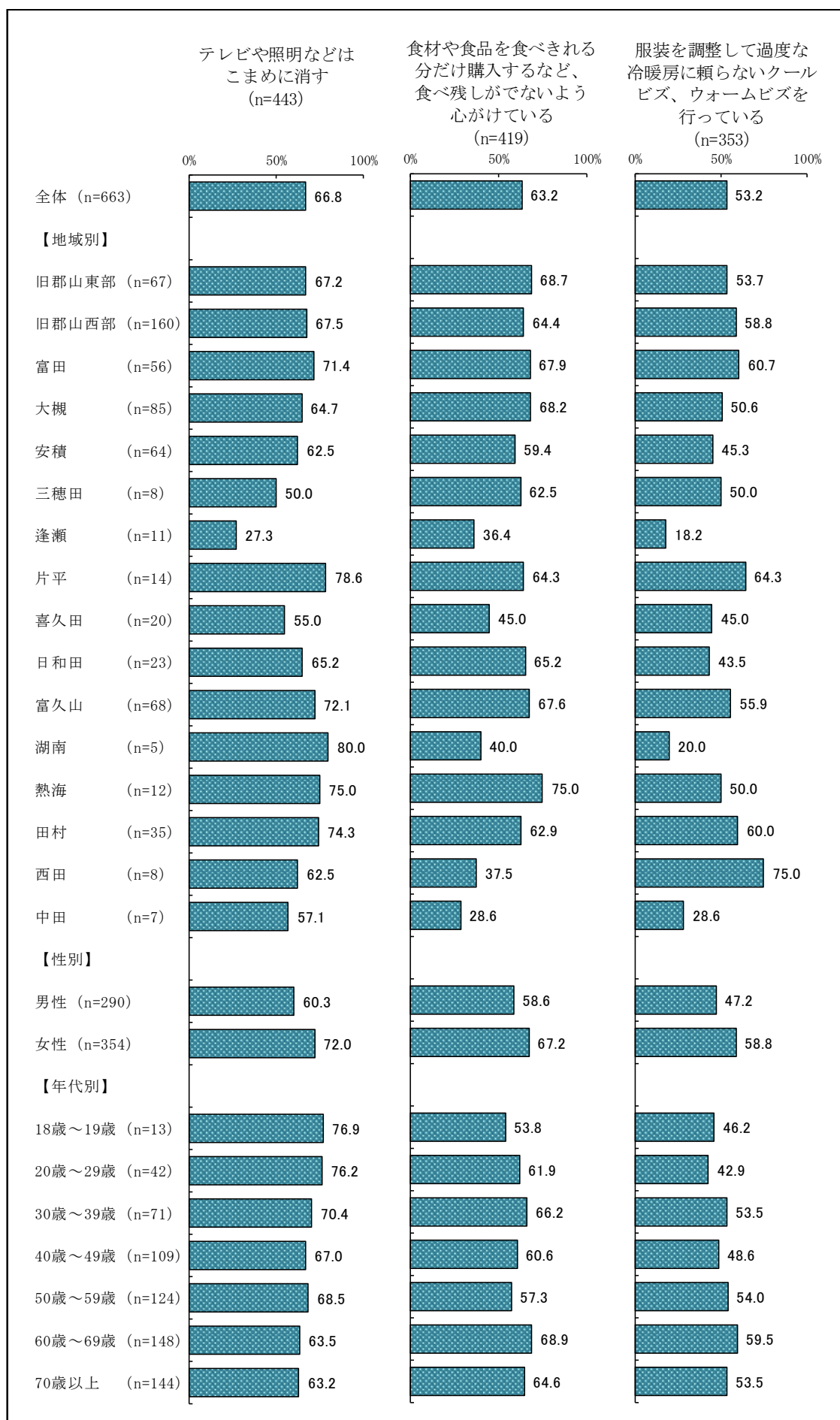


図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～3/6～（地域別／性別／年代別）

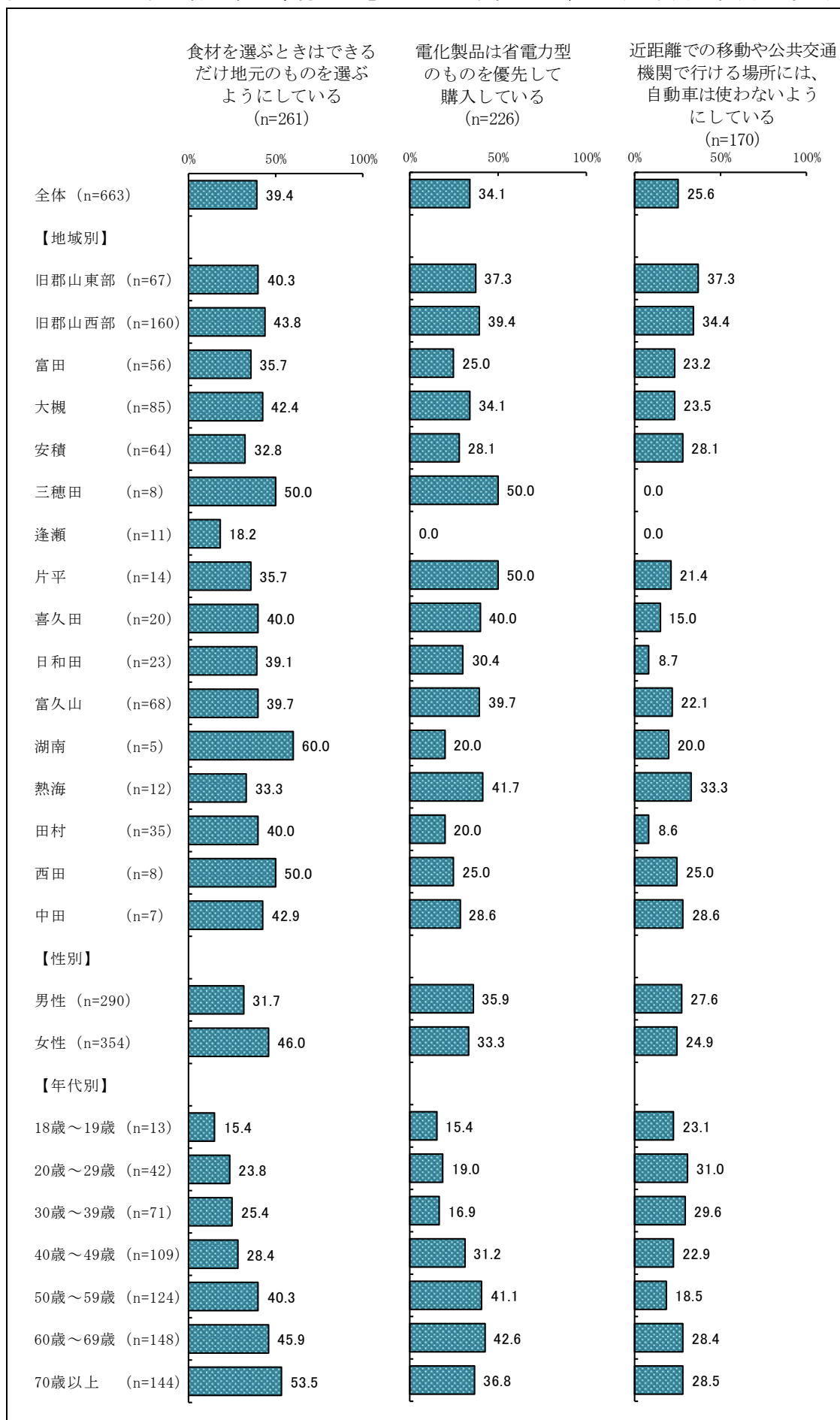


図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～4/6～（地域別／性別／年代別）

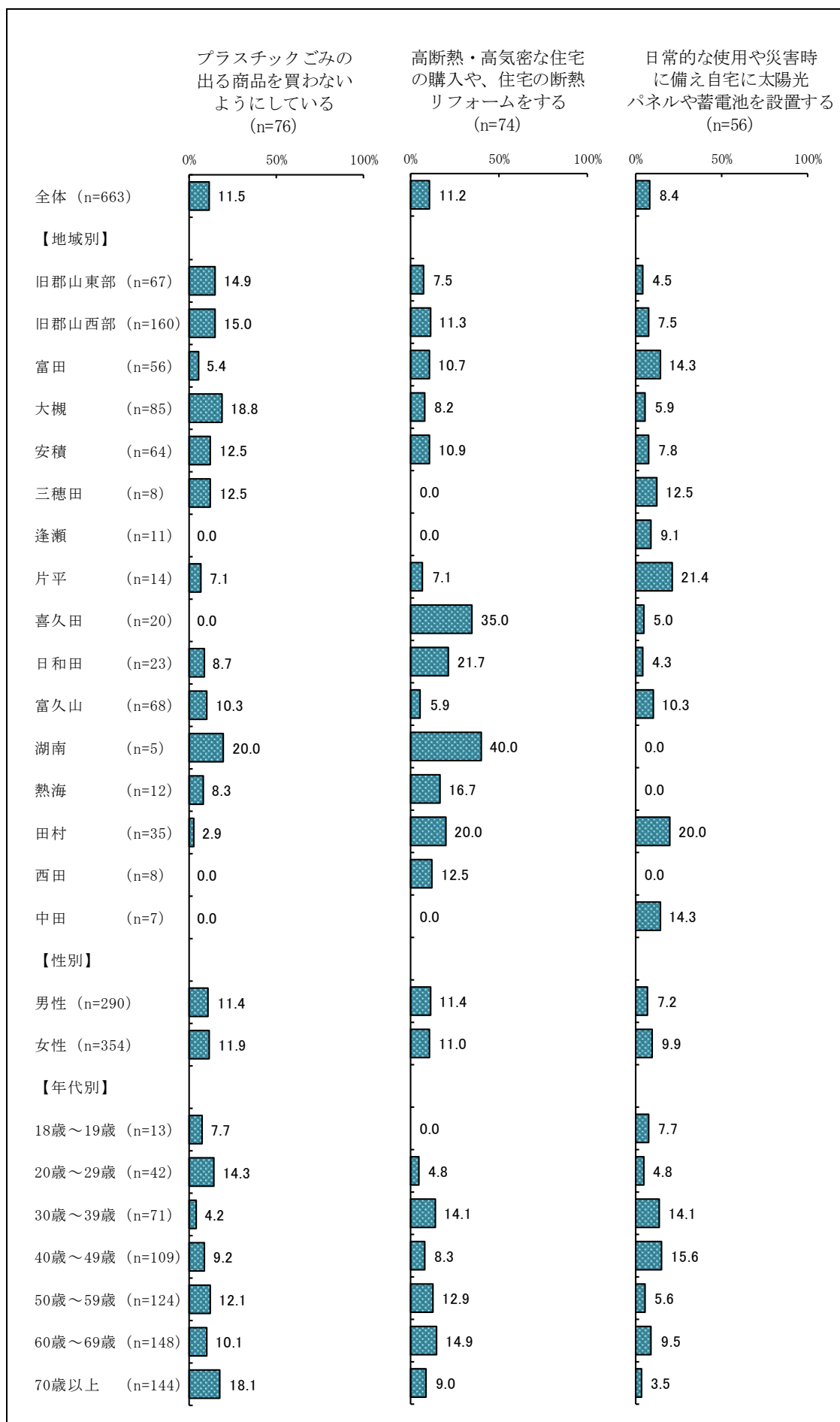


図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～5/6～（地域別／性別／年代別）

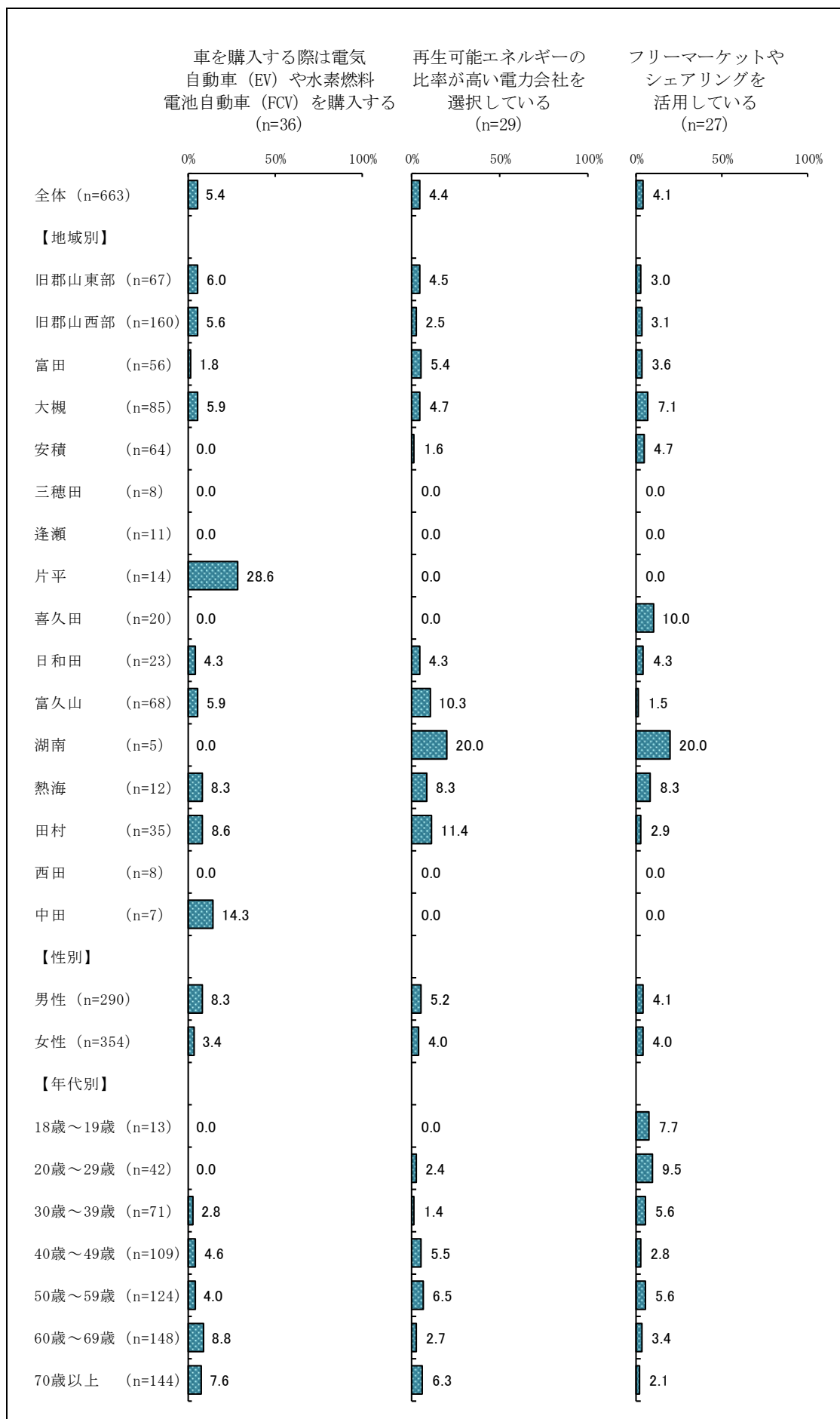
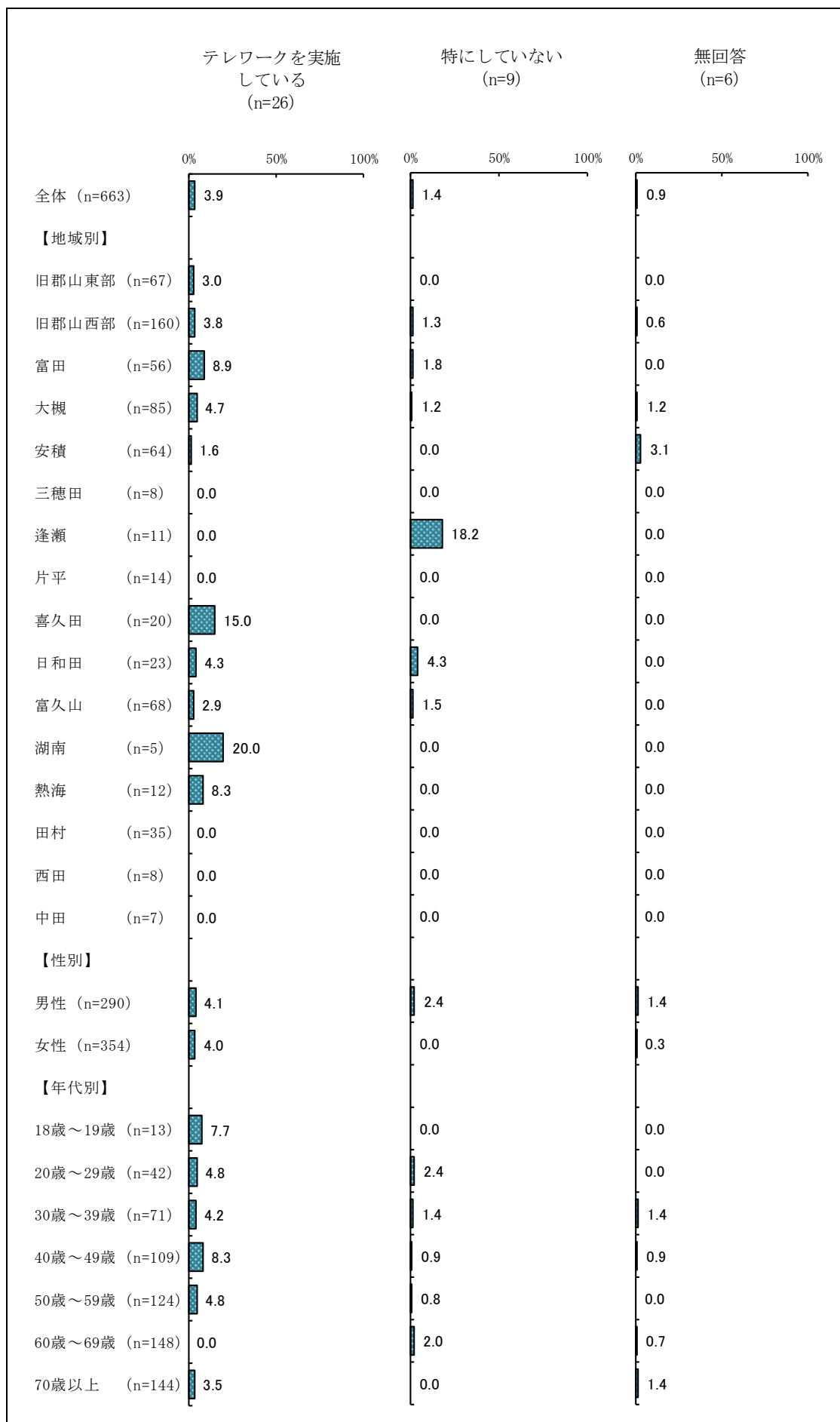


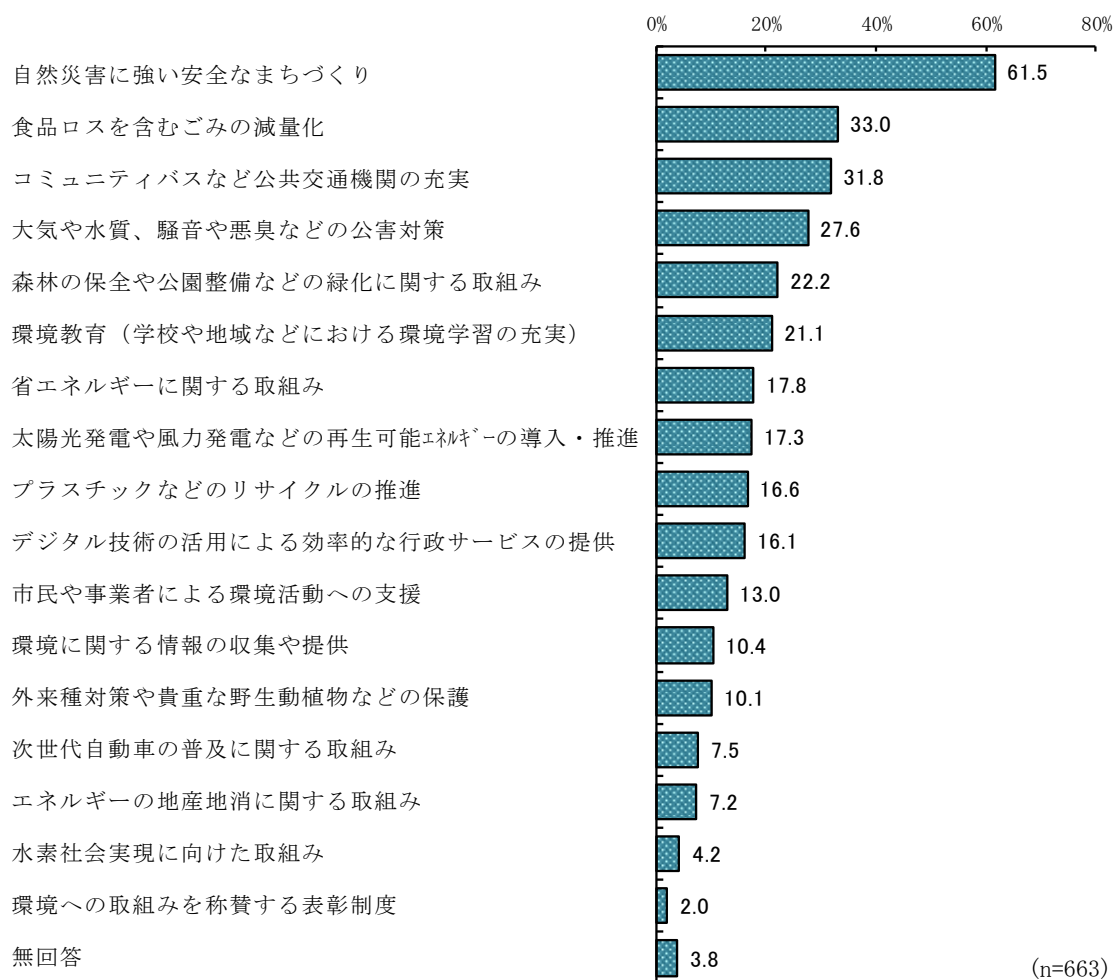
図 4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～6/6～（地域別／性別／年代別）



(4) より良い環境づくりのために取組むべきこと（複数回答）

問 より良い環境づくりを進めるために、郡山市は今後どのようなことに
力を入れて取組むべきだと思いますか？

あてはまる番号を3つ選び、○印をつけてください。



— より良い環境づくりのために取組むべきことは

「自然災害に強い安全なまちづくり」 —

【全体結果】

より良い環境づくりを進めるために、郡山市が力を入れて取り組むべきとして最も多かったのは「自然災害に強い安全なまちづくり」（61.5%）となっています。次いで、「食品ロスを含むごみの減量化」（33.0%）、「コミュニティバスなど公共交通機関の充実」（31.8%）が3割台が続いています。

【属性別結果】（図 4-4 参照）

① 性別

男性、女性ともに「自然災害に強い安全なまちづくり」が最も多くなっています。女性（67.5%）の方が男性（56.6%）よりも割合が高くなっています。

② 年代別

すべての年代において「自然災害に強い安全なまちづくり」が5割以上となっています。

また、30代では他の年代に比べ「環境教育（学校や地域などにおける環境学習の充実）」割合が高くなっています。

図４－４ より良い環境づくりのために取組むべきこと～1/6～（地域別／性別／年代別）

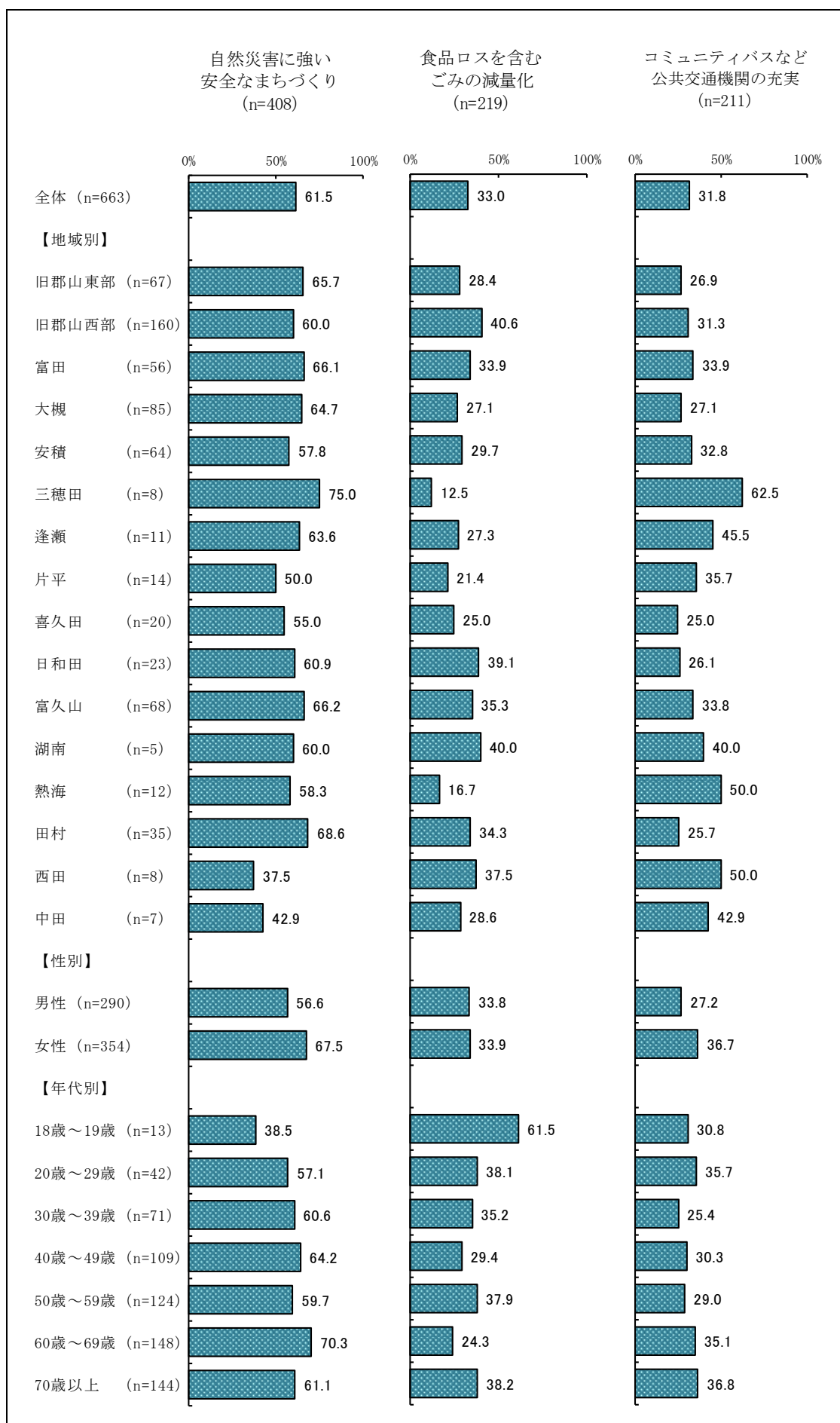


図 4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～2/6～（地域別／性別／年代別）

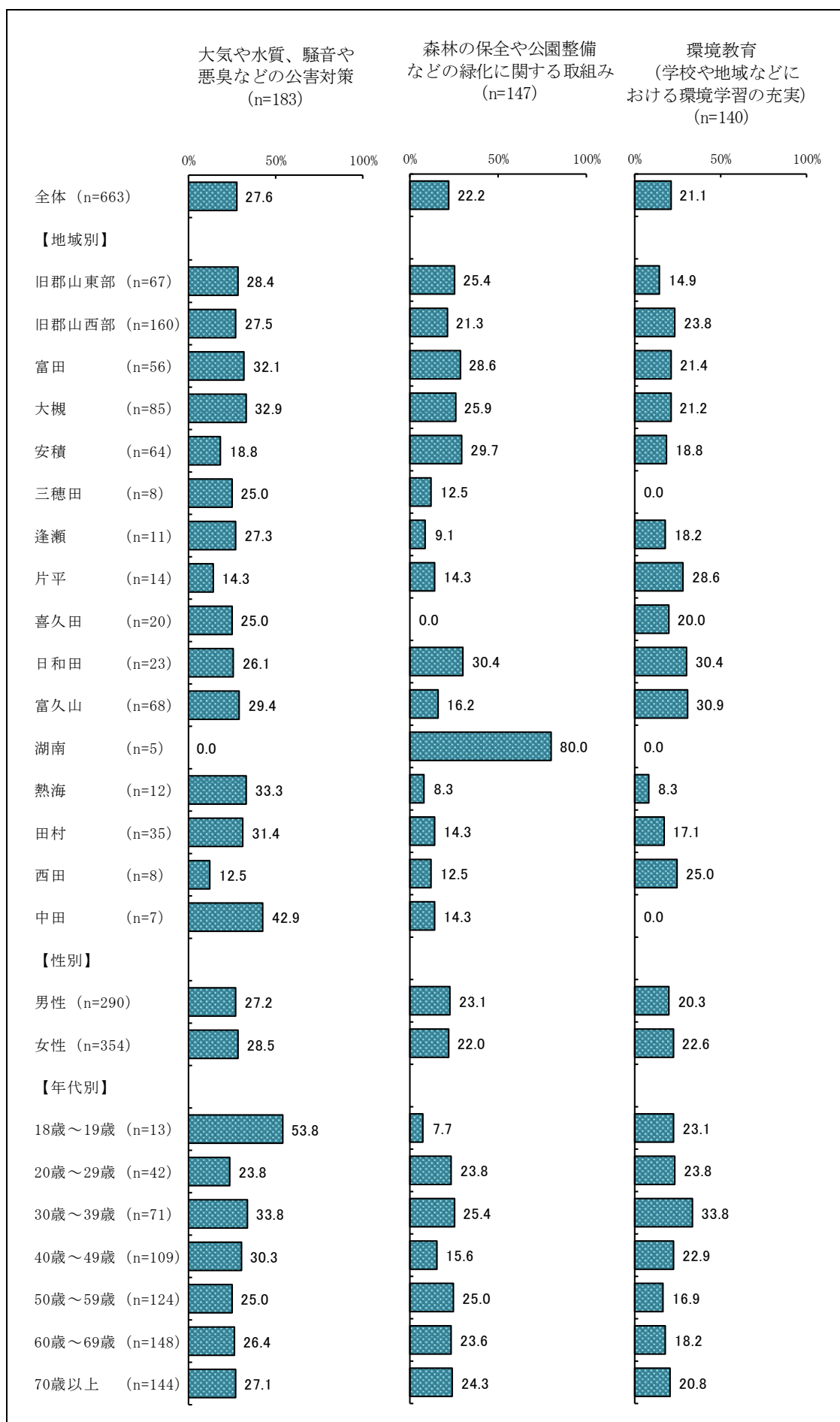


図 4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～3/6～（地域別／性別／年代別）

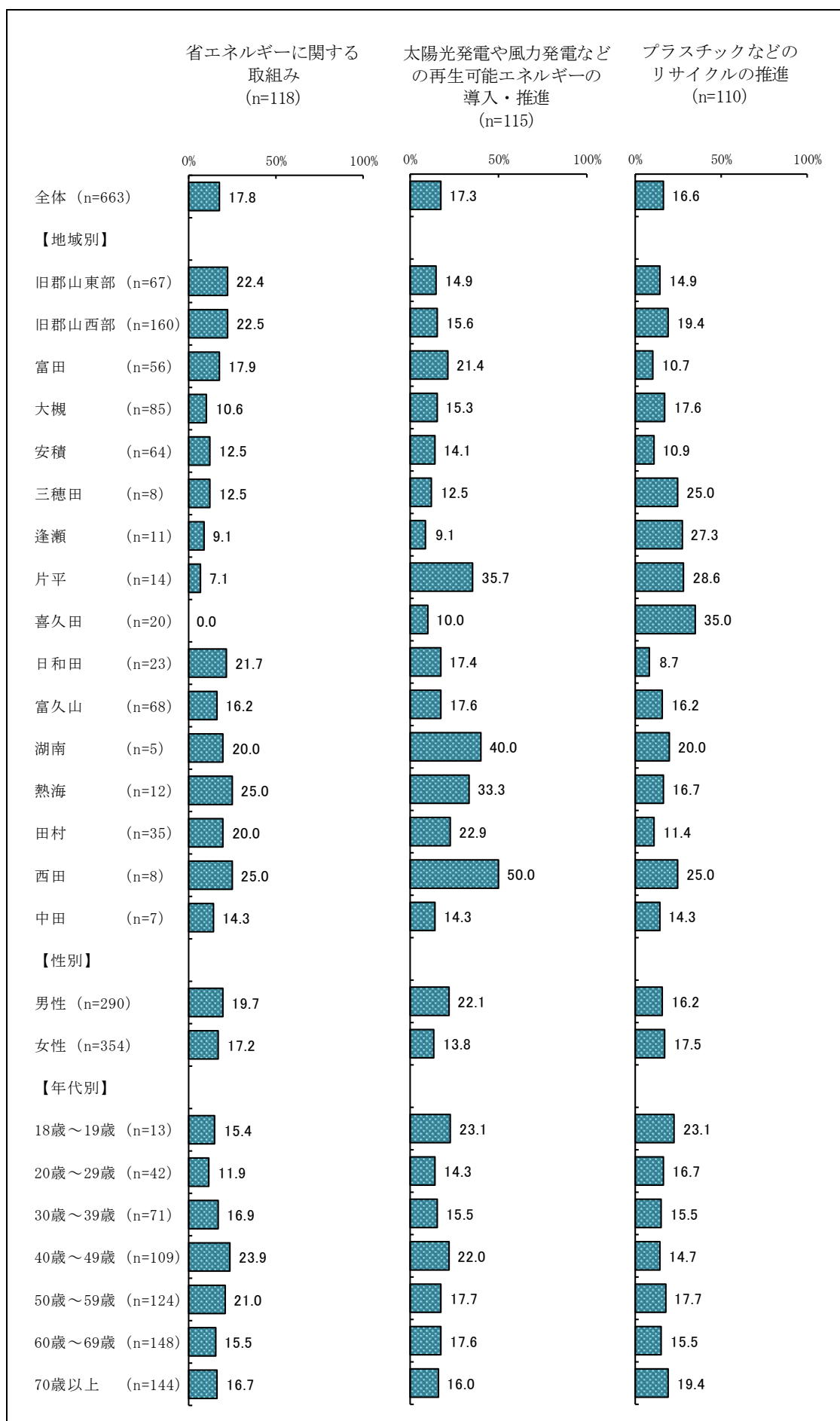


図 4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～4/6～（地域別／性別／年代別）

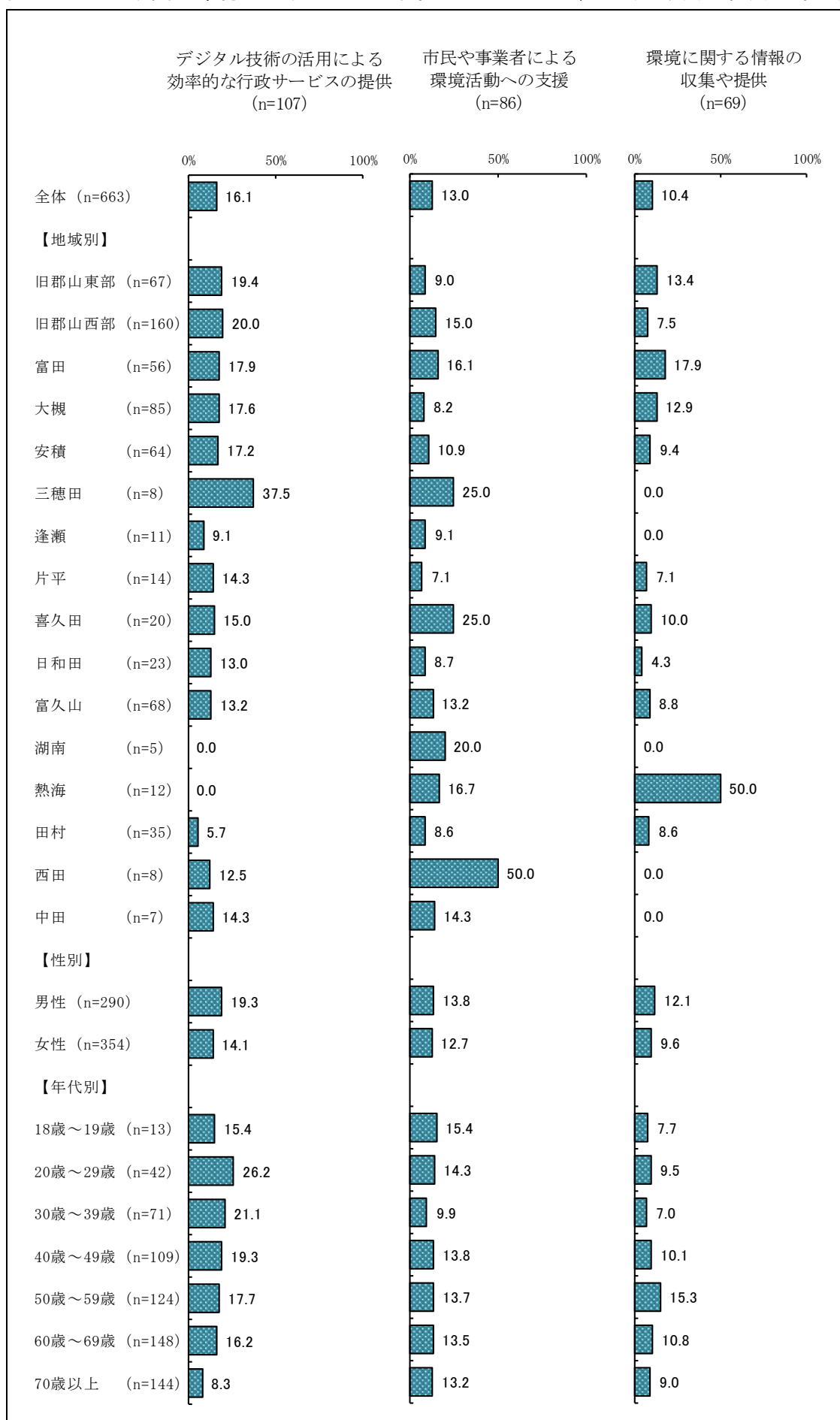


図 4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～5/6～（地域別／性別／年代別）

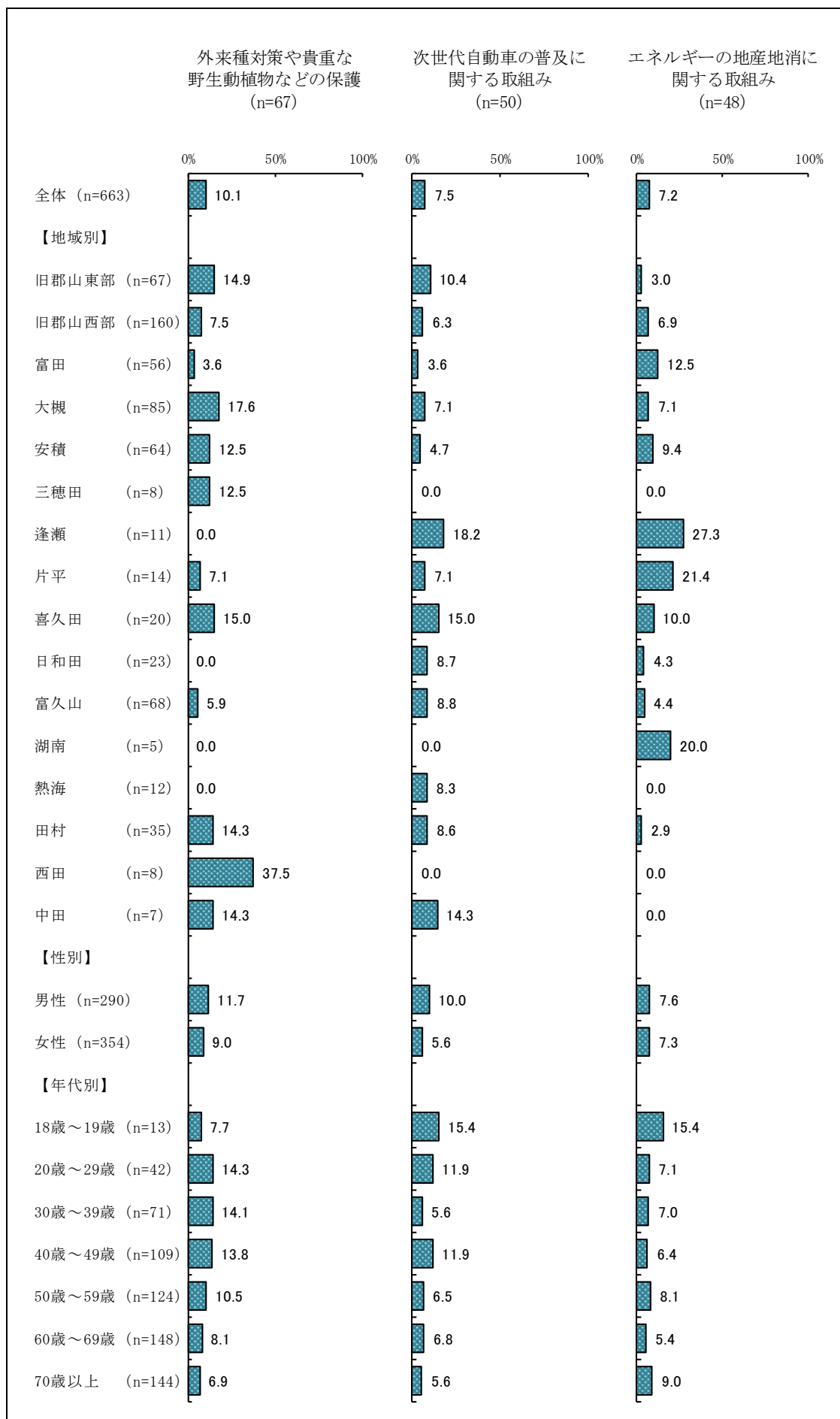
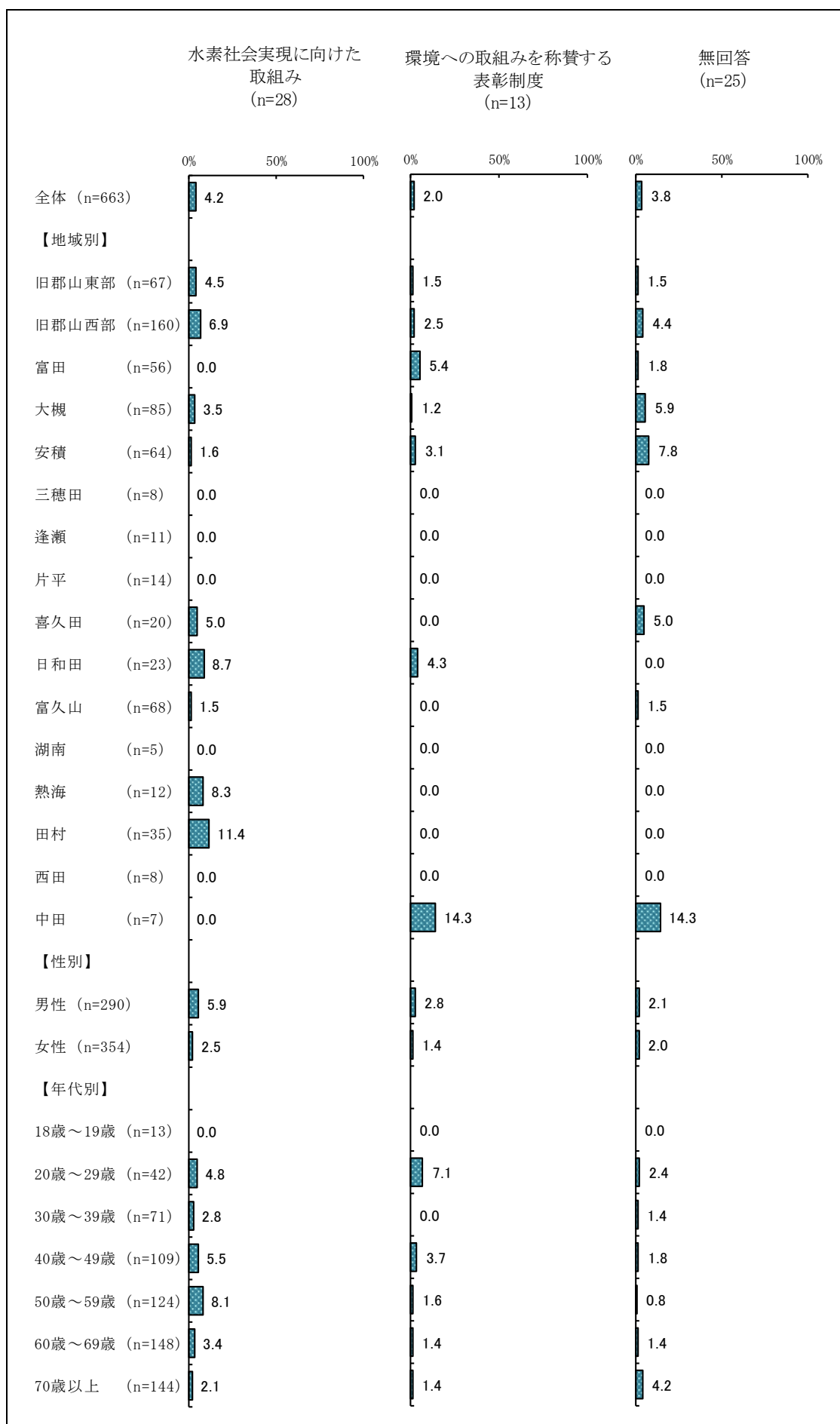


図 4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～6/6～（地域別／性別／年代別）



5. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）

【商業・工業】

- ・ 産業創出、企業誘致を多くしてもらいたい。(男性・70代以上)
- ・ 企業癒着が多すぎて、新規参入、発展の妨げになっている。時代遅れ。(女性・40代)

【雇用】

- ・ 後継者問題、高齢者の就労に不安を感じます。(女性・50代)
- ・ 年齢制限（高齢になるほど）があり、働きたくとも働けない（条件など、すごく下げなければならないので、郡山は働きにくい）。(女性・40代)

【農林業】

- ・ 特産品ブランド化。まず市民への定着がされていない。(男性・40代)
- ・ 地産地消と言いながら特産品やブランド野菜などの価格が高めなので、県外国外の産物に目がいきがちです。(女性・50代)
- ・ 小規模農家を守ってほしい！！(男性・40代)

【分野Ⅱ】交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）

【交流】

- ・ 市民レベルでの国際交流がもっと必要だと思う。(女性・60代)
- ・ 外国の方も多く見るようになったと感じています。(女性・20代)

【文化】

- ・ 「音楽のまち」とうたっているが、日常でそれを感じることは少ない。仙台市のジャズフェスのような事業があればいいと思う。郡山市の魅力とは？あまり感じたことがない。(女性・50代)

【観光】

- ・ 県外から来た人への観光のアプローチができない。(男性・30代)
- ・ とても良い観光地（温泉山々等）があるのに知名度が広まっていない。もっと PR

してほしい。(女性・70代以上)

【シティプロモーション】

- ・ 静御前エピソード、伝説、旅等のアピールが足りなく、面白みのない市と感じる。市民が対外的にも誇りを持てるアピールが欲しい。(男性・60代)
- ・ 歴史・文化遺産、音楽のまちづくり、観光、シティプロモーションについては、公式 youtube で紹介 PR してはどうでしょうか。訪れる方やコロナ下でも行けなくても体験として視聴出来て勉強になります。海外向けにも国内向けにも拡散できるのではないのでしょうか。(女性・40代)

【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)

【子育て】

- ・ 病児保育ができる場所をもっと増やすと、子育てしながら働いている人たちがもっと働き易くなると思う。(女性・30代)
- ・ ヤングケアラーの子どもの支援をしてほしい。(女性・60代)
- ・ 数年前よりも子育てしやすい環境が整ってきていると感じる。もっともっと子どもたちが遊べる場所を増やして欲しい。(女性・40代)

【教育】

- ・ 塾に通えない子もいるので、そういう子たちが学べるよう、もしくは放課後の空き教室で学べるような場所があれば良いのでは？格差社会で裕福な家庭の子は得する。(女性・50代)
- ・ 教師、支援員の人数が足りない。(女性・60代)

【地域学習】

- ・ 漠然としか言えないが、子どもたちへ郡山の魅力などはあまり良く伝えられていないかと思う(情報過多時代背景もあり)。(男性・50代)
- ・ 公民館、体育館施設、図書館等が高齢者向けになっていて、子どもたちが気軽に使えない事が多い。土日の体育館やテニスコート等は児童枠等を設けるなどの対策が必要。今の子どもたちは公園でも気軽に遊べず、かわいそうです。(女性・50代)

【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)

【市民協働】

- ・ 他人とのかかわりが薄れてきている。若者が離れて行ってしまうのが心配。(女性・50代)
- ・ 活発な方はいろいろと参加し、充実しているのですが、縁のない方には知られてないように思います。市民全員が何かしら参加できる企画があれば、などと思います。(女性・50代)
- ・ 若年層が入りやすいような地域活動が増えたらうれしいです。(男性・20代)

【生涯学習】

- ・ 生涯学習は選択メニューが少ない。(男性・60代)

【保健福祉】

- ・ 高齢者福祉がどんな内容かがわからない。(女性・60代)
- ・ 高齢化社会になり、隣近所をみて少々不安になります。(女性・70代以上)

【男女共同参画】

- ・ 男尊女卑の意識が残っている地域であると思う。(女性・20代)
- ・ 「男女共同参画社会の実現」と言われて久しいが、国のレベルも低く、まして地方のレベルも低い。もっと将来を未来を見越した考えで取り組まないといけないのでは。国の取組みより地方の取組みの方が進んでいても良いのでは。(男性・60代)

【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)

【環境】

- ・ 原発の影響で住んでいる地域は生活排水や雨水を流す側溝の清掃ができてません。ゴミがたまり夏は虫がわいています。公道にある排水の柵を市の方で定期的きれいにしてほしい。(女性・50代)
- ・ ゴミに関しての意識が低い。ちゃんと専用ゴミ袋を作り販売するべき。ほぼどんなゴミでも無料で回収なんてあり得ない。ゴミ処理にかかる費用をもっと市民が負担する事でゴミの捨て方、リユースなどの意識が高くなると思います。この町の規模で専用ゴミ袋ない都市ってほとんどないのでは？(女性・40代)
- ・ 多くの自然に囲まれているのに、便利、流行などに流され自然が失われつつあり、残念に思う。(男性・70代以上)

【防災】

- ・ 除雪、河川の整備をし、災害に対しての不安を解消してほしい。(女性・50代)
- ・ 地震が起こる度に長期間市の施設が使えなくなるのはなぜなのか。予算措置は正しく行われているのか。震災のようなことがまた起こったらどうするか、本当に想定されているのか疑問である。(男性・50代)

【市民安全】

- ・ 側溝の整備を進めたり、歩いていて危ない所を早く直してほしい。(女性・40代)
- ・ 子どもたちが遊ぶ公園で草がボーボーの所がたまにある。外灯が少ない。子ども、学生たちが安全に帰ってこれるよう、裏道こそ明るくすべき。(女性・30代)

【生活インフラ】

- ・ 未だに下水道が普及していない地域がある。(男性・70代以上)
- ・ 市内をコミュニティバスが循環してほしい。(女性・60代)
- ・ 車がないと生活できない。県外移動の高速バスは便が良いと思うが、市内を移動

するバスや電車の利便性は悪い。(女性・20代)

- ・ お年寄りなども便利に生活できる交通環境を考えて欲しい。(女性・50代)

【分野Ⅵ】基盤的取組（行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進）

【行政経営】

- ・ 市として色々な取組みが行われているのだと思いますが、正直なところよく分かりません。(男性・40代)
- ・ わからないと回答するのは、市民が何をしているのかわかっていないということだと思います。新聞やニュースを見たらいいのにも思うかもしれませんが、テレビ離れしている時代でPRの仕方は他にもあります。時代に合わせたやり方をしないとせっかく良いことに取り組んでもわからない、理解されないままです。市民が知らないというのは、やっていないのと同然だと思うのでぜひPRの方法を再検討してください。(女性・20代)

【セーフコミュニティ】

- ・ 自転車専用レーンなどが所々にありますが、あまり利用されている感じがありません。(女性・60代)

【SDGs】

- ・ 具体的なSDGsの取組みが伝わってこない。(女性・50代)
- ・ 郡山市はSDGsによるまちづくりを進めていますが、17の目標の土台にあるのはジェンダー平等と考えます。ジェンダー平等は、男女共同参画センターが中心になって推進していますが、社会教育の最前線である公民館事業の中でさらに展開してもらえるとジェンダー平等をもっと推進できると思います。(男性・60代)

【DX推進】

- ・ オンライン化、キャッシュレスの推進はまちまちで、分かる人解からない人となっています。もっと行政の主導で地域に進めてほしい。(女性・50代)
- ・ オンライン化キャッシュレス化など便利だと思うが情報がきちんと守られるかが不安でなかなか協力的になれない。(女性・50代)

【復興、創生の更なる推進】

- ・ 復興、創生は各個人、会社でやっているのはわかるが、市が活動するのは知らない。見える化してないのに、行政の事に対して答えようがない。(女性・60代)
- ・ 復興、食の安全など意識が薄れてきていると感じます。(女性・40代)

(付) 調 査 票 様 式

あなたの声をお聞かせください

～ 2022年度郡山市民意見レーダー ～



<回答に当たってのお願い>

【共通】

- 回答期限は5月28日（土）までです。
- この調査は、個人を対象にしていますので、あなた（あて名の方）ご自身の判断でお答えください。

【調査票による回答の場合】

- 調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。
- 調査票へのご記入は、黒、青色等のボールペンや鉛筆をお使いください。
- 本調査票による回答の場合は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。また、回答は、「あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください」「あてはまる番号について全て選び、○をつけてください」等と質問文に対応した内容でご記入をお願いいたします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。

【スマートフォン・パソコンからの回答の場合】

スマートフォン・パソコンからもご回答いただけます。
右記のQRコード、又は下記の検索等でアクセスのうえご利用ください。

【アクセス方法】

ふくしま電子申請

検索

⇒「ふくしま電子申請」を検索



⇒「ふくしま県市町村共同電子申請システム団体選択-福島県ホームページ」をクリックし「郡山市」を選択 ⇒「2022年度郡山市民意見レーダー」を選択

【入力方法】

1. 「かんたん申請・申込システム」の画面に移行します。ひとつの画面入力が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。
2. 内容確認の画面が出ますので、修正がなければ「送信する」をクリックしてください。
3. 「受け付け」の画面が出たら終了です。

※ 入力できる時間は**1時間以内**です。入力から1時間過ぎますと送信できなくなりますので、その際は改めてはじめてから入力をお願いします。

- ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

<お問合せ先> 郡山市政策開発部広聴広報課

電話：024-924-2061

Email: kocho@city.koriyama.lg.jp

1 幸福度の現状について

あなたが普段感じている気持ちについてお伺いします。

(1) あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1. 幸福を感じる（とても幸せ） | 4. どちらかというと幸福を感じない（どちらかというと不幸せ） |
| 2. どちらかというと幸福を感じる（どちらかというと幸せ） | 5. 幸福を感じない（不幸せ） |
| 3. どちらでもない（普通） | |

(2) あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか？

1～17のうちあてはまるものの番号を3つまで選び、○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 健康状況 | 10. 治安・防災関係 |
| 2. 家族関係 | 11. 子育て環境 |
| 3. 居住環境 | 12. 就業状況 |
| 4. 自由な時間、充実した余暇 | 13. 地域コミュニティとの関係 |
| 5. 家計の状況 | 14. 教育環境 |
| 6. 友人関係 | 15. 社会貢献 |
| 7. 自然環境 | 16. 地域の歴史・文化 |
| 8. 仕事のやりがい | 17. その他 |
| 9. 職場の人間関係 | |

【「その他」を選択した方は重視している項目を別紙お書きください。】

2 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

(1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 2. どちらかといえば住みやすい | 5. 住みにくい |
| 3. どちらともいえない | |

【「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」とお感じになる理由をご自由にお書きください。】

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 現在の住所にずっと住み続けたい | 4. いずれは市外に住みたい |
| 2. 市内の別の地域に住みたい | 5. 住みたくない |
| 3. どちらともいえない | |

【「いずれは市外に住みたい」または「住みたくない」とお考えになる理由をご自由にお書きください。】

3 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【1. 産業・仕事の未来】 （商業・工業・雇用・農林業分野）	よい	どちらかといえ よい	どちらかといえ 悪い	不満	わからない
1. 地域産業 地域の中小企業の事業承継 ※1 やM & A ※2 をはじめ、産業の新陳代謝や持続的発展など活性化が図られているか ※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収	5	4	3	2	1
2. 起業支援 創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1
3. 産業創出・企業誘致 研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー ※3 や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか ※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1
4. 雇用・就労 市内企業の安定的な雇用があり、やりがいを持って就労できる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1
5. 農林業 農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1
6. 特産品ブランド化 食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1
【1. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よい	どちらかといえ ばよい	どちらかといえ ば悪い	不満	わからない
7. 都市間交流・国際交流・関係人口 ※1 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか ※1 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者	5	4	3	2	1
8. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光のまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
9. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
10. 観光 観光誘客や観光資源の活用及びコンベンション ※2 の誘致により国内、インバウンド ※3 の観光客等が増加しているか ※2 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等 ※3 入ってくるものという意味から転じて、外国（区域外）から訪れる旅行を指す。 対義語：アウトバウンド	5	4	3	2	1
11. シティプロモーション ※4 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、交流人口増加や移住・定住の促進が図られているか ※4 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法	5	4	3	2	1
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よい	どちらかといえ ばよい	どちらかといえ ば悪い	不満	わからない
12. 子育て 安心して生み育てる環境が整っているか	5	4	3	2	1
13. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1
14. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1
15. 学校教育 子どもたちの「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育成するために、どの子どもも思う存分学べる教育環境の整備・充実が図られているか	5	4	3	2	1
16. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【IV. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)		よい	どちらかといえ	どちらかといえ	不満	わからない
17. 市民協働 ※1						
市民誰もが、知識や経験、個性を生かし、様々な社会参加ができる機会や場があるか	5	4	3	2	1	
※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの長所を生かし役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと						
18. 地域コミュニティ						
町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1	
19. 広聴広報						
市政に関する情報の公開や市民からの意見・提案の募集、市民参加のイベントなど市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1	
20. スポーツ・文化・芸術						
多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1	
21. 生涯学習						
生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1	
22. 地域福祉						
地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1	
23. 高齢者福祉						
介護予防対策や介護サービスの充実、質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1	
24. 障がい者福祉						
障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1	
25. 健康づくり						
生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1	
26. 医療						
必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1	
27. 男女共同参画						
家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1	
【IV. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【V.暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)		よ い	ど も か い え	ど も か い え	不 満	わ か ら な い
28. 環境活動 温室効果ガス排出量の削減に向けた普及啓発等、環境負荷が少ないまちづくりへの取組みが進んでいるか		5	4	3	2	1
29. 3R ※1 (資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取組みが進んでいるか ※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再使用)」「Recycle (再生利用)」の頭文字をとった言葉		5	4	3	2	1
30. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー ※2 の普及に向けた取組みが進んでいるか ※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと		5	4	3	2	1
31. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか		5	4	3	2	1
32. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができていますか		5	4	3	2	1
33. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができているか		5	4	3	2	1
34. ユニバーサルデザイン ※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取組みが進んでいるか ※3 障がいの有無や年齢、言語、性別などの違いに関わらず、はじめからできるだけ多くの人が使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと		5	4	3	2	1
35. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか		5	4	3	2	1
36. 計画的な都市づくり 「こおりやま広域圏」の玄関口として、中心市街地の活性化や地域特性を活かした魅力的なまちとなっているか		5	4	3	2	1
37. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか		5	4	3	2	1
【V.暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・ 復興、創生の更なる推進)		よ い	ど も よ い	ど も よ い	不 満	わ か ら な い
38. 行政経営 ICT ※1 の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術		5	4	3	2	1
39. セーフコミュニティ ※2 安全・安心なまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動を推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、地域住民や団体、行政等による連携・協働により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと		5	4	3	2	1
40. 連携中枢都市圏構想 ※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想		5	4	3	2	1
41. SDGs ※4 2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの取組みが進んでいるか ※4 SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。		5	4	3	2	1
42. DX推進 行政手続きのオンライン化、キャッシュレス化などをはじめとした行政のDXが推進されているか		5	4	3	2	1
43. 復興、創生の更なる推進 内部被ばく検査や自家消費野菜等の放射能検査などの健康管理が図られているか また、郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等により風評の払しょくが図られているか		5	4	3	2	1
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

4 郡山市のこれからの取組みについて

現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、特に重要と思われるものの番号を1～43から5つ選び、その番号に○印をつけてください。

【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野) 1. 地域産業 2. 起業支援 3. 産業創出・企業誘致 4. 雇用・就労 5. 農林業 6. 特産品ブランド化 【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野) 7. 都市間交流・国際交流・関係人口 8. 歴史・文化遺産 9. 音楽のまちづくり 10. 観光 11. シティプロモーション 【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野) 12. 子育て 13. 乳幼児教育・家庭教育 14. 青少年健全育成 15. 学校教育 16. 地域学習 【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) 17. 市民協働 18. 地域コミュニティ 19. 広聴広報 20. スポーツ・文化・芸術 21. 生涯学習 22. 地域福祉 23. 高齢者福祉 24. 障がい者福祉 25. 健康づくり 26. 医療 27. 男女共同参画	【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) 28. 環境活動 29. 3R(資源の有効利用) 30. エネルギー 31. 自然環境 32. 防災 33. 防犯・交通安全・消費者対策 34. ユニバーサルデザイン 35. 交通・道路 36. 計画的な都市づくり 37. 住環境 【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興・創生の更なる推進) 38. 行政経営 39. セーフコミュニティ 40. 連携中枢都市圏構想 41. SDGs 42. DX推進 43. 復興・創生の更なる推進
--	--

5 気候変動対策（地球温暖化対策）について

近年、地球温暖化の影響によると考えられる豪雨や猛暑などの気象災害が、私たちの生活に深刻な影響を与えており、今後温暖化が進むと、そのリスクは更に高まると予測されています。

郡山市では、このような気候変動に対応したまちづくりを進めるため、2019年に「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を宣言し、地球温暖化の要因となる二酸化炭素（CO₂）等の温室効果ガスの削減に向け、様々な取組みを行っています。

今後の気候変動対策の参考とするため、以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

- （１）地球温暖化の影響による平均気温の上昇や豪雨災害の増加など、自然環境の変化についてどのように感じていますか？

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. かなり不安である | 4. 不安ではない |
| 2. 多少の不安を感じている | 5. どちらでもない |
| 3. あまり不安は感じていない | |

- （２）気候変動対策（二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの削減等）について、どのように感じていますか？

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 非常に関心がある | 4. 全く関心がない |
| 2. 多少関心がある | 5. どちらでもない |
| 3. あまり関心がない | |

- （３）あなたが日常生活の中で環境に配慮している取組みは何ですか？

あてはまる番号について全て選び、○印をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 近距離での移動や公共交通機関で行ける場所には、自動車は使わないようにしている |
| 2. テレビや照明などはこまめに消す |
| 3. 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社を選択している |
| 4. 服装を調整して過度な冷暖房に頼らないクールビス、ウォームビスを行っている |
| 5. 電化製品は省電力型のを優先して購入している |
| 6. 買い物をする際はエコバックを持参するようにしている |
| 7. プラスチックごみが出る商品を買わないようにしている |
| 8. 食材や食品を食べきれぬ分だけ購入するなど、食べ残しがでないよう心がけている |
| 9. 資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている |
| 10. シャワーなどの水を出しっぱなしにしない |
| 11. 日常的な使用や災害時に備え自宅に太陽光パネルや蓄電池を設置する |
| 12. 高断熱・高気密な住宅の購入や、住宅の断熱リフォームをする |
| 13. 食材を選ぶときはできるだけ地元のものを選ぶようにしている |
| 14. テレワークを実施している |
| 15. フリーマーケットやシェアリングを活用している |
| 16. 車を購入する際は電気自動車（EV）や水素燃料電池自動車（FCV）を購入する |
| 17. 特にしていない |

- (4) より良い環境づくりを進めるために、郡山市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか？

あてはまる番号を3つ選び、○印をつけてください。

【気候変動に対応するレジリエントなまちづくり※1】

1. 省エネルギーに関する取り組み
2. 次世代自動車の普及に関する取り組み
3. コミュニティバスなど公共交通機関の充実
4. 太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの導入・推進
5. エネルギーの地産地消※2に関する取り組み
6. 水素社会実現※3に向けた取り組み
7. 自然災害に強い安全なまちづくり

【資源が循環する持続可能なまちづくり】

8. プラスチックなどのリサイクルの推進
9. 食品ロスを含むごみの減量化

【多様な生物が生息し自然と共生するまちづくり】

10. 外来種※4対策や貴重な野生動植物などの保護
11. 森林の保全や公園整備などの緑化に関する取り組み

【きれいな水や空気が守られ安全・安心に暮らせるまちづくり】

12. 大気や水質、騒音や悪臭などの公害対策

【環境を思いやる人がたくさんいるまちづくり】

13. 環境教育（学校や地域などにおける環境学習の充実）
14. 環境に関する情報の収集や提供
15. 市民や事業者による環境活動への支援
16. 環境への取り組みを称賛する表彰制度

【新しい生活様式に対応したDXによる環境施策の推進】

17. デジタル技術の活用による効率的な行政サービスの提供

※1 パンデミックや災害の状況下でも社会が停滞しにくく、短時間での回復・復興が可能なまちを実現すること。

※2 電力などのエネルギーを地域で創り、地域内で消費する仕組み。

※3 水素を主要なエネルギーとして日常生活で利用する社会。

※4 人為的な移動により、その生物本来の自然分布域外に生育または生息する生物種（国内外由来両方含む）。そのうち、様々な被害を及ぼす恐れのあるものが「侵略的外来種」、法律で指定された国外由来のものが「特定外来生物」である。

6 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別＜性自認は？＞ (あてはまる番号1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

(2) 年齢 (あてはまる番号1つに○)

1. 18歳～19歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	6. 60歳～69歳
3. 30歳～39歳	7. 70歳以上
4. 40歳～49歳	

(3) 職業 (あてはまる番号1つに○)

1. 農業	5. 主婦・主夫
2. 給与所得者	6. 学生
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイトなど	8. その他

(4) 郡山市での居住年数 (あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	4. 10～19年
2. 3年未満	5. 20～29年
3. 3～9年	6. 30年以上

(5) 居住形態 (あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家	4. 社宅、公舎など
2. 民間の借家・アパート	5. 間借、同居、寮など
3. 公営住宅	

(6) 現住所の直前に住んでいたところ (あてはまる番号1つに○)

1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	4. 東京圏 ※1
2. 郡山市内の別の地域	5. その他 ※2 ()
3. 郡山市外で福島県内	
※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 ※2 福島県、東京圏以外の居住地	

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きします。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか？ (あてはまる番号全てに○)

1. 生まれ育った場所だから	11. 病院・医院が近くにあるから
2. 自分や家族の持ち家だから	12. 住まいの周辺が静かだから
3. 寮や社宅に住むから	13. 自然環境が身近にあるから
4. 親や子、親族、友人などがいるから	14. まちなみや景観がよいから
5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから	15. 賑わいや活気があるから
6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから	16. 犯罪が少ないと感じているから
7. 日ごろの買い物などが便利だから	17. 街のイメージがよいから
8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから	18. 郡山が好きだから
9. 学校などの教育環境がよいから	19. 市民の気質や感性が自分と合うから
10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから	20. その他 ()

(8) お住まいの地域 (あてはまる番号1つに○)

1. 旧郡山東部 (芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など)
2. 旧郡山西部 (駅前・大島・久留米・葉根・開成・小山田地区など上記地区以外)
3. 富田
4. 大槻
5. 安積
6. 三穂田
7. 逢瀬
8. 片平
9. 喜久田
10. 日和田
11. 富久山
12. 湖南
13. 熱海
14. 田村
15. 西田
16. 中田

◆市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。◆

以上で、質問は終わりです。皆さまからいただきました貴重なご回答・ご意見等は、郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただきありがとうございました。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いのうえ、切手を貼らずに**5月28日(土)**までに、郵便ポストに投函してください。

調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2022 年度 市民意見リーダー
調査結果報告書

令和 4 年 9 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail:kocho@city.koriyama.lg.jp